

2024.
7-8
July August

ふ く お か

県薬会報

第127回定時総会開催

<視 点>

A I時代の薬剤師
福岡県薬剤師会副会長 宮谷 英記

<理事会・地区連絡協議会>

第580回理事会
第1回地区連絡協議会

<審査ニュース254号>

請求レセプトの一次審査における
審査委員会の疑義について

<常務理事会>

第1回常務理事会
第2回常務理事会

<医薬品情報>

健康に配慮した飲酒に関する
ガイドライン

<研 修>

薬学研究よもやま話 第67回
新規発症糖尿病および血糖値悪化の
診断に対するスタチン治療の影響：
個々の参加者データのメタ解析



〈視 点〉	
A I 時代の薬剤師.....	福岡県薬剤師会副会長 宮谷 英記… 1
〈常務理事会〉	
第1回常務理事会.....	2
第2回常務理事会.....	4
〈理事会〉	
第580回理事会	6
〈地区連絡協議会〉	
第1回地区連絡協議会.....	9
〈委員会の動き〉	
第2回広報委員会.....	12
第1回地域医療連携委員会.....	12
第1回総務・組織会員委員会.....	12
生涯学習委員会（第1回）・県学術大会実行委員会（第1回）合同会議	12
第1回災害・感染対策委員会.....	13
第1回医療保険委員会.....	13
第3回広報委員会.....	13
第2回D I 委員会.....	13
第2回薬局ビジョン推進委員会.....	13
第2回災害・感染対策委員会.....	13
〈特別寄稿〉	
在宅の医療・介護現場における患者等からの暴力・ハラスメント対策について.....	14
〈話 題〉	
令和6年度受賞者一覧表.....	15
〈総 会〉	
令和5年度決算承認 第127回公益社団法人福岡県薬剤師会定時総会開催	17
第127回福岡県薬剤師会定時総会 会長演述	18
〈第127回定時総会〉	
第127回（令和6年度）公益社団法人福岡県薬剤師会定時総会	19
〈医薬品情報〉 No.509	
薬事情報センターに寄せられた質疑・応答の紹介（2024年4月・5月）	80
日本版抗コリン薬リスクスケール.....	83
エンタカボン製剤の使用による健康影響評価.....	85
新医薬品の薬価基準追補収載.....	86
報告品目等の薬価基準追補収載.....	94
後発医薬品の薬価基準追補収載.....	96
公知申請が承認された適応外薬の保険適用.....	96
医薬品・医療機器等安全性情報 No.409（概要）	97
医薬品・医療機器等安全性情報 No.410（概要）	99
定期購読雑誌の紹介.....	100
〈研 修〉	
薬学研究よもやま話 第67回.....	110
〈委員会報告〉	
令和6年度スタッフのための薬局業務研修会.....	116
「学会発表スキルアップセミナー」－事例報告・症例報告にチャレンジ！－.....	117
令和6年度福岡県総合防災訓練.....	118
〈地区だより〉	
令和6年度福岡県総合防災訓練.....	田川薬剤師会… 119
〈図書斡旋〉	
保険調剤Q&A 令和6年版	129
保険薬局Q&A 令和6年版	129
ハイリスク薬チェックシート第5版.....	129
〈日本薬剤師会学術大会〉	145



A I 時代の薬剤師

福岡県薬剤師会副会長 宮谷 英記

令和4年12月31日現在における全国の届出「薬剤師数」は323,690人で「男」124,183人（総数の38.4%）「女」199,507人（同61.6%）となっており人口10万対薬剤師数は259.1人と前回に比べ3.9人増加しています。薬剤師人数そのものは増加傾向にありますが薬剤師不足に悩まされている薬局は多くあります。また、薬局の利益は減り続け当然、どこかを削らなければなりません。削る対象となりやすいのが人件費であり業務量が増えているにも関わらず薬剤師の人員を削られてしまうこととなります。削られた分を補い社会的なニーズも高い薬局薬剤師の対人業務を安価で推進するためには、薬局DXをより一層進めていく必要があります。現状の薬局業務では処方箋の確認や調剤、監査や疑義照会、服薬指導などに多くの時間を取られてしまいます。薬局DXを推進すればこれらの割合を少なくし調剤後のフォローや健康サポート、OTC販売などに割く時間を増やすことができます。具体的に薬局DXを推進するためには重複投薬や併用禁忌のチェックを自動化、処方や調剤情報を把握し丁寧な服薬指導実施、ICTの活用による服薬指導の効率化、オンライン服薬指導を実施しアドヒアランス向上、データのクラウド管理を活用し在宅業務を効率化するなど多岐に渡ります。データのクラウド管理を行うことで薬局だけでなく、出先でも自宅でも薬歴を確認できるので仕事を効率化できます。分包機、水剤分注機など資金さえあればすべての調剤プロセスを自動化することも可能です。これらの分野においても高性能な監査システムが普及し薬剤師を強力にサポートしており、AI登場を待つまでもなくすでに機械化や自動化が進んでいます。最近よく耳にするようになったAIですが、まるで人間のよ

うに何でも出来る汎用型人工知能の誕生には、まだ数十年は必要だといわれています。今後、薬剤師業務もAIへの移行が進んでいくと予想されますが薬剤師の中心的業務である調剤業務における疑義照会を考えてみると処方せん鑑査は記載もれ、間違いなどは勿論、用法用量や相互作用などについても薬剤師の知識をもって正確にチェックしなければなりません。誤りや疑わしい箇所がある場合は、処方した医師に疑義照会をする必要があります。内容チェック自体は豊富なデータ認識を正確に行えるAIのほうに得意なのですが、疑義照会の相手は人間である医師ですから、今後もAIに任せることはできません。どんなに高性能なAIが登場しても患者ごとに異なる性格や生活環境に食生活、患者があえて言おうとしない情報、言いたくない内容などを会話の中から導き出すことはできませんし声や表情、行動などからのアピールや体調の変化に気づくこともAIには不可能でしょう。服薬指導においては薬剤師のスキルに頼る以外ではなく、まだAIの出番はこないと思われます。AIは、業務フロー全体を監督して突発的な事態に対応することや、人とのコミュニケーションを苦手としています。これからの薬剤師には、患者の病態や服薬状況だけでなく、患者の周囲環境や性格を把握し体調や精神状態の変化まで気づけるようになることが求められます。薬剤師側から見れば多くの患者のなかの1人なのかもしれませんが、患者側からみればかかりつけ薬剤師は唯一無二の存在のはずです。薬局DXやAIはそんな薬剤師をサポートするためのすばらしいツールとなり上手に活用すれば心強い味方になります。患者から指名される薬剤師を目指すことで将来の薬剤師理想像が見えてくるはずです。

第1回常務理事会

日 時：令和6年4月18日(木) 14時
場 所：福岡県薬剤師会館 3階 第一会議室

出席者：原口会長、高木、宮谷、後藤、仙敷、成重各副会長、小田専務理事、山口、千代丸、中原、原口、窪田、竹野、田城、永嶋、岸田、濱各常務理事

【会長挨拶】

今年は「薬機法」の改正年となる。薬剤師の将来を考えると、現状維持では済まない時期を迎えていると認識している。法律の枠外でも、「eお薬手帳」や「健康サポート薬局」をはじめ、さまざまな取り組みについて、薬局が有する本質的な意義を踏まえ、地域住民への医薬品提供体制の構築を進める、という最終的な目的を見据えながら、本質的な議論を行っていく必要がある

【報告事項】

1 会務報告

介護給付費等審査委員会（成重副会長）

2 日薬の最近の動向

3 各委員会からの活動状況報告

〔総務・組織会員〕永嶋常務

・役員傷害保険加入

〔医療保険〕竹野常務

・薬局掲示物案内

・オンライン診療の利用手順を示した手引書等

・令和6年度診療報酬改定に係る施設基準届出チェックリストの送付

・薬局における自宅療養等の患者に対する薬剤交付支援事業の終了

〔地域医療連携〕濱常務

・令和6年度在宅医療に関する研修会

11月10日栄養や褥瘡をテーマに研修会を行う

〔薬局ビジョン推進〕田城常務

・CB College

継続して利用していただけるよう、登録者ごとの情報を踏まえ、ログインが少ない方を対象に利用を促進するメールを送るとともに、ヘビーユーザーには、どのような情報を求めているのか、改善が必要な点を聞きながら対応していく

〔薬局機能推進〕千代丸常務

・地域における夜間、休日の医薬品提供体制（在宅含む）の構築、リスト化および周知等

地区薬剤師会に対し、本会において検討を進めていることや、改めて具体的な内容を案内する旨を周知

内容については、日薬が示した項目をベースにしており、九州厚生局にも相談している

非会員に対する取り扱いについては、九州厚生局や県薬務課から情報を提供することを検討

・健康サポート薬局研修会A B

7月28日開催予定

・管理薬剤師の管理に関する帳簿

〔広報〕原口常務

・SNS投稿

・県薬会報

・SNSアカウント運用ポリシー

理事会で承認された運用ポリシーの記載

のうち、「Twitter」の表記を「X」に変える必要があるため、次回の理事会に諮る
〔薬学教育〕岸田常務

- ・2024年度マッチング（ふるさと実習含）
各ブロックでの振り分け人数報告
- ・早期臨床体験

〔災害・感染対策〕山口常務

- ・薬局BCP
- ・石川県薬主催の能登半島地震報告会（4月21日）

2千円の参加費は、被災地の薬局の復興に役立てることになっている。積極的な参加をお願い

〔環境衛生・学校薬剤師〕中原常務

- ・令和6年度 県立学校環境検査
ここ数年で、学校の統廃合や新設などの動きがあり、把握したら、県薬へ連絡をいただきたい。プールの検査を早期に取り組んでいく
- ・二酸化炭素検知管希望調査
- ・令和6年度不正大麻・けし撲滅運動
- ・薬物乱用防止教育の推進
令和4年度の開催調査を見ると、私立学校や国公立大学附属での実施率が低い傾向がある

〔D I〕山口常務

- ・今年度の研修会
アンチ・ドーピング研修やリテラシー研修会の開催を予定

〔医療D X推進〕永嶋常務

- ・研修プラットフォーム

4 令和6年度地域医療介護総合確保基金 （小田専務）

薬剤師確保・養成事業

病院薬剤師中心の取り組みが必要になる

1. 病院薬剤師確保のための就職支援セミナー
2. 病院薬剤師確保定着事業
3. 薬剤師キャリア形成機会損失補填事業

〔協議事項〕

- 1 確認事項
 - ・後援等依頼 3件 承認
 - ・講師派遣依頼 3件 承認
- 2 台湾大地震義援金
- 3 CB Collegeのコンテンツ
- 4 福岡県薬剤師研修協議会委員の追加
- 5 令和5年度事業報告
 - ・重点事業報告
災害薬事コーディネーターの派遣に係る記載を修正することとなった。
- 6 第127回定時総会（6月23日）
報告、議案

第2回常務理事会

日 時：令和6年5月23日(木) 14時
場 所：福岡県薬剤師会館 3階 第一会議室

出席者：原口会長、高木、後藤、仙敷、成重各副会長、小田専務理事、西村、山口、千代丸、中原、原口、窪田、竹野、田城、永嶋、岸田、濱各常務理事

【会長挨拶】

薬剤師会としての活動については「薬剤師が将来的にどういう役割を果たすべきか」という視点に基づき、現場を踏まえた意見や発言を行うことが重要である。ルーチンとしてやるべき部分にきちんと対応しながら、変化が求められる部分に、不断の改善を行っていくことが必要

【報告事項】

1 会務報告（専務）

2 日薬の最近の動向

3 各委員会等からの第57回日本薬剤師会学術大会演題登録状況

・薬局ビジョン推進委員会

「使用済医薬品ボトルの回収・再資源化に関する資源循環モデル実証事業－薬局におけるSDGsへの取り組み－」

4 各委員会からの活動状況報告

〔総務・組織会員〕永嶋常務

・ネームプレート作成終了

作成機器が古くなっており、故障した場合の修理対応が困難であるため、ネームプレートの作成を終了する

〔地域医療連携〕濱常務

・高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施事業
令和2年度から開始された標記事業につ

いて、令和6年度からは、県内60の全市町村で実施予定。各市町村や関係団体から地区薬に相談があれば、適切に対応を行うよう文書を発出

・訪問服薬指導事業アンケート結果

後期高齢者医療広域連合が取りまとめた令和5年度の結果報告

〔薬局ビジョン推進〕田城常務

・緊急避妊薬に係る環境整備のための調査事業

日薬から薬局の追加について依頼があり、対応を検討

・令和6年度禁煙相談員養成研修

・一般用医薬品販売等に関する実態調査

・CB College

半年コースの方が契約を続けてもらえるよう、ヘビーユーザー対象のインタビューにより、コンテンツの見直しを進めていく

〔薬局機能推進〕千代丸常務

・福岡県内の薬局機能別情報リスト

会員、非会員ごとの薬局機能別情報リスト掲載件数の現状報告。今後継続的にリストの更新を進めていく

〔広報〕原口常務

・SNS投稿

・県薬会報

〔生涯学習〕窪田常務

・令和6年度研修会開催支援業務

日本薬剤師研修センターへの支援申請状況

- ・令和6年度全国薬剤師研修協議会実務担当者会議
- ・第8回薬剤師生涯学習達成度確認試験
- ・令和6年度薬剤師のための臨床腫瘍薬学セミナー (JASPO)

〔災害・感染対策〕山口常務

- ・令和6年度福岡県総合防災訓練(6月2日) 田川市他で実施する訓練で、県薬と福岡市薬のモバイルファーマシー計2台が出勤し、県庁と緊密に連携した訓練を行う

〔環境衛生・学校薬剤師〕中原常務

- ・令和6年度県立学校環境検査(揮発性有機化合物)
- ・令和6年度県立学校環境検査(ダニ又はダニアレルゲン)
- ・令和6年度県立学校環境検査(プール水質検査)
- ・令和6年度県立学校環境検査(二酸化炭素)
- ・令和6年度文部科学省補助事業 学校におけるプールに関する保健衛生管理研修会(オンデマンド配信)
- ・令和6年度農薬危害防止運動の実施

〔医療DX推進〕永嶋常務

- ・福岡県電子処方箋導入促進費補助金の申請
- ・デジタル推進委員 追加申請が開始されたことを各地区薬に周知

〔学術〕西村常務

- ・令和6年度学会発表スキルアップセミナー(5月19日)
- ・県薬会報における抗がん剤治療レジメンの紹介

〔薬薬連携推進〕西村常務

- ・入院支援ポスター
- ・令和6年度薬局薬剤師と病院薬剤師の合同ワークショップ

〔薬と健康の週間実行〕田城常務

- ・くすりと健康フェア2024 10月19日ソラリアゼファで開催予定

〔県学術大会実行〕窪田常務

状況報告

〔地域薬学ケア専門薬剤師研修調整〕西村常務

状況報告

5 令和6年度地域医療介護総合確保基金

キックオフミーティング開催

〔協議事項〕

1 確認事項

- ・後援等依頼 4件 承認
- ・講師派遣依頼 2件 承認

2 福岡県薬剤師会 講師謝礼金規程 (永嶋常務)

3 第127回定時総会

- ・タイムスケジュール
- ・第127回定時総会議案および付議事項内容

4 令和5年度会計報告(監査報告)

5 第104回日本薬剤師会定時総会ブロック代表質問案

第 580 回 理 事 会

日 時：令和 6 年 5 月 27 日(月) 14 時

場 所：福岡県薬剤師会館 4 階 大ホール

出席者：原口会長、高木、宮谷、後藤、仙敷、成重各副会長、小田専務理事、山口、千代丸、中原、原口、窪田、竹野、田城、永嶋、岸田、濱各常務理事、江川、石井、岡村、馬場、石橋、永原、藤浦、小林、吉野、高橋典、立山、高瀬、清水、杉岡、松田、連石、高橋俊各理事、篠原、満生各監事

【会長挨拶】

診療報酬改定では、地域住民向けの薬局情報リストをホームページに公開することになっており、本会では、関係委員会において準備を進め、適切に対応していただいている。当会は、非会員からの経費を取っていないが、他都道府県の対応はさまざまな状況となっている。そもそも何のために行われるものか、地域住民に地域の薬局情報を適切に公開していくことが第一に求められる
変化の激しい現状にあって、薬剤師・薬局のビジョンの明確化が大変重要である

【報告事項】

1 会務報告

- ・福岡県「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会（宮谷副会長）

2 日薬の最近の動向

3 退会に伴う委員辞任

後任の補充は行わない

4 福岡県薬剤師会会長表彰受賞者

5 各委員会等からの第57回日本薬剤師会学術大会演題登録状況

- ・薬局ビジョン推進委員会
「使用済医薬品ボトルの回収・再資源化に関する資源循環モデル実証事業－薬局におけるSDGsへの取り組み報告－」

6 各委員会からの活動状況報告

〔総務・組織会員〕永嶋常務

- ・ネームプレート作成終了
作成機器が古くなっており、故障した場合の修理対応が困難であるため、ネームプレートの作成を終了する

〔地域医療連携〕濱常務

- ・高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施事業

令和 6 年度からは、県内 60 の全市町村で実施予定。各市町村や関係団体から地区薬に相談があれば、適切に対応を行ってほしい

- ・訪問服薬指導事業アンケート結果
後期高齢者医療広域連合が取りまとめたアンケートの結果報告

- ・令和 6 年度在宅医療に関する研修会
11 月 10 日、褥瘡ケアで著名な古田勝経氏を迎え、開催予定

〔薬局ビジョン推進〕田城常務

- ・緊急避妊薬に係る環境整備のための調査事業

厚生労働省Webサイトで調査事業結果が公表されている

- ・令和6年度禁煙相談員養成研修

8月25日開催予定

- ・一般用医薬品販売等に関する実態調査

3年ぶりに実態調査を今年6月から行うので、協力を願う

- ・CB College

半年コースの人に契約を続けてもらえるよう、ヘビーユーザーのインタビューにより、コンテンツの見直しを進めていく

〔薬局機能推進〕千代丸常務

- ・福岡県内の薬局機能別情報リスト

会員、非会員ごとの薬局機能別情報リスト掲載件数の現状報告。今後継続的に、掲載を進めていく予定

掲載スケジュールは引き続き検討

〔広報〕原口常務

- ・SNS投稿

- ・県薬会報

〔生涯学習〕窪田常務

- ・令和6年度日本薬剤師研修センター研修会開催支援業務

- ・令和6年度全国薬剤師研修協議会実務担当者会議（4月24日）

研修会開催申請の変更点等

- ・第8回薬剤師生涯学習達成度確認試験

7月21日開催予定

- ・令和6年度薬剤師のための臨床腫瘍薬学セミナー（JASPO）（5月26日）

〔薬学教育〕岸田常務

- ・2024年度マッチング（ふるさと実習含）

県内4ブロックごとの各大学のマッチング振り分け人数が合計350人

- ・早期臨床体験

〔災害・感染対策〕山口常務

- ・令和6年度福岡県総合防災訓練（6月2日）

田川市他で実施される訓練で、県薬と福岡市薬のモバイルファーマシー計2台が出動し、県庁と緊密に連携した訓練が行われる

- ・薬局BCP

手順書を近日公開

〔環境衛生・学校薬剤師〕中原常務

- ・令和6年度県立学校環境検査（揮発性有機化合物）

- ・令和6年度県立学校環境検査（ダニ又はダニアレルゲン）

- ・令和6年度県立学校環境検査（プール水質検査）

- ・令和6年度県立学校環境検査（二酸化炭素）

- ・令和6年度文部科学省補助事業

学校におけるプールに関する保健衛生管理研修会（オンデマンド配信）

〔医療DX推進〕永嶋常務

- ・福岡県電子処方箋導入促進費補助金の申請

県から示された申請方法や留意事項等

- ・デジタル推進委員

マイナンバーカードの健康保険証利用の促進に向けた委員の追加申請が開始

〔学術〕後藤副会長

- ・令和6年度学会発表スキルアップセミナー（5月19日）

- ・県薬会報における抗がん剤治療レジメンの紹介

〔薬薬連携推進〕後藤副会長

- ・入院支援ポスター

- ・令和6年度薬局薬剤師と病院薬剤師の合同ワークショップ

昨年度の開催状況報告

〔薬と健康の週間実行〕田城常務

- ・くすりと健康フェア2024

10月19日ソラリアゼファにおいて開催予

定

〔県学術大会実行〕窪田常務

状況報告

〔地域薬学ケア専門薬剤師研修調整〕後藤副会長

状況報告

〔議事運営〕小田専務

5月28日開催

7 令和6年度地域医療介護総合確保基金

関係委員会によるキックオフミーティング開催

〔協議事項〕

1 確認事項

・後援等依頼 1件 承認

2 会員入会審査および会員名簿登録情報の変更（令和6年2月～4月）

了承

3 薬事情報センター運営委員会の委員交代

了承

4 福岡県薬剤師会 講師謝礼金規程（永嶋常務）

了承

5 SNSアカウント運用ポリシーの改定（原口常務）

了承

6 第127回定時総会（小田専務）

・タイムスケジュール

・役割分担

・第127回定時総会議案および付議事項内容
了承

7 令和5年度会計報告（監査報告）（永嶋常務）

篠原監事、満生監事から決算書類が正確に処理されていることを確認した旨の報告

第1回地区連絡協議会

日時 令和6年6月6日(木) 14時

場所 福岡県薬剤師会館 4階 大ホール

【三 役】 原口会長、高木、宮谷、後藤、仙敷、成重各副会長、小田専務理事

【常務理事】 西村、山口、千代丸、原口、窪田、竹野、田城、永嶋、岸田、濱各常務理事

【地 区 薬】 福岡市、(東●・博多・中央・早良・城南・西・南)、宗像、粕屋、筑紫、糸島、朝倉、久留米三井、八女筑後、浮羽、柳川山門、大川三潞、大牟田、遠賀・中間、若松、八幡、戸畑、小倉●、門司、京都、豊前築上、飯塚、直方鞍手、田川●

【会長挨拶】

6月4日に骨太の方針の骨子案が示された。詳しい内容が示されるのは、これからとなるが、いくつか重要な点が含まれている。

医療DXの推進支援については、省庁横断的に取り組みが進んでいる中で、薬業の分野が取り残されることに対する危惧を持っている。大きな変革が見込まれるタイミングで、医療DXに取り組まないリスクの方が大きい。これから人口減少が年々進んでいく中で、薬局がこれまでと同じサービスを効率的、効果的に続けていくためには、DX推進が必要であり、議論を早急に進めていかないといけない。今年は、薬機法の改正が行われる予定となっている。古い用語の文言見直しのみならず、医薬品の安定的供給に力点を置いた関係規定の見直し、認定薬局と健康サポート薬局との整理など多くの課題が残されている

○新会長挨拶 ※敬称略

・戸畑薬剤師会 会長 高橋 弘之
安田前会長の後を引き継ぎ、会長に就任した。地域住民の健康増進に貢献し、会の組織強化、バランスのとれた組織運営を行っていきたい

【報告・伝達事項】

1 会務報告

- ・福岡県「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会(宮谷副会長)
- ・第23回健康21世紀福岡県大会実行委員会(高木副会長)

2 日薬の最近の動向

3 福岡県薬剤師会会長表彰受賞者

4 各委員会からの報告および伝達

〔総務・組織会員〕永嶋常務

- ・ネームプレート作成終了
作成機器が古くなっており、故障した場合の修理対応が困難であるため、ネームプレートの作成を今月末で終了する。今後はHPKIカードの活用を依頼
- ・福岡県薬剤師会 会員アプリ登録状況
積極的な登録を依頼

〔医療保険〕竹野常務

- ・福岡県おくすり適正使用促進事業
患者自身が視覚的に薬剤を把握でき、約33%が減薬を希望し、そのうち約23%で実際に減薬が実施された

〔地域医療連携〕濱常務

- ・高齢者の保健事業と介護予防の一体的な

地区連絡協議会

実施事業

令和6年度からは、県内60の全市町村で実施予定。各市町村や関係団体から地区薬に相談があれば、適切に対応を行ってほしい

- ・訪問服薬指導事業アンケート結果
後期高齢者医療広域連合が取りまとめたアンケートの結果報告
- ・令和6年度在宅医療に関する研修会
11月10日褥瘡ケアで著名な古田勝経氏を迎え、開催予定

〔薬局ビジョン推進〕田城常務

- ・緊急避妊薬に係る環境整備のための調査事業
厚生労働省のホームページに調査事業結果が公表されている
- ・令和6年度禁煙相談員養成研修
8月25日開催予定
- ・一般用医薬品販売等に関する実態調査
3年ぶりの実態調査を6月から行っている
- ・第23回健康21世紀福岡県大会

〔薬局機能推進〕千代丸常務

- ・福岡県内の薬局機能別情報リスト
会員、非会員ごとの薬局機能別情報リスト掲載。これまでのところ特段の問題なくリストが登録されている。各地区薬Webサイトに適宜リンク可能

〔広報〕原口常務

- ・SNS投稿
- ・県薬会報
例年7-8月号で行っていた新会長の紹介は、9-10月号にまとめて掲載

〔生涯学習〕窪田常務

- ・令和6年度薬剤師のための臨床腫瘍薬学セミナー（JASPO）

〔薬学教育〕岸田常務

- ・実務実習受け入れ施設向け説明

（5月9日）

- ・2024年度マッチング（ふるさと実習含）
県内4ブロックごとの各大学のマッチング振り分け人数が合計350人
- ・令和6年度ワークショップ開催日程
9月、来年1、2月でリアル開催予定
- ・早期臨床体験
関係大学からの依頼を受けマッチング〔災害・感染対策〕山口常務

- ・令和6年度福岡県総合防災訓練

（6月2日）

田川市他で実施された訓練において、県薬と福岡市薬のモバイルファーマシー計2台が出動し、県庁と緊密に連携した訓練が行われた

- ・薬局BCP
薬局BCPワーキングにおいて、災害対策編を取りまとめ、県薬Webサイトからダウンロードして使えるようにした

〔環境衛生・学校薬剤師〕山口常務

- ・令和6年度県立学校環境検査（揮発性有機化合物）
- ・令和6年度県立学校環境検査（ダニ又はダニアレルゲン）
- ・令和6年度県立学校環境検査（二酸化炭素）
- ・令和6年度県立学校環境検査（プール水質検査）

〔D I〕山口常務

- ・情報リテラシー研修会およびアンチ・ドーピング研修会を計画中

〔医療DX推進〕永嶋常務

- ・福岡県電子処方箋導入促進費補助金の申請
- ・デジタル推進委員
マイナンバーカードの健康保険証利用の促進に向けた委員の追加申請が開始

- ・研修プラットフォーム 地区薬剤師会利用
朝倉、久留米三井など4地区から申し込みあり

〔学術〕西村常務

- ・令和6年度学会発表スキルアップセミナー（5月19日）

〔薬薬連携推進〕西村常務

- ・令和6年度薬局薬剤師と病院薬剤師の合同ワークショップ
全体研修および4ブロックでワークショップを開催予定

〔薬と健康の週間実行〕田城常務

- ・くすりと健康フェア2024
10月19日ソラリアゼファで開催予定

〔県学術大会実行〕窪田常務

- ・第6回福岡県薬剤師会学術大会
令和7年2月16日開催予定

〔地域薬学ケア専門薬剤師研修調整〕西村常務
状況報告

【重点報告】

- 1 第127回定時総会（6月23日）
- 2 令和5年度会計報告（永嶋常務）
- 3 その他
福岡市薬剤師会 木原会長から、No Drug, Know Drugキャンペーンへの共催依頼に関して、関係地区薬に対して御礼が述べられた

❧ 委員会の動き ❧

会議録

第 2 回 広 報 委 員 会

日 時：令和 6 年 5 月 8 日(水) 15 時
場 所：福岡県薬剤師会館 第一会議室
出席者：宮谷副会長、小田専務理事、原口、
田城各常務理事、石井、高橋典、永原
各理事、生熊、清水、住本、隠塚各委
員、オブザーバー 藤永福岡県病院薬
剤師会常務理事

〔議題〕

1. 県薬会報 5 - 6 月号
2. フェイスブック
3. くすりのセミナー講師
4. 県民健康づくりセミナー
5. 連盟 SNS
6. ホームページアナリティクス

第 1 回 地 域 医 療 連 携 委 員 会

日 時：令和 6 年 5 月 9 日(木) 15 時
場 所：福岡県薬剤師会館 第一会議室
出席者：成重副会長、小田専務理事、濱、竹野
各常務理事、石橋、立山、竹下、
高橋俊各理事、蛭原、坂口、吉永、
田中宏、里村、川上、畠中、島田各委
員

〔報告〕

1. 令和 6 年度介護講座
2. 感染症の予防および蔓延防止のための対
策指針作成
3. 高齢者の特性を踏まえた保険事業ガイド
ライン第 3 版の公表

〔議題〕

1. 令和 6 年度薬剤師認知症対応力向上研修
2. 令和 6 年度在宅医療に関する研修会

第 1 回 総 務 ・ 組 織 会 員 委 員 会

日 時：令和 6 年 5 月 10 日(金) 15 時
場 所：福岡県薬剤師会館 第一会議室
出席者：仙敷副会長、小田専務理事、永嶋、
岸田各常務理事、石井、永原各理事、
佐藤、井上各委員

〔報告〕

1. 令和 6 年度定時総会までのスケジュール
2. Web による B 会員入会者数

〔議題〕

1. 総会付議事項の確認
2. ネームプレート作成終了時期
3. 令和 6 年度地域医療介護総合確保基金

生涯学習委員会（第 1 回）・県学術
大会実行委員会（第 1 回）合同会議

日 時：令和 6 年 5 月 15 日(水) 15 時
場 所：福岡県薬剤師会館 第一会議室
出席者：高木副会長、小田専務理事、窪田、
千代丸各常務理事、高瀬、井上、松田、
小林各理事、古賀友、林、因間、久保、
福原、松本皓各委員

〔報告〕

1. 令和 6 年度福岡県薬剤師研修協議会の委
員委嘱
2. 令和 6 年度病院診療所薬剤師研修会
3. 令和 6 年度研修会開催支援業務
4. 令和 5 年度専門領域セミナー

〔議題〕

1. 第 6 回福岡県薬剤師会学術大会
2. 令和 6 年度薬剤師のための臨床腫瘍薬学
セミナー (JASPO)
3. かかりつけ薬剤師機能強化研修サポート
計画
4. 公益財団法人日本薬剤師研修センター
5. 第 8 回薬剤師生涯学習達成度確認試験
6. 日薬ブロック代表質問
7. 第 83 回九州山口薬学大会 薬剤師生涯学習
担当者会議

※下線は Web 参加

第1回 災害・感染対策委員会

日 時：令和6年5月20日(月) 15時
場 所：福岡県薬剤師会館 第一会議室
出席者：原口会長、宮谷副会長、山口、永嶋各常務理事、江川、石橋、馬場各理事、小松、裕、田中聖、大石、關各委員、オブザーバー 立山、永原各理事、中原田川薬剤師会 会長、林薬務課監視係長

〔議題〕

1. 令和6年福岡県総合防災訓練
2. モバイルファーマシーの備品整備

第2回 D I 委員会

日 時：令和6年6月18日(火) 14時
場 所：福岡県薬剤師会館 第一会議室
出席者：仙敷副会長、山口、中原各常務理事、清水理事、坂井、小田各委員

〔報告〕

1. 第1回スポーツ医・科学委員会

〔議題〕

1. 情報リテラシーを高める研修会
2. アンチ・ドーピング研修会
3. 日本モーターボート競走会での講話

第1回 医療保険委員会

日 時：令和6年5月22日(水) 15時
場 所：福岡県薬剤師会館 第一会議室
出席者：高木副会長、小田専務理事、竹野、濱各常務理事、馬場、吉野、連石、岩光各理事、加藤、浦口、塘、内田、森重、花田、安中、宮坂、島田各委員

〔報告〕

1. 地区宛発信文書

〔議題〕

1. 第14回医療安全セミナーテーマ
2. 第49回保険薬局セミナー
3. 調剤報酬改定に伴う必読ハンドブック作成
4. 第83回九州山口薬学大会医療安全対策連絡協議会および医療保険協議会

第2回 薬局ビジョン推進委員会

日 時：令和6年6月25日(火) 15時
場 所：福岡県薬剤師会館 第一会議室
出席者：高木副会長、小田専務理事、田城、原口各常務理事、池田、藤浦、連石、高橋俊各理事、長迫、古賀義、田中聖、大場、新井各委員

〔議題〕

1. スタッフのための薬局業務研修会の反省
2. 禁煙相談員養成研修
3. 一般用医薬品販売等に関する実態調査

第3回 広報委員会

日 時：令和6年6月5日(水) 15時
場 所：福岡県薬剤師会館 第一会議室
出席者：宮谷副会長、小田専務理事、原口、田城各常務理事、石井、高橋典、永原各理事、生熊、清水、住本、隠塚各委員、オブザーバー 藤永福岡県病院薬剤師会常務理事

〔議題〕

1. 県薬会報7-8月号編集方針
2. フェイスブック
3. くすりのセミナー
4. 県民健康づくりセミナー
5. 連盟SNS
6. ホームページアナリティクス

第2回 災害・感染対策委員会

日 時：令和6年6月26日(水) 15時
場 所：福岡県薬剤師会館 第一会議室
出席者：小田専務理事、宮谷副会長、山口、永嶋各常務理事、池田、石橋、馬場各理事、小松、裕、田中聖、大石、關各委員、オブザーバー 立山、永原各理事

〔議題〕

1. 令和6年福岡県総合防災訓練 反省点
2. 9月の県薬 防災訓練
3. 災害支援薬剤師研修会、災害薬事Co研修会
4. 第83回九州山口薬学大会 災害対策協議会
5. モバイルファーマシーの備品整備



在宅の医療・介護現場における患者等からの暴力・ハラスメント対策について

福岡県保健医療介護部高齢者地域包括ケア推進課 課長 鈴木 茂男

福岡県薬剤師会の皆様におかれましては、日頃から福岡県の保健医療行政の推進に御理解、御協力をいただいていることに厚くお礼申し上げます。

さて、昨年3月に県内の在宅医療、介護管理者および従事者向けに実施した「在宅医療・介護現場における利用者等からの暴力・ハラスメント実態調査」において、包丁を突きつけられる等、直ちに警察に通報すべき生命の危機を感じたものを含み、調査に回答した従事者の38.5%に当たる926人の方がこれまでに暴力・ハラスメントを受けた経験があるという深刻な実態が明らかとなりました。

この実態を踏まえ、今年度から、在宅医療・介護従事者の安全を確保し、在宅医療・介護サービスの継続的で円滑な提供体制を構築することを目的として、在宅医療・介護現場における利用者等からの暴力・ハラスメント対策事業を実施することといたしました。

取り組みの第一段として、先月から、在宅医療・介護従事者やその管理者を対象とした「福岡県在宅医療・介護職員カスハラ相談センター」（参考1）を設置し、患者等からの暴力・ハラスメントに係る相談の受け付けを開始しました。特に、法的判断が必要な相談については、弁護士による法律相談も可能としております。

加えて、暴力・ハラスメントに対応する知識やスキルを習得していただくための研修をオンデマンド配信しております。従事者の研修にも活用できる内容となっておりますので、ぜひ受講してください。そのほかにも、対応マニュアルの作成や訪問時に外部SOSを発信するための安全対策機器導入等経費の補助等を実施することとしております。県のホームページ（参考2）に詳細を掲載しておりますので、暴力・ハラスメント防止のため、積極的な御活用をお願いいたします。

今後も、福岡県薬剤師会の皆様の御協力を賜り、在宅医療・介護の一層の推進に取り組んでまいります。

参考1 福岡県在宅医療・介護職員カスハラ相談センター

☎ 0120-111-309

平日 9:00~19:00（土日祝、12/29~1/3を除く）

WEB（以下URLもしくはQRコード）からもご相談いただけます

（URL：<https://wcan-media.com/fukuoka-consultation-center1/>）



参考2 福岡県ホームページ

その他の福岡県の取り組みは、福岡県庁ホームページに掲載しています

福岡県 在宅医療・介護 ハラスメント 検索



令和6年度受賞者一覧表

(福岡県薬剤師会会員分、敬称略)

福岡県薬剤師会会長賞

会員の部

古 賀 友一郎 (福 岡 市)	細 川 禎 久 (糸 島)
江 藤 良 典 (朝 倉)	山 口 信 也 (久留米三井)
山 本 晶 弘 (柳 川 山 門)	田 中 孝 一 (遠賀・中間)
工 藤 信 孝 (八 幡)	千代丸 康 重 (小 倉)
瀬 戸 秀 樹 (京 都)	箕 浦 宏 一 (飯 塚)
前 田 真 司 (直方鞍手)	中 原 学 (田 川)



令和6年度受賞者一覧表

(福岡県薬剤師会会員分、敬称略)

福岡県薬剤師会会長賞

会員（有功賞）の部

仲 上 恵 子 (福 岡 市)	富 永 計 久 (福 岡 市)
加 藤 正 秀 (福 岡 市)	神 屋 友 江 (粕 屋)
高 木 壽美子 (戸 畑)	

職員の部

荻 原 恵 美 (福 岡 市)	野 口 美 樹 (大 牟 田)
赤 松 敦 子 (若 松)	西小野 里 美 (若 松)
長 野 友 紀 (直方鞍手)	岡 田 薫 (田 川)
溝 上 梨 絵 (北九州市)	松 永 ゆかり (福 岡 県)
伊 藤 早 苗 (福 岡 県)	

地区薬剤師会の部（3地区）

一般社団法人 福岡市薬剤師会	一般社団法人 久留米三井薬剤師会
一般社団法人 遠賀・中間薬剤師会	



令和 5 年度決算承認 第127回公益社団法人福岡県薬剤師会定時総会開催

6月23日(日) 13時より、第127回公益社団法人福岡県薬剤師会定時総会が県内23地区薬剤師会、1職域薬剤師会から総定数110人の代議員のうち、出席代議員104人、書面表決による出席5人で、同会館にて開催された。総会では、令和5年度会務、事業報告、令和6年度予算など、報告5件と、令和5年度決算、令和7年度借入金限度額、会費および入会金、理事追加の4議案が、慎重なる審議を経て、賛成多数で議案通り承認された。議事詳細内容については、県薬会報9-10月号に掲載予定。





第127回福岡県薬剤師会定時総会 会 長 演 述

福岡県薬剤師会会長 原口 亨

福岡県薬剤師会第127回定時総会の開催にあたり、一言申し述べさせていただきます。

まず、代議員におかれましては総会にご出席いただきありがとうございます。また、平素より福岡県薬剤師会の各事業に格別のご理解とご支援を賜っておりますことに、心より深く御礼申し上げます。

さて、本年1月1日16時10分に、石川県能登地方においてマグニチュード7.6、最大震度7の地震が発生しました。地震による家屋倒壊や土砂災害、津波などにより、死者が200人を超えるなど、甚大な被害となりました。

本会は1月4日に支援を目的とした災害対策本部を設置し情報収集や支援体制の構築にあたるとともに、1月9日より支援薬剤師やモバイルファーマシーを派遣しました。派遣に際しては直接被災地での活動を担っていただいた方々とともに、後方支援としてその体制構築にご尽力いただきました全ての薬剤師および薬局関係者の皆様に感謝申し上げます。

自然災害には地域を問わず備える必要があります。引き続きモバイルファーマシーを中心とした災害対応に必要な資材等の整備、VPCS neoによる災害時の薬局在庫情報の共有、速やかな支援に向けた災害支援薬剤師の養成など、実効性のある体制整備を行ってまいります。

薬剤師会は、私たち薬剤師の結集と連携を促進し、薬剤師職能の発展と医療、健康の向上に貢献するために存在しています。私たちは日々、地域住民の健康と福祉を第一に考え、薬学的知見と情熱をもって薬剤師サービスを提供しています。

一方、私たちを取り巻く環境は常に変化しており、薬剤師の使命もより困難な課題に直面しています。医療DXの急速な進歩、地域住民の多様なニーズへの対応、法規制の変化など、私たち薬剤師は常に最新の情報を収集し、対応に必要な能力を高める必要があります。

特に、医療DXについては、これから数年間でいろいろな環境整備が行われます。電子処方箋やオンライン服薬指導は従来からの立地の競争優位が成立しない領域であり、従来からの薬局運営のモデルを大きく変化させる可能性があります。私たちは今までの薬剤師・薬局の業務と融合し、新たな価値創造にまで及ぶことを想定しつつ、本質的な薬剤師や薬

局の役割を考え対応していかなければなりません。

医療DX以外にもリフィル処方箋や調剤の外部委託、ポリファーマシーやフォーミュラリなど、薬剤師・薬局に関しては多くの新たな取り組みがなされております。私たちが薬剤師という専門性に基づく提言をおこなうためには、エビデンスとなりうる活動とともに、制度、政策の実現に向けたアプローチも非常に重要です。

これら多くの課題に対応していくため、私たち薬剤師会にはより一層の連携と協力が必要です。知識や経験を共有し、相互の成長を促進することで、より強力な組織として活動していく必要があります。あわせて、他の医療従事者、行政機関、地域住民や患者とのパートナーシップも非常に重要です。協働によってこそ、より良い薬剤師サービスを提供する環境を築いていくことが可能だと考えています。

薬剤師には、さらなる成長と発展の機会が待っています。薬剤師に与えられた使命に対し情熱を持ち続け、常に前向きな姿勢で行動することが重要だと考えています。

最後になりますが、会長に就任以来、会員各位のご理解とご協力をいただきながら、手段を目的化することなく、職能団体である薬剤師会が果たすべき役割は何かを考えつつ、会務に取り組んでまいりました。

薬剤師会の財政面への対応、新規事業の立ち上げ、緊急を要する案件への対応、学術大会、研修会等の開催、行政、他団体との連携や薬剤師や薬局に向けた政策の提案、実現など、進化し続ける医療へ対応するために役員、委員とともに活動を進めてまいりました。迅速な意思決定のもと、一定の活動と成果は上げられたものと思っております。

会員の皆様には、福岡県薬剤師会への引き続きのご支援とご協力をお願いするとともに、薬剤師・薬局が住民や患者から寄せられる期待に応え、地域に欠くことのできない存在であり続けるよう、個々の薬剤師として、また薬局や医療提供施設として、さらには地域に根ざした薬剤師会としてご尽力いただきますようお願い申し上げます。会長演述といたします。

第127回（令和6年度）公益社団法人福岡県薬剤師会定時総会

日 時：令和6年6月23日（日） 13：00
場 所：福岡県薬剤師会館
福岡市博多区住吉2-20-15

第3号 令和6年度事業計画の件
第4号 令和6年度収入支出予算の件
第5号 日本薬剤師会第102回定時総会・
第103回臨時総会報告

総 会 次 第

- 1. 開 会
- 2. 議長・副議長登壇挨拶
- 3. 会長演述
- 4. 来賓祝辞
- 5. 議 事
(1) 報 告

第1号 関係団体の令和5年度会務なら
びに事業報告の件
(県庁薬・国保組合事業概況報
告)
第2号 令和5年度会務ならびに事業報
告の件

- (2) 議 案
第1号 令和5年度決算承認の件
第2号 令和7年度借入金限度額決定の件
第3号 令和7年度会費および入会金決定
の件
第4号 理事追加選任の件
- 6. 閉 会

第127回 公益社団法人福岡県薬剤師会定時総会 付議事項

報告第1号 関係団体の令和5年度会務ならびに事業報告の件
(県庁薬・国保組合) 資料別冊

報告第2号 令和5年度会務ならびに事業報告の件
一般会務関係事項

- (1) 会員数 令和6年3月末日現在 4,364人
会員の内訳（令和6年3月末日現在）

区 分	令和4年度	令和5年度	区 分	令和4年度	令和5年度
薬局開設者等	2,398	2,369	勤務・その他	1,497	1,491
店舗販売業	29	29	賛助会員	103	100
病院薬剤師	260	261	名誉会員	0	0
県庁薬剤師	108	114	合 計	4,395	4,364

❧ 定時総会付議事項 ❧

(2) 保険薬局・保険薬剤師数（令和6年3月末日現在）

（九州厚生局調べ 非会員を含む）

区 分	令和4年度	令和5年度
保険薬局指定数	2,898	2,906
保険薬剤師登録数	16,006	16,346

(3) 会 議（令和6年3月末日現在）

ワーキング

1回

1) 臨時総会 1回

定時総会 1回

2) 常務理事会 8回

3) 理事会 7回

4) 地区連絡協議会 3回

5) 委 員 会 等

総務・組織会員委員会 3回

医療保険委員会 6回

地域医療連携委員会 5回

薬局ビジョン推進委員会 8回

薬局機能推進委員会 5回

薬と健康の週間実行委員会 3回

広報委員会 12回

生涯学習委員会 5回

薬学教育委員会 5回

災害・感染対策委員会 5回

薬薬連携推進委員会 4回

環境衛生・学校薬剤師委員会 4回

学術委員会 4回

D I 委員会 7回

医療DX推進委員会 2回

県学術大会実行委員会 4回

議事運営委員会 3回

情報センターワーキング 12回

県薬会報編集ワーキング 12回

学術倫理審査会 2回

薬事情報センター運営委員会 1回

医療保険ワーキング 7回

第5回福岡県薬剤師会学術大会

ワーキング 1回

薬局におけるSDGsの取り組みに関する

(4) 叙勲・表彰

() は、地区薬剤師会名又は所属団体

叙勲（瑞宝双光章 学校保健功労）

令和5年4月 女 賀 信 子

(福岡市)

令和5年4月 中 園 明

(久留米三井)

褒章（藍綬）

令和5年11月 宮 崎 寿

(小 倉)

厚生労働大臣表彰（薬事功労）

令和5年10月 脇 園 隆 二

(八 幡)

厚生労働大臣表彰（公衆衛生功労）

令和6年2月 高 木 淳 一

(福岡市)

文部科学大臣表彰（学校保健功労）

令和5年10月 松 浦 昭 仁

(小 倉)

日本薬剤師会功労賞

令和5年9月 三 浦 公 則

(八女筑後)

日本薬剤師会学校薬剤師賞

令和5年10月 宮 谷 英 記

(筑 紫)

日本薬剤師会有功賞（個人）

令和5年4月 中 野 勝 郎

(福岡市)

令和5年4月 中 島 英 之

(福岡市)

令和5年4月 松 隈 光 矩
(久留米三井)

令和5年4月 辻 和 利
(大川三瀬)

令和5年4月 松 尾 孝三郎
(八 幡)

令和5年4月 林 田 法 恵
(小 倉)

令和5年4月 弓 削 敦 子
(小 倉)

九州山口薬剤師会表彰

令和5年9月 藤 崎 尚 子
(粕 屋)

令和5年9月 竹 下 文 明
(筑 紫)

令和5年9月 満 安 徹 也
(久留米三井)

令和5年9月 星 野 正 俊
(八 幡)

日本公衆衛生協会会長表彰
(公衆衛生功労)

令和6年2月 長 田 耕 一
(八 幡)

福岡県知事表彰 (薬事功労)

令和5年10月 木 原 太 郎
(福 岡 市)

令和5年10月 吉 永 浩 明
(糸 島)

令和5年10月 住 本 勝 也
(朝 倉)

令和5年10月 星 野 崇
(柳川山門)

令和5年10月 森 田 宏 樹
(大牟田)

令和5年10月 石 井 裕 太
(若 松)

令和5年10月 森 重 文 弘
(若 松)

令和5年10月 安 田 和 義
(戸 畑)

令和5年10月 安 部 律 夫
(門 司)

令和5年10月 中 山 大 輔
(京 都)

令和5年10月 阿 部 雅 光
(直方鞍手)

令和5年10月 時 川 正
(田 川)

令和5年10月 陣 内 宏 行
(製薬工業協会)

福岡県知事表彰 (公衆衛生事業功労)

令和6年2月 平 川 良 宏
(福 岡 市)

令和6年2月 矢 野 洋 子
(粕 屋)

令和6年2月 新 留 孝 一
(朝 倉)

令和6年2月 内 田 政 光
(大川三瀬)

令和6年2月 中 尾 恵 美
(大 牟 田)

令和6年2月 森 浩
(八 幡)

令和6年2月 伊 藤 孝 泰
(小 倉)

令和6年2月 山 本 陽 一
(小 倉)

令和6年2月 田 中 賢 治
(飯 塚)

令和6年2月 安 永 哲 章
(直方鞍手)

ふくおか公衆衛生推進機構理事長表彰

令和6年2月 山 村 伸 也
(福 岡 市)

令和6年2月 西 田 慶 子
(粕 屋)

定時総会付議事項

令和6年2月 橋 本 郁 子
(大 牟 田)

令和6年2月 藤 本 陽 子
(八 幡)

令和6年2月 土 田 由美子
(飯 塚)

令和6年2月 松 井 理 代
(直方鞍手)

令和6年2月 手 島 保 子
(田 川)

福岡県学校保健功労者表彰

令和5年11月 石 郷 健 次
(福 岡 市)

令和5年11月 中 嶋 京 子
(福 岡 市)

令和5年11月 戸 田 晶 久
(福 岡 市)

令和5年11月 戸 田 加奈子
(福 岡 市)

令和5年11月 柏 野 誠 志
(八 幡)

令和5年11月 平 川 剛
(小 倉)

令和5年11月 和 田 徳
(小 倉)

令和5年11月 高 嶋 えり子
(小 倉)

令和5年11月 清 藤 英 郎
(飯 塚)

令和5年11月 河 邊 恵 子
(飯 塚)

令和5年11月 高 瀬 菜穂子
(田 川)

福岡県教育文化表彰

令和5年11月 東 千 鶴
(福 岡 市)

令和5年11月 福 井 豊 登
(八 幡)

令和5年11月 倉 石 恵理子
(戸 畑)

(5) 会員に対する弔慰金・見舞金

1) 会員死亡に対する弔慰金

(令和5年4月1日～令和6年3月31日)

令和5年6月 小森田 龍 彦
(小 倉)

原 田 美代子
(福 岡 市)

8月 徳 永 禎
(小 倉)

田 中 美 可
(福 岡 市)

10月 新 井 源 一
(飯 塚)

令和6年1月 松 隈 光 矩
(久留米三井)

武 井 龍太郎
(朝 倉)

2) 大雨災害に対する見舞金

(令和5年4月1日～令和6年3月31日)

令和5年7月 牛 尾 啓 子
(福 岡 市)

山 中 亜希子
(福 岡 市)

渡 邊 郁 子
(福 岡 市)

徳 永 裕 介
(筑 紫)

鍋 山 修 一
(筑 紫)

小 野 信 輔
(朝 倉)

田 中 一 幸
(久留米三井)

谷 口 恭 一
(久留米三井)

西 岡 真 理

(久留米三井)
前 間 紀 子
(久留米三井)
安 田 一 郎
(久留米三井)
山 崎 綾 子
(久留米三井)
永 松 武 敏
(八女筑後)
阿 部 真 弥
(浮 羽)
井 福 連 義
(浮 羽)

渋 田 篤
(浮 羽)
沖 郁二郎
(浮 羽)
工 藤 千 尋
(浮 羽)
吉 松 秀 明
(浮 羽)
力 丸 龍 二
(浮 羽)

令和5年度重点事業報告

本年1月1日の夕刻、石川県能登地方でマグニチュード7.6、最大震度7の能登半島地震が発生した。この災害に対応するため、福岡県薬剤師会は1月4日に災害対策本部を設置し、日本薬剤師会の協力要請に即応して延べ309名の災害支援薬剤師を石川県に派遣した。また、令和2年度に導入した災害対応医薬品供給車両（モバイルファーマシー）も出動し、穴水町と門前町で活動を行った。

新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが昨年5月に2類相当から5類へと変更された。これにより、感染対策と経済活動の両立を目指した正常な社会生活が始まり、本会の会務や会議もウェブ方式から対面やウェブ併用による開催が増加することになった。コロナ対応による行動変容や加速度的に進展したデジタル化への対応を図りながら、次世代に向け薬剤師の資質や薬局機能の向上のために戦略的に会務に取り組んできた。

一方、停滞していた経済活動が活発になる反面、物価・賃金の急騰を招来し、長年にわたり地域医療を支えてきた薬局経営に大きなダメージを与えている。薬局や薬剤師会においては、組織文化や業務プロセスを見直して生産性を高めるために革新的な思考が必要である。地域包括ケアシステムの構築や患者のための薬局ビジョン実現に向けた事業について、地区薬剤師会と連携のもと、県民の健康な生活の確保・向上に寄与するために社会的責任や公益性を意識して取り組んだ事業の概況を報告する。

●薬と健康の週間において、アウトリーチ型イベントを「ソラリアゼファ」で開催した。会場にはモバイルファーマシーを展示し、集客強化を試みた。併せて、「かかりつけ薬剤師・薬局」の周知・啓発を情報発信として展開し

た。啓発プロモーションとしては、Facebookによる一般向けコラムの配信と、恒例となったYouTube動画の作成・配信を行った。GoogleとYouTubeのWeb広告を活用するとともに、NY生まれのサイクルメディア「ヴェロトレーラー」を導入した。栄養士・介護支援専門員とも協力し、来場者に薬剤師職能と多職種連携を広報することができた。

●福岡県薬剤師会学術大会は、時代のニーズにマッチしたハイブリッド方式による運営とし、昨年度と同様に県民向けのイベントである「くすりのセミナー福岡」を組み込んだ。シンポジウムとしては、多様化する薬剤師サービスの役割と課題を取り上げた。特別講演は、OTC医薬品や医療機器の話題を取り上げ、薬局機能のあるべき姿を踏まえて企画した。また、日頃の活動や研究成果の発表・共有を行った。

●会員増強、会員への便益提供ならびに持続可能な薬局機能を追求する目的として、「独立したい薬剤師」と「後継者不在やその他の理由で承継を検討している薬局等」とのマッチング事業である、薬局運営・事業承継支援事業を再開した。また、会員を対象に薬局運営に必要なスキルの習得を目的としたe-learningによる研修支援、「CB College」の提供を開始した。

●福岡県おくすり適正使用促進事業として、お薬手帳に記載されている医薬品の薬効群毎の薬剤数等を視覚化する患者説明用の啓発資材（おくすり見える化シート）を服薬指導に活用し、患者自身やその家族のポリファーマシーに対する意識向上、解決方法、服薬アドヒアランスの向上といった薬物療法の適正化とポリファーマシーの解消に繋げることができているかを検証した。

●使用済医薬品ボトルの回収・再資源化に関

する実証事業として、脱プラスチックやカーボンニュートラルなどの取組が世界的に加速している最中、薬局における脱プラスチックを目的として、昨年度から使用済医薬品ボトルの回収・再資源化に取り組んでいる。本取組を通し、現状では各薬局で廃棄物として排出され、焼却処理されている医薬品ボトルから最終的に新たな再生製品を作成することで、資源循環の新たな仕組みの構築を目標としている。

1. 公1 県民の医薬品の適正な使用を図ることを目的とする事業

- (1) インターネット等を用いた広報活動事業
 - 1) 福岡県薬剤師会ホームページやSNSの活用による県民向け情報の充実および県内薬剤師への情報の共有と一元化ならびに知識啓発を実施
 - 2) 薬剤師職能に関する広報
- (2) 地域医療の向上を目指した情報提供事業
 - 1) 薬剤師無料職業紹介所およびファーマファインドJOB（薬剤師の求人求職Webシステム）の維持・運営
- (3) セミナー等の開催による広報活動事業
 - 1) 「くすりのセミナー福岡」の開催と講演内容の充実（年2回開催）
 - 2) 「県民健康づくりセミナー」への参加と講演内容の充実
- (4) 新聞社・テレビ局を通じた広報活動事業
 - 1) マスメディア（新聞社・テレビ・ラジオ等）を通じた薬局・薬剤師職能の広報活動
- (5) 県薬会報（隔月刊誌）の編集・発行を通じた広報活動事業
 - 1) 県薬会報の充実
 - ① 会員への通達事項の掲載
 - ② 薬剤師職能に関する特集記事の企画および掲載
 - ③ 薬学・医療等の学術関連記事の掲載

- ④ 最新の医薬品関連情報の掲載
 - ⑤ 地区薬剤師会の相互理解を深める記事の掲載
 - ⑥ 組織内の連携強化を図る記事の掲載
- (6) 行政機関との連携事業
- 1) 組織強化
 - ① 公益法人制度および公益法人会計基準への継続的対応

2. 公2 県民の保険制度の充実を図ることを目的とする事業

- (1) 医療における医療保険制度実施事業
 - 1) セミナー、研修会、講習会などによる薬剤師の知識向上
 - ① 保険薬局セミナーの開催・地区指導者研修会の開催
 - ② 調剤報酬改定伝達講習会後の保険調剤Q & A等に関する会員への解釈の周知
 - ③ 個別指導への指導員の推薦および立会者の派遣
厚生労働省および県との共同指導への立会者の派遣
国保診療報酬審査委員会への審査員推薦、社会保険診療報酬請求書審査委員会への審査員推薦
 - ④ 委員会間の在宅医療等に関する積極的な情報の交換
 - ⑤ 保険調剤業務の研修、伝達
 - ⑥ 県薬会報への「審査ニュース」掲載
 - ⑦ 適正受診指導事業の受託および関係者への指導実施
- (2) 行政機関との連携事業
 - 1) 保険関係機関や地域医療との連携
 - ① 九州厚生局指導監査課との協議
 - ② 福岡県国民健康保険団体連合会・社会保険診療報酬支払基金との協議
 - ③ 福岡県医療審議会、福岡県薬事審議

・定時総会付議事項・

- 会および福岡県地域医療構想調整会議への参画、九州地方社会保険医療協議会、福岡県保険者協議会ならびに企画調査部会および保健活動部会への参画
- ④ 県五師会の協調と行政とのタイアップ
 - ⑤ 在宅医療への薬剤師の参加を支援し、地域医療連携を積極的に推進
- (3) 医療費削減を目的としたジェネリック医薬品使用促進活動事業
- 1) ジェネリック医薬品使用促進のための環境整備
 - ① ジェネリック医薬品の備蓄および調剤に必要な体制の確保に向けた取り組み（ジェネリック医薬品情報のWebサービス）
- (4) 県民の医療安全を目的とした調剤事故防止活動事業
- 1) 調剤事故防止に向けた活動
 - ① 医療事故防止に向けた薬剤師職能の強化、調剤事故の削減を図るための研修会の開催
 - ② 日本医療機能評価機構「薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業」への参加促進および事例報告の啓発
 - ③ ICT（Information and Communication Technology）を使った調剤事故防止システムの紹介および普及促進
 - ④ 調剤事故防止へ向けた支援ができる仕組みの構築
 - ⑤ 薬局における安全管理体制の整備に関連した「医療安全管理指針」と「医薬品の安全使用のための業務手順書」の更新の周知および従業者に対する研修会の開催
 - ⑥ 病院薬剤部と薬局間の患者情報共有
- による調剤事故回避へ向けた環境整備の促進（薬薬連携等）
- ⑦ 調剤事故が発生した際の対応の検討
 - ⑧ 「調剤された薬剤および医薬品の情報提供等のための業務に関する指針」と「手順書」の設置の徹底および従業者に対する研修会の開催
 - ⑨ 医療事故調査支援委員会および医療事故調査等支援団体連絡協議会への協力
 - ⑩ 副作用、相互作用、治療効果不十分などを回避あるいは軽減した事例の収集および報告
 - ⑪ 医療安全セミナーの開催
- (5) 薬薬連携事業（医療機関と保険薬局の患者情報等の共有事業）の強化事業
- 1) 薬薬連携の強化
 - ① 福岡県病院薬剤師会との連携推進
 - ② 「お薬手帳」、「院外処方箋」等による情報共有の促進
 - ③ 臨床検査値等の医療情報を活用した安全で質の高い適正な薬物療法の推進
 - ④ がん化学療法に関する情報共有を目的とした標準レジメンの県薬会報掲載
 - ⑤ VPCSneo（Virtual Pharmacy Computer System）の地域連携機能を活用した情報共有の推進
 - 2) 薬局・薬剤師の職能強化
 - ① DEM（Drug Event Monitoring）事業への参加
- (6) 在宅における医療保険と介護保険の適正化事業
- 1) 在宅医療（緩和ケアを含む）と介護保険制度
 - ① 訪問薬剤（在宅患者訪問、居宅療養）管理指導の推進と質の向上

- ② 福岡県保健医療介護部、福岡県介護保険広域連合、福岡県国民健康保険団体連合会、福岡県後期高齢者医療広域連合関連委員会、協議会、検討会等への委員派遣および協働連携
- ③ 地域包括ケアシステムの構築に関する事業への積極的な参画、関係職種（医師会、歯科医師会、看護協会、栄養士会、介護支援専門員協会等）との連携強化
- ④ 在宅医療に関する研修会の開催
- ⑤ 在宅訪問に関する医療保険と介護保険請求の周知徹底（保険薬剤師必読ハンドブック等の活用）
- ⑥ 在宅関連の学会・研修会への派遣・情報収集、福岡県介護保険審査会への委員派遣
- ⑦ 多職種連携推進事業の地区薬での取り組みを支援するため、薬剤師在宅業務の啓発に向けた研修会への講師派遣

3. 公3 薬剤師の医学・薬学知識の向上や薬学教育制度の充実を図ることを目的とする事業

- (1) 学術研修事業企画
- (2) 薬学教育の支援およびその人材育成に関する事業

1) 薬学教育への対応

- ① 認定実務実習指導薬剤師養成および更新事業の継続
 - a. 認定実務実習指導薬剤師養成講習会の開催
 - b. 認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップへのタスクフォース派遣
 - c. 認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップの支援

- d. 認定実務実習指導薬剤師更新への対応
- ② 薬学生実務実習受け入れ体制の充実・強化
 - a. 薬学実習生と受け入れ施設とのマッチング
 - b. 「6年制薬局実習の受入薬局に対する日本薬剤師会の基本的な考え方」の周知
 - c. 日本薬剤師会「薬局におけるふるさと実習に向けた提言」への対応
 - d. 薬学教育研修会の開催
- ③ 実務実習におけるトラブルへの対応
 - a. ハラスメントの予防と啓発
 - b. 県内ブロック別トラブル対応担当者の設置・対応
- ④ 大学および関係団体との連携強化
 - a. 早期臨床体験受け入れへの協力
 - b. OSCE (Objective Structured Clinical Examination) 評価者等の派遣
 - c. 実務実習事前学習への講師派遣
 - d. 大学との共同による実務実習受け入れ施設への説明会の開催
 - e. 病院・薬局実務実習九州・山口地区調整機構との連携
 - f. 九州山口地区薬剤師会薬局実務実習受入調整機関事務局の運営
 - g. 九州山口地区薬剤師会薬局実務実習受入調整機関実習施設概要閲覧サイトの管理・運営
 - h. 薬学生の教育支援
 - i. 他地区調整機構に所属する大学との連携

❧ 定時総会付議事項 ❧

4. 公4 県民の環境衛生の向上を図ることを目的とする事業

(1) 学校薬剤師事業

1) 学校薬剤師事業

- ① 学校薬剤師事業、公衆衛生活動への支援と参加
- ② 学校薬剤師の資質向上のための研修会の開催
- ③ 環境衛生検査等に対する積極的対応
- ④ 学校保健、環境衛生学術大会への参加
- ⑤ 薬の適正使用の啓発と指導
- ⑥ 薬物乱用防止活動への参加、協力
- ⑦ 児童生徒に対する喫煙防止教育、飲酒防止教育への支援
- ⑧ 学校保健に関する県三師会の協調と行政とのタイアップ
- ⑨ 福岡県学校保健会事業への協力

(2) 医薬品試験検査センターの技術向上への支援事業

1) 試験センター事業

- ① 試験検査センターへの支援
- ② 試験検査センターの技術向上
- ③ 試験検査センター活動の広報

(3) 行政機関等との連携事業

1) 公害審査会への参加

2) ふくおか健康づくり県民会議への協力および支援

3) 特定の機能を有する薬局の認定への支援

(4) 行政機関等との協賛事業

(5) 薬剤師に対する体系的な卒後教育・研修活動事業の企画・開催

1) 薬剤師研修制度の充実

- ① 日本薬剤師会生涯学習支援システム「JPALS」(Japan Pharmaceutical Association life long Learning support System)

の利用促進に向けた周知

- ② ホームページでの研修会案内の充実
- ③ 福岡県薬剤師会研修システムの維持管理
- ④ 研修認定薬剤師制度(日本薬剤師研修センター)の活用
- ⑤ インターネットによる会員への情報提供
- ⑥ 高度な薬学的管理能力の向上を目指すための各学会等との共催事業
- ⑦ 「健康サポート薬局」制度に基づく研修会の開催

2) 薬剤師の質の向上へ向けた取り組み

- ① 地区指導者研修会の開催
- ② 福岡県薬剤師会学術大会の開催準備
- ③ 学会発表等の活性化を支援
- ④ 臨床疫学研究における学術倫理審査会の運営
- ⑤ 「いわゆる健康食品」についての正しい知識の普及と健康被害の未然防止
- ⑥ 「いきいき健康ふくおか21」への積極的支援
- ⑦ 福岡県禁煙相談員養成研修の開催
- ⑧ 認知症対応力向上研修の開催
- ⑨ 情報リテラシーを高める研修会の開催

(6) 地域医療への参加と協力事業

1) 地域医療への参加と協力

- ① 地区健康推進協議会への参加推進と保健事業の積極的な実施
- ② オンライン診療に伴う緊急避妊薬の調剤の提供体制の整備

(7) 災害発生時の救援活動等への対応整備事業

- 1) 県民および薬剤師に対する震災等への防災意識高揚へ向けた取り組み実施、および防災マニュアル等の作成

- 2) 最新の情報に基づいた業務継続に向けての具体的対策
- 3) 災害時における医薬品等供給調整業務を行う災害支援薬剤師の養成、環境衛生に関わる検査および指導助言
- 4) 災害薬事コーディネーター、災害支援薬剤師による災害対応訓練および研修会の開催
- 5) 災害用備蓄品・資材の整備
- 6) モバイルファーマシーの維持・管理、防災訓練および研修会の開催
- 7) 令和5年梅雨前線による大雨災害への災害薬事コーディネーターの派遣、令和6年能登半島地震への災害支援薬剤師・モバイルファーマシーの派遣

5. 公5 県民等の薬事情報収集の効率化を図ることを目的とする事業

(1) 医薬品等の情報収集と分類

1) 薬事情報センター

- ① 情報の収集・分類や各事業の支援
 - a. 医薬品医療機器による健康被害防止を目的とした有効性・安全性情報の収集・提供体制の充実
 - b. ジェネリック医薬品情報提供に関するWebサービスの運用
 - c. 地域連携薬局の情報提供活動を支援
 - d. かかりつけ薬剤師・薬局による薬学的管理・指導に対する支援
 - e. 健康サポート薬局の機能充実を目指した情報の提供
 - f. 臨床疫学研究における学術倫理審査会の支援
 - g. CTI (Computer Telephony Integration) システムを活用した質疑応答データ

ベースの作成

- h. 「公認スポーツファーマシスト」制度の推進と養成支援
- i. 新型コロナウイルスワクチン専用ダイヤルの運営を支援
- j. 「薬剤師に必要な消毒薬の知識」の発行準備

(2) 相談事業

1) 県民や医療関係者などへの医薬品等に関する相談・啓発活動

- ① 「くすりなんでもテレホン」による医薬品等の電話相談の実施
- ② 県民からのWebやLINEによる問い合わせや医薬品等の相談の実施
- ③ 医薬品・健康食品等の適正使用についての講演会・広報などを通じた啓発活動
- ④ 県民・医療関係者へのジェネリック医薬品の使用促進に向けた情報提供と、品質確認などの電話相談の実施
- ⑤ 「ドーピング防止ホットライン」によるアンチ・ドーピング活動に関する電話相談の実施

(3) 情報発信

1) 出版物やインターネットを利用した情報発信

- ① 「ふくおか県薬会報」「福岡県医師会報」「歯界時報」を通じた、医薬品医療機器安全性情報および適正使用情報の提供
- ② ホームページ・メール・FAX・SNSなどによる安全性情報や薬価収載などの即時提供
- ③ ホームページを通じた県民向けパンフレットの公開
- ④ ホームページを通じた相談事例やQ&A、薬剤師業務に役立つ情報を提供

❧ 定時総会付議事項 ❧

6. 公6 業としての薬業全体の質の向上を図ることを目的とする事業

(1) 薬局・薬剤師業務の充実へ向けた事業

1) 薬局業務の充実

- ① 薬局・薬剤師が地域住民による主体的な健康の維持・増進を支援するために必要な環境の整備および研修体制の構築
- ② VPCSneoの利用によるジェネリック医薬品の安定した流通供給の確保ならびに医療材料・衛生材料の供給体制の整備
- ③ 「患者のための薬局ビジョン」および「福岡県版薬局グランドデザイン」に対応する薬局・薬剤師の質の向上と県民・地域のニーズに基づく薬局機能の検討
- ④ かかりつけ薬剤師・薬局による薬学的管理・指導に対する支援に必要な体制の整備

(2) 薬局業務のICT推進事業

1) 薬局内ICT化と薬局業務支援システムであるVPCSneoの普及推進

- ① eお薬手帳3.0の普及促進と、薬局への導入支援
- ② 医薬品備蓄、流通供給、医薬品情報収集、ジェネリック医薬品使用促進等のための薬局業務支援システムであるVPCSneoの普及促進
- ③ 多様化する在宅医療に対応するため医療材料・衛生材料の安定供給に関するシステムの維持・運用
- ④ 日本薬剤師会認証局による「薬剤師資格証（HPKI）」発行業務の支援

(3) 健康食品、喫煙などによる健康被害の防止対策事業

1) 「福岡県たばこ対策事業」の一環として、「卒煙サポート薬局」・「禁煙相

談員」養成のための研修会の企画・開催

2) 「いわゆる健康食品」についての正しい知識の普及と健康被害の未然防止

(4) 行政機関との連携事業

1) 医療機器販売業等の営業所管理者、医療機器修理業の責任技術者に対する継続研修会の開催

2) 「健康日本21」への取り組み関係団体として積極的に事業を展開

- ① 運動、食生活、喫煙等に関する目標の設定に関与
- ② メタボリックシンドロームの該当者および予備群の減少に関与
- ③ 健康診査および保健指導の実施に関与

3) 「いきいき健康ふくおか21」への参加と積極的支援を実施、「いきいき福岡健康づくり推進協議会」、「健康21世紀福岡県大会実行委員会」等へ委員を派遣

4) 「薬と健康の週間」の実施

- ① 県民向けの「くすりと健康フェア」を開催
- ② 県民向けにSNSを活用した薬剤師職能や医薬品に関する情報提供の実施

5) 「新オレンジプラン」に基づく認知症対応力向上研修の企画・開催

6) 麻薬小売業者に対する研修会の開催

7) がん検診等の啓発と知識習得のための研修会の開催

7. 他1 斡旋図書を斡旋・販売する事業

(1) 薬事関係図書等の斡旋販売事業

1) 教育研修、実務関係の書籍、行政に申請する書類等の斡旋

8. 他2 会員相互事業

- (1) 地区薬剤師会および会員に対する表彰および会員に対する弔慰・見舞金給付事業
- (2) 会員向け保険事業
 - 1) 薬局・薬剤師としての社会的責任を果たすため「薬剤師賠償責任保険」等のPRと加入促進
- (3) 薬局運営に関する支援事業
 - 1) 薬局運営・事業承継支援事業
(Pharmacy Operation & Succession Project) の運営
 - 2) 「CB College」のPRと加入促進
 - 3) インボイス制度対応セミナーの開催
- (4) その他
 - 1) 組織強化
 - ① 会員加入促進
 - ② 会員証機能を有するアプリの導入
 - 2) 関係団体との連携
 - ① 福岡県薬業団体連合会との連携
 - ② 福岡県薬剤師国民健康保険組合への加入促進
 - ③ 福岡県医薬品登録販売者協会との連携

【薬局薬剤師研修会の開催】

- (1) 認定実務実習指導薬剤師養成講習会
(更新)
日 時：令和5年4月13日(木)
19:30~20:30
場 所：福岡県薬剤師会館
参加者：40人
内 容：
講座4 改訂薬学教育モデル・カリキュラムについて
- (2) 学校・環境衛生研修会
 - 1) 第1回
日 時：令和5年5月13日(土)
15:00~17:50
場 所：福岡県薬剤師会館およびWeb
研修
参加者：144人
演 題：
「令和4年度学校薬剤師九州ブロック連絡会議 伝達講習～学校薬剤師を取り巻く最近の話題～」
福岡県薬剤師会 常務理事
中 原 学
「令和5年度県立学校教室等環境検査のすすめ方」
福岡県薬剤師会 常務理事
中 原 学
「薬物乱用の現状について」
国際医療福祉大学
福岡薬学部 准教授
山 本 緑
 - 2) 第2回
日 時：令和5年8月19日(土)
15:00~17:50
場 所：福岡県薬剤師会館およびWeb
研修
参加者：86人
演 題：

❧ 定時総会付議事項 ❧

「第21回九州地区健康教育研究大会（熊本大会）伝達講習」

福岡県薬剤師会

環境衛生・学校薬剤師委員会 委員

角 直 行

「第21回九州地区健康教育研究大会（熊本大会）伝達講習」

福岡県薬剤師会 常務理事

中 原 学

「学校等での事故を減らすために」

日本スポーツ振興センター 福岡支所

福岡業務推進課 課長

藤 山 大 祐

3) 第3回

日 時：令和5年10月7日(土)

15：00～17：50

場 所：福岡県薬剤師会館およびWeb
研修

参加者：108人

演 題：

「令和5年度薬物乱用防止指導員研修会
伝達講習」

福岡県薬剤師会

環境衛生・学校薬剤師委員会 委員

北 口 大 介

「令和5年度日本薬剤師会学校薬剤師部
会 学校環境衛生検査技術講習会 伝
達講習」

福岡県薬剤師会 理事

清 水 敦

「「助けて」が言えない子どもたち –
市販薬と大麻の乱用を例に–」

国立精神・神経医療研究センター

嶋 根 卓 也

4) 第4回

日 時：令和5年12月2日(土)

15：00～17：50

場 所：福岡県薬剤師会館およびWeb

研修

参加者：95人

演 題：

「令和5年度学校薬剤師学術フォーラム
伝達講習」

福岡県薬剤師会 副会長

宮 谷 英 記

「令和5年度全国学校保健・安全研究大
会 伝達講習」

福岡県薬剤師会 理事

松 田 健

「市販薬依存症について～SOSに応え
るには～」

北九州市保健福祉局技術支援部

北九州市立精神保健福祉センター次長

宇佐美 貴 士

(3) 学会発表スキルアップセミナー

～PECOを使って研究計画を作ってみよ
う！～

日 時：令和5年5月28日(日)

13：30～16：30

場 所：Web研修

参加者：25人

内 容：

「クリニカルクエスチョンをリサーチク
エスチョンに昇華させるために」

福岡県薬剤師会 理事

西 村 信 弘

グループワーク 発表・討議

(4) インボイス制度対応セミナー

日 時：令和5年8月4日(金)

19：00～20：00

場 所：Web研修

参加者：215人

内 容：

「インボイス制度について」

福岡国税局 課税第二部 消費税課

軽減税率・インボイス制度係 係長

濱 田 大志郎

「電子帳簿保存法について」

福岡国税局 課税第一部

課税総括課 調整係 実査官

永 田 光 司

(5) 令和5年度福岡県禁煙相談員養成研修

日 時：令和5年8月6日(日)

13:00~15:45

場 所：福岡県薬剤師会館およびWeb
研修

参加者：145人

内 容：

「禁煙支援の基礎知識～紙たばこから電
子たばこまで～」

日本禁煙科学会 副理事長

のだ小児科医院 院長

野 田 隆

「禁煙支援の実際～その時、どう声かけ
る?～」

大分県薬剤師会 禁煙支援担当理事

伊 藤 裕 子

(6) 薬剤師認知症対応力向上研修

日 時：令和5年8月26日(土)

15:00~17:05

場 所：Web研修

参加者：338人

演 題：

「認知症高齢者の基礎知識とその対
応」

福岡県医師会 常任理事

桑 野 恭 行

「認知症の薬学的管理と薬剤師の役割」

福岡県薬剤師会

地域医療連携委員会 委員

坂 口 尚 登

「薬剤師認知症対応力向上研修

～制度編～」

福岡県保健医療介護部高齢者地域包括

ケア推進課 (DVD講義)

(7) 健康サポート薬局研修 研修会 A：健康
サポートのための多職種連携研修会

1) 第1回

日 時：令和5年8月27日(日)

8:40~13:00

場 所：福岡県薬剤師会館

参加者：58人

内 容：

1. 健康サポート薬局の基本理念

「健康サポート薬局の基本理念」

日本薬剤師会 会長

山 本 信 夫 (DVD講義)

日本薬剤師会 副会長

田 尻 泰 典 (DVD講義)

「健康サポート薬局の理念～地域包括ケ
アに対応した薬局・薬剤師」

演題：

「私たちが目指す健康サポート薬局の
姿」

福岡県薬剤師会

薬局機能推進委員会 委員

小 西 秀 平

グループ討議：薬局が地域の資源とどの
ように繋がるか

福岡県薬剤師会 理事

立 山 勝 規

2. 当該地域の医療・保健・健康・介

護・福祉等の資源と健康サポート薬
局の連携

「福岡県における健康づくり施策と健康
サポート薬局への期待」

福岡県保健医療介護部健康増進課

松 添 卓 夫

他職種等の取り組みについて～健康サ
ポート薬局との連携を探る～

「多職種連携のポイント お互いを知
る！」

❧ 定時総会付議事項 ❧

福岡県歯科医師会 専務理事

川 端 貴美子

「医療ソーシャルワーカーの役割
～薬剤師と医療ソーシャルワーカーの
連携について～」

福岡県医療ソーシャルワーカー協会
会長

浦 川 雅 広

「福岡県の医療・保健・健康・介護・福
祉等の資源について」

福岡県薬剤師会
薬局機能推進委員 委員

福 元 哉 史

3. 演習

「地域包括ケアシステムの中で健康サ
ポート薬局として役割を発揮するた
めの各職種・機関との連携による対
応等に関する演習」

福岡県薬剤師会 理事

立 山 勝 規

2) 第2回

日 時：令和6年3月24日(日)

8：40～13：10

場 所：福岡県薬剤師会館

参加者：75人

内 容：

1. 健康サポート薬局の基本理念

「健康サポート薬局の基本理念」

日本薬剤師会 会長

山 本 信 夫 (DVD講義)

日本薬剤師会 副会長

田 尻 泰 典 (DVD講義)

「健康サポート薬局の理念～地域包括ケ
アに対応した薬局・薬剤師」

演題：「私たちが目指す健康サポート薬
局の姿」

福岡県薬剤師会

薬局機能推進委員会 委員

小 西 秀 平

グループ討議：薬局が地域の資源とどの
ように繋がるか

福岡県薬剤師会 理事

立 山 勝 規

2. 当該地域の医療・保健・健康・介
護・福祉等の資源と健康サポート薬
局の連携

「福岡県における健康づくり施策と健康
サポート薬局への期待」

福岡県保健医療介護部健康増進課

松 添 卓 夫 (DVD講義)

他職種等の取り組みについて～健康サ
ポート薬局との連携を探る～

「こども虐待の早期発見と防止につい
て」

福岡県保健こども福祉部

こども福祉係 係長

中 村 一 彦

「多職種連携のポイント お互いを知
る！」

福岡県歯科医師会 専務理事

川 端 貴美子 (DVD講義)

「福岡県の医療・保健・健康・介護・福
祉等の資源について」

福岡県薬剤師会

薬局機能推進委員 委員

福 元 哉 史

3. 演習

「地域包括ケアシステムの中で健康サ
ポート薬局として役割を発揮するた
めの各職種・機関との連携による対
応等に関する演習」

福岡県薬剤師会 理事

立 山 勝 規

(8) 健康サポート薬局 研修会B：健康サ
ポートのための薬剤師の対応研修

1) 第1回

日 時：令和5年8月27日(日)

13：30～18：10

場 所：福岡県薬剤師会館

参加者：31人

内 容：

1. 「薬局・薬剤師を巡る現状と健康サポート薬局」

福岡県薬剤師会 常務理事

千代丸 康 重

2. 「一般用医薬品等を取り巻く現状」

日本薬剤師会 常務理事

岩 月 進 (DVD講義)

3. 薬局利用者の状態把握と販売時と販売後の対応 (演習)

日本薬剤師会

一般用医薬品等委員会 委員長

亀 山 貴 康 (DVD講義)

昭和大学薬学部 社会健康薬学講座

医薬品評価薬学部門 准教授

亀 井 大 輔 (DVD講義)

演習進行 福岡県薬剤師会 理事

岡 村 由紀子

2) 第2回

日 時：令和6年3月24日(日)

13：30～18：30

場 所：福岡県薬剤師会館

参加者：45人

内 容：

1. 「薬局・薬剤師を巡る現状と健康サポート薬局」

福岡県薬剤師会 常務理事

千代丸 康 重

2. 「一般用医薬品等を取り巻く現状」

日本薬剤師会 常務理事

岩 月 進 (DVD講義)

3. 薬局利用者の状態把握と販売時と販売後の対応 (演習)

日本薬剤師会

一般用医薬品等委員会 委員長

亀 山 貴 康 (DVD講義)

昭和大学薬学部 社会健康薬学講座

医薬品評価薬学部門 准教授

亀 井 大 輔 (DVD講義)

演習進行 福岡県薬剤師会 理事

岡 村 由紀子

(9) 第33回地区指導者研修会

日 時：令和5年9月3日(日)

9：05～11：35

場 所：ロイヤルホテル宗像

参加者：142人

内 容：

「薬局を取り巻く環境とこれからの薬剤師」

日本薬剤師会 副会長

田 尻 泰 典

「医療DXにおける薬局、薬剤師への期待」

日本薬剤師会 常務理事

原 口 亨

「災害薬事コーディネーターの活動報告」

福岡県薬剤師会 常務理事

山 口 信 也

(10) 認定実務実習指導薬剤師養成講習会 (新規・更新)

日 時：令和5年10月22日(日)

13：00～16：30

場 所：福岡県薬剤師会館

参加者：74人 (新規)、52人 (更新)

内 容：講座1 薬剤師に必要な理念

講座2 改訂薬学教育モデル・カリキュラムについて

講座3 学生の指導方法について

(11) 第13回医療安全セミナー

日 時：令和5年10月29日(日)

13：00～16：25

❧ 定時総会付議事項 ❧

場 所：福岡県中小企業振興センター
およびWeb研修

参加者：955人

演 題：

「小児調剤における医療安全上の課題と
対策～なくそう！苦手意識を！～」

福岡県薬剤師会

医療保険委員会 委員

宮 坂 圭 三

「こどもの医療安全、薬局にできること
は何？」

ワタナベ薬局上宮永店 管理薬剤師

松 本 康 弘

「子どもと家族に優しい小児がん治療」

九州大学病院 小児科 准教授

古 賀 友 紀

「当院での小児の与薬管理」

九州大学病院 看護部 看護部長

堀 智 恵

(12) 情報リテラシーを高める研修会

日 時：令和5年11月11日(土)

15：00～17：00

場 所：福岡県薬剤師会館および
Web研修

参加者：68人

内 容：

「福岡県薬剤師会薬事情報センターの役
割と薬局におけるDI活動」

福岡県薬剤師会 DI委員会 委員

坂 井 貴

「保険薬局における情報の活用と発信－
効果的な仕事と頼られる薬剤師－」

帝京大学薬学部

薬学教育推進センター 教授

下 平 秀 夫

(13) 薬学教育研修会～コミュニケーションスキ
ルを考える～

日 時：令和5年11月12日(日)

13：00～15：30

場 所：福岡県薬剤師会館および
Web研修

参加者：85人

演 題：

〔基調講演〕

「コーチングを活用した薬学生とのコ
ミュニケーション」

名城大学薬学部

病院薬学研究室 准教授

半 谷 眞七子

〔講演1（薬局）〕

「実習生とのコミュニケーションについ
て心がけていること」

直方鞍手薬剤師会 理事

中 村 寛 子

〔講演2（病院）〕

「実務実習における学生とのコミュニ
ケーション」

福岡徳洲会病院 副主任

安 部 由紀子

〔講演3（学生）〕

「実務実習で成長できたこと」

福岡大学薬学部

救急・災害医療薬学研究室

松 隈 喜久乃

〔講演4（大学）〕

「薬局・病院実務実習を通して学生が成
長できたこと」

九州大学大学院薬学研究院

臨床育薬学分野・臨床薬学教育セン
ター講師

小 林 大 介

(14) 在宅医療に関する研修会

日 時：令和5年11月19日(日)

13：30～15：30

場 所：TKP博多駅前シティセンター
およびWeb研修

参加者：400人

演 題：

「第8次医療計画の在宅医療において期待される薬剤師の役割」

日本薬剤師会 常務理事

萩 野 構 一

「福岡県後期高齢者医療広域連合の取組について」

福岡県後期高齢者医療広域連合

健康企画課健康企画係 係長

永 尾 純

- (15) 令和5年度医療機器販売業等の営業所管理者、医療機器修理業の責任技術者に対する継続研修会

日 時：令和5年12月3日(日)

13：00～16：15

場 所：Web研修

参加者：816人

内 容：

- ①「医薬品医療機器等法の概要および改正」

医療機器センター 常務理事

新 見 裕 一

- ②「医療機器の品質管理」

日本医療機器産業連合会

販売・保守委員会 委員

浦 富 恵 輔

- ③「医療機器の不具合報告及び回収報告」

日本医療機器産業連合会

PMS委員会 委員

三 田 哲 也

- ④「医療機器の情報提供および薬剤師が知っておきたい機器等の話題」

医療機器センター附属医療機器

産業研究所 主任研究員

本 田 大 輔

- (16) 腎臓病薬物療法セミナー

日 時：令和5年12月9日(土)

15：00～18：20

場 所：福岡県薬剤師会館および

Web研修

参加者：304人

演 題：

「CKDの発症・進展の原因とその治療

～いかに蛋白尿/アルブミン尿・血圧をコントロールするか～」

I&H(株) 学術研修部

平 田 純 生

「CKD（糖尿病腎臓病、高血圧、腎炎）による透析導入を防ぐための薬物療法」

陣内病院 薬剤部

守 田 彩 文

「透析患者に対する薬物療法」

熊本赤十字病院 薬剤部

病棟薬剤課長

下 石 和 樹

- (17) 薬局薬剤師と病院薬剤師の合同ワークショップ

日 時：令和5年12月10日(日)

13：30～16：30

場 所：福岡県薬剤師会館

参加者：49人

演 題：

「福岡県および福岡大学病院における薬薬連携の取り組み」

福岡大学病院 教授・薬剤部長

神 村 英 利

「病院薬剤師の薬薬連携の実例：薬薬連携による入退院支援」

白十字病院 薬剤部長

高 津 宏 典

「薬局薬剤師の薬薬連携の実例：退院時カンファレンス」

直方鞍手薬剤師会 理事

(なかむら薬局)

❧ 定時総会付議事項 ❧

- 中 村 寛 子
福岡ブロックからのWS報告：入退院時の薬薬連携
福岡県薬剤師会 理事
清 水 敦
筑豊ブロックからのWS報告：
ポリファーマシー対策
飯塚病院 薬剤部
皆 元 文 恵
北九州ブロックからの報告：
ニック調剤薬局センターにおける
トレーシングレポートへの取組み
ニック調剤薬局センター
平 本 麻 子
総合討論
(18) 麻薬小売業者に対する研修会
日 時：令和6年1月15日(月)～
2月14日(水)
場 所：動画のオンデマンド配信による
研修
参加者：2,692人
内 容：
「麻薬等の適正管理について」
福岡県保健医療介護部薬務課
「一般用医薬品の薬物乱用と麻薬小売業者間譲渡の事例について」
福岡県薬剤師会
薬局ビジョン推進委員会 委員
小 塚 訓 靖
(19) 次世代の薬剤師・薬局機能向上に向けた
研修会～いま、取り組むべきこと～
日 時：令和6年1月18日(木)
19：00～20：35
場 所：Web研修
参加者：1,009人
内 容：
「医療DXの進捗と全体像」
福岡県薬剤師会 常務理事

- 永 嶋 友 洋
「次世代に向けた薬剤師・薬局の取り組み」
日本薬剤師会 常務理事
福岡県薬剤師会 会長
原 口 亨
「オンライン服薬指導の必要性とこれから」
福岡県薬剤師会 常務理事
竹 野 将 行
「へき地医療とオンライン服薬指導の活用」
福岡県薬剤師会 常務理事
濱 寛
「医療DX・薬局機能向上・地域医薬品提供体制について」
福岡県薬剤師会 副会長
高 木 淳 一
(20) オンライン診療に伴う緊急避妊薬の調剤に関する研修会
日 時：令和6年1月20日(土)
15：00～18：40
場 所：福岡県薬剤師会館および
Web研修
参加者：125人
内 容：
「オンライン診療の適切な実施に関する指針と緊急避妊薬の調剤について」
福岡県薬剤師会
薬局ビジョン推進委員会 委員
古 賀 義 浩
「オンライン診療に伴う緊急避妊薬処方上の留意点」
①緊急避妊全般
福岡県産婦人科医会
内 田 聡 子
②月経・月経異常・ホルモン調節機序
③OC全般・避妊

福岡県産婦人科医会 理事

村 上 文 洋

「オンライン診療に伴う緊急避妊薬の調剤について」

①薬局での調剤の手順について

②患者対応等について

福岡県薬剤師会 理事

連 石 信

福岡県薬剤師会

薬局ビジョン推進委員会 委員

新 井 成 牧

(21) 令和6年能登半島地震 災害支援薬剤師からの緊急報告

日 時：令和6年1月26日(金)

19:30~20:55

場 所：Web研修

参加者：259人

内 容：

「派遣チームからの活動内容報告（能登町宇出津）」

福岡県薬剤師会 常務理事

山 口 信 也

福岡県薬剤師会 理事

馬 場 涉

福岡県薬剤師会 常務理事

原 口 恵 子

「派遣チームからの活動内容報告（珠洲市）」

福岡県薬剤師会 理事

立 山 勝 規

福岡県薬剤師会 常務理事

永 嶋 友 洋

福岡県薬剤師会 専務理事

小 田 真 稔

「募集概要説明（派遣スキーム・募集方法）」

福岡県薬剤師会 副会長

宮 谷 英 記

(22) 第48回保険薬局セミナー

日 時：令和6年1月28日(日)

13:00~15:20

場 所：福岡県薬剤師会館および

Web研修

参加者：546人

演 題：

「薬剤師職能・薬局機能のさらなる向上にむけて（診療報酬改定の変遷から）～より安心・安全な薬物治療の継続を～」

北海道薬剤師会 会長

前中央社会保険医療協議会 委員

日本薬剤師会 理事

有 澤 賢 二

「薬剤師への期待～行政経験30年を超えて想うこと～次の時代と一緒に考えたいです。～」

厚生労働省 医薬局

医薬品審査管理課長

中 井 清 人

(23) 薬剤師のための臨床腫瘍薬学セミナー

1) 第3回

日 時：令和6年2月3日(土)

15:00~18:20

場 所：福岡県薬剤師会館および

Web研修

参加者：153人

演 題：

「緩和ケア（疼痛コントロール）と在宅移行における患者指導の実際」

あんず薬局 在宅支援センター店

田久保 由加里

「大腸がんの薬物療法と患者指導（処方箋から読み解く指導）」

総合メディカル(株) そうごう薬局

天神中央店

本 田 雅 志

定時総会付議事項

福岡大学筑紫病院 薬剤部

柿本 秀樹

2) 第4回

日時：令和6年2月24日(土)

15:00~18:20

場所：福岡県薬剤師会館および
Web研修

参加者：124人

演題：

「循環器系副作用（心毒性・DVT・
高血圧）オンコロジーエマージェン
シー（Infusion Reaction、腫瘍崩壊症
候群）」

福岡大学筑紫病院 薬剤部

柿本 秀樹

「胃がんの薬物療法について」

佐賀大学医学部附属病院 薬剤部

古野 龍也

「胃がんの患者指導（処方箋から読み解
く指導）」

溝上薬局 医大通り店

溝上 泰仁

(24) アンチ・ドーピング研修会

日時：令和6年2月4日(日)

13:00~15:00

場所：福岡県薬剤師会館および
Web研修

参加者：77人

演題：

「2024年禁止表国際基準の変更点につ
いて」

福岡県薬剤師会薬事情報センター
室長

松永 ゆかり

「世界水泳選手権・世界マスターズ水泳
選手権に向けたスポーツファーマシ
ストとしての取り組み」

福岡県薬剤師会 理事

清水 敦

「世界水泳選手権・世界マスターズ水泳
選手権の振り返り／スポーツと医療
の未来」

日本スポーツ協会公認スポーツドクター
健康リハビリテーション内田病院
院長

内田 泰彦

(25) がん検診の啓発と知識習得のための研修
会

日時：令和6年2月9日(金)

19:30~21:20

場所：Web研修

参加者：59人

内容：

①「第4期がん対策推進基本計画と啓発
ツールについて」

(株)アステム

北島 尚也

②「県内のがん検診の実状」

福岡県がん感染症疾病対策課
がん対策係

佐原 史哉

特別講演「子宮頸がん予防 ～いま薬剤
師と一緒に考えること～」

九州大学大学院医学研究院
生殖病態生理学 教授

加藤 聖子

(26) 第5回福岡県薬剤師会学術大会

日時：令和6年2月18日(日)

10:00~17:00

場所：アクロス福岡およびWeb研修

参加者：634人

内容：特別講演、シンポジウム、一般
演題(口頭発表、ポスター発表)

「在宅医療と多職種連携における薬剤師
への期待」

いちのせファミリークリニック 院長

一ノ瀬 英 史

「これからの医療機器等と薬剤師・薬局」

厚生労働省 医薬局

医療機器審査管理課長

中 山 智 紀

「OTC医薬品の今後と、調剤を含めた
薬剤師・薬局の課題とその解決方策
について」

日本OTC医薬品協会 理事長

磯 部 総一郎

(27) 糖尿病薬物療法セミナー

日 時：令和6年3月3日(日)

13：00～16：20

場 所：福岡県薬剤師会館および
Web研修

参加者：182人

演 題：

「糖尿病薬物療法とデジタル医療－
CGMとPHR－」

医療法人南昌江内科クリニック

南糖尿病臨床研究センター

センター長

前 田 泰 孝

「糖尿病薬物療法における当薬局の取
組み」

総合メディカル(株) そうごう薬局

天神中央店

中 村 泰 朗

「インスリンポンプ療法の実際と多職種
連携について」

九州大学病院 看護部

梶 野 美 保

「院内での栄養指導の実際」

九州大学病院 栄養管理部

横 山 富美子

(28) 県内4ブロックにおける薬局薬剤師と病
院薬剤師の合同ワークショップ

1) 北九州ブロック

日 時：令和6年3月5日(火)

19：30～21：05

場 所：健康医療福祉研修会館

参加者：21人

内 容：

「外来がん化学療法における薬薬連携を
深めるためのトレーシングレポート
の活用方法」

産業医科大学病院 薬剤部

横 山 雄 一

「ニック調剤薬局センターにおけるト
レーシングレポートへの取組」

ニック調剤薬局センター

平 本 麻 子

グループワーク

2) 筑後ブロック

日 時：令和6年3月6日(水)

19：30～21：00

場 所：久留米シティプラザ

参加者：19人

内 容：

「薬局薬剤師と病院薬剤師の協働」

白十字病院 薬剤部長

高 津 宏 典

「久留米三井薬剤師会における入院前の
トレーシングレポートについて」

久留米三井薬剤師会 専務理事

杉 岡 勇 樹

グループワーク

3) 筑豊ブロック

日 時：令和6年3月8日(金)

19：00～20：30

場 所：イイヅカコミュニティセンター

参加者：26人

内 容：

「薬薬連携でつながる！ 睡眠薬適正使
用の取り組み」

❧ 定時総会付議事項 ❧

飯塚病院 薬剤部

進 健 司

「睡眠薬における適正使用困難事例及び
薬薬連携の実例」

なかむら薬局

中 村 寛 子

グループワーク

4) 福岡ブロック

日 時：令和6年3月15日(金)

19:30~21:00

場 所：福岡県薬剤師会館

参加者：35人

内 容：

「先行している連携事例から学ぶ ～が
ん領域の連携～」

日本調剤薬局九大前店

朝 倉 美 紗

九州大学病院 薬剤部

益 口 賢

グループワーク

(29) 県内4ブロックにおける災害支援薬剤師
研修会

1) 福岡ブロック・筑後ブロック

日 時：令和6年3月9日(土)

15:00~18:00

場 所：福岡県薬剤師会館

参加者：51人

2) 北九州ブロック・筑豊ブロック

日 時：令和6年3月10日(日)

10:00~13:00

場 所：健康医療福祉研修会館

参加者：45人

内 容：

【講義】災害時の初動と薬事対応

【グループディスカッション】

災害医療認定薬剤師・災害医療

コーディネーター

福岡大学薬学部 教授

江 川 孝

【薬局スタッフ向け研修会の開催】

(1) スタッフのための薬局業務研修会

日 時：令和5年4月22日(土)

15:00~17:45

場 所：福岡県薬剤師会館および
Web研修

参加者：424人

内 容：

「0402通知 調剤業務のあり方について」

「倫理・関係法規」

福岡県薬剤師会

薬局ビジョン推進委員会 委員

大 場 崇

「電子処方箋について」

福岡県薬剤師会 理事

星 野 崇

「医療安全・医薬品の取扱い」

福岡県薬剤師会 理事

井 上 正 太

「リスクマネジメントー医療従事者として
気をつけることー」

福岡県薬剤師会 理事

高 橋 俊 輔

「準備行為の基本的なルール」

福岡県薬剤師会

薬局ビジョン推進委員会 委員

小 塚 訓 靖

【新型コロナウイルス感染症対策本部の活動状況】

令和2年2月21日に本会に「新型コロナウイルス感染症対策本部」を設置してから3年余が経過し、ようやく感染症法上「2類相当」とされていた新型コロナウイルス感染症は令和5年5月8日をもって「5類」に位置付けられ、マスクの着用が原則として個人の判断に委ねられるなど国民・県民に対する様々な行動制限は基本的に解除された。

本会は政府、日本薬剤師会と同様、同日をもって新型コロナウイルス感染症対策本部を廃止したが、医薬品の提供体制の維持など薬局・薬剤師に求められる役割は従前と同様であり、対策本部廃止後もその責務を果たすべく各種の事業に取り組んでいる。その概況について、以下報告する。

- 新型コロナウイルスワクチン専用ダイヤル相談等対応業務として、県の委託を受け、令和3年3月23日から薬剤師会内にコールセンターを設置している。委託契約は令和5年10月末で終了する予定だったが、ワクチン接種が令和5年度中は継続されることになったことから、コールセンター業務も令和6年3月末まで延長され、ワクチンの副反応等に関する相談、ワクチンの有効性・安全性に関する情報提供を行っている。3月末時点での相談件数の累計は約9万9千件に達した。
- 新型コロナウイルス感染症患者等への取り組みとして、令和2年度から実施している「薬局における薬剤交付支援事業」を引き続き実施するとともに、経口治療薬の供給体制や抗原定性検査キットの販売体制の維持に努めている。

【令和6年能登半島地震への支援活動】

令和6年1月1日（火）16時過ぎ、石川県能登地方でマグニチュード7.6、最大震度7の「令和6年能登半島地震」が発生し、津波や広範囲に及ぶ地盤隆起・液状化現象に伴う多数の家屋倒壊と道路の寸断、輪島市の観光名所「朝市通り」における大規模火災などにより、大きな被害が発生した。

死者・行方不明者は約250名に及び、一時は3万名を超える避難者が400箇所以上の避難所で長期間にわたり厳しい寒さの中で過酷な生活を強いられることになった。

被災地には各地から自衛隊、警察、消防、医療チームなどが救援に赴いたが、能登半島沿岸地区は道路が隆起や陥没により激しく損傷しており、孤立した多数の地区の避難所への陸路による支援は容易に進捗しなかった。

この困難な状況の中、日本薬剤師会は1月1日に災害対策本部を設置し、DMATなどの医療チームとともに各地の避難所への医薬品の供給、被災者への調剤・服薬指導を行うことにより被災者の健康状態を維持する準備に着手し、各都道府県薬剤師会にも被災地支援の協力要請を行った。福岡県薬剤師会も1月4日（木）に災害対策本部を設置し、日薬の協力要請に即応できる体制を整え、1月9日（火）には第1班（1チーム3名×2チーム＝6名）の災害支援薬剤師を石川県に派遣し、以後、第13班の派遣期間が終了する3月1日（金）まで派遣を継続して、他県薬の派遣要員と協力して被災者への支援に全力を尽くした。

また、今回の災害では1月5日に石川県が石川県薬剤師会に対してモバイルファーマシーの出動を要請したことに対応し、全国から13台のモバイルファーマシーが出動した。本会のモバイルファーマシーも、1月23日（火）～2月18日（日）まで穴水町と輪島市門前町で活動した。

❧ 定時総会付議事項 ❧

3月上旬に各都道府県薬からの支援派遣が終了したことに伴い、当会の災害対策本部は3月7日（木）付けで解散したが、福岡県から被災地に派遣された薬剤師の総数は延べ309名（非会員含む）に達し、支援活動に参加した方には3月14日付けで当会から感謝状が贈呈された。

【薬事情報センター活動状況】

(1) 医薬品等の情報収集と分類事業

1) 購読雑誌等より

購読医療関係雑誌や行政通知等の有効性・安全性に関する最新情報を収集・更新、評価、分類

2) インターネットの活用

- ① 日本薬剤師会・各県薬剤師会の情報センターと情報連携
- ② オンライン検索による専門情報の収集
- ③ 日本薬剤師会の医薬品情報提供システムによる情報収集および連携

3) 文献データベース作成

- ① 日本薬剤師会が管理運営するBunsakuデータベース（文献管理情報分担入力システム）を共同構築

(2) 医薬品等の相談事業

一般県民や医療関係者等からの医薬品や健康食品等に関する多岐にわたる相談に対応

電話等による総質疑応答（詳細は別表参照）

- ・質問件数：2,429件（月平均202件）
- ・調査件数：6,053件（月平均504件）

1) 一般県民向け相談

- ① 一般県民の相談窓口「くすりなんでもテレホン」を開設（詳細は別表参照）
（平日9：00～17：30、土9：00～12：00、日・祝日除く）
・質問件数：1,631件（月平均135件）
・調査件数：3,272件（月平均272件）
うちLINEによる相談
・質問件数：207件（月平均17件）
・調査件数：695件（月平均57件）
うちメールフォームによる相談
・質問件数：19件（月平均1件）

- ・調査件数：39件（月平均3件）

- ② 24時間（夜間）対応の電話相談
一般県民からの緊急の質問に、夜間（17：30～翌朝9：00）に対応
CTI（Computer Telephony Integration）による電話転送システムを活用

- ・質問件数：30件
- ・調査件数：58件

2) 医療従事者向け相談

- ① 医薬品・医療機器等の適正使用を目的とした情報提供等
- ② 地域包括ケアシステムの推進のため、在宅医療に関する情報提供等
- ③ かかりつけ薬局・薬剤師の薬学的管理・指導を支援するための医薬品情報提供等
- ④ 健康サポート薬局の機能充実のため、一般用医薬品・健康食品等に対する情報提供等
- ⑤ 地域における薬局のDI機能充実のため、医薬品の適正使用に関する情報提供等

(3) 情報発信事業

1) 情報の提供

- ① メールによる情報の提供
安全性情報等を周知徹底するために、情報ネットワークを活用して会員や医療関係団体等へ一斉に情報発信
・メール送信：21件
（送信内容）
医薬品・医療機器等安全性情報、新薬・報告品目・後発医薬品等の薬価基準追補収載、特例承認医薬品のお知らせ、ダイチロナ筋注の追加接種（12歳以上）の承認等
- ② 文献等の資料提供（メール・FAX・郵送）

❧ 定時総会付議事項 ❧

資料提供件数：945件

- ③ X（旧：Twitter）による情報発信
情報発信件数：74件

（発信内容）

薬用歯磨き「チェック・アップコードモA」の使用後に発現したアナフィラキシーの安全対策、GLP-1受容体作動薬およびGIP/GLP-1受容体作動薬の適応外使用、薬剤関連顎骨壊死の病態と管理：顎骨壊死検討委員会ポジションペーパー2023、ダビガトランによる食道潰瘍、食道炎、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）診療の手引き・第10.0版、アセトアミノフェン製剤の消化性潰瘍などの禁忌削除、「抗微生物薬適正使用の手引き 第三版」、薬局ヒヤリ・ハット「共有すべき事例」等

2）印刷物等による情報提供

- ① 定期刊行物「医薬品情報」を発行（「ふくおか県薬会報」に掲載）
・隔月発行（No.502～507）、年6回、A4判、16～30頁
- ② 福岡県医師会の会報「福岡県医報」に「薬事情報センターのページ」を掲載
・毎月1回、年12回（1984年3月より、通算480回）
- ③ 福岡県歯科医師会の会報「歯界時報」に医薬品適正使用情報を掲載
・毎月1回、年12回（2016年2月より、通算98回）

3）ホームページによる情報提供

アクセス件数：1,768,397件（薬剤師会全体のアクセス件数：1,959,139件）

- ① 「医薬品情報」：新薬・報告品目等の薬価基準追補収載について、随時

更新

- ② 「質疑応答」：情報センターに寄せられた質疑応答について、随時更新
- ③ 「薬事情報センターに寄せられた県民・医療従事者からの相談事例」（有害事象防止事例）を掲載、随時更新
- ④ 「消毒薬一覧」を掲載
- ⑤ 「くすりQ&A」を掲載
- ⑥ 「読むおクスリ」を掲載
- ⑦ 「薬剤師業務に役立つインターネット検索サイト」を掲載
- ⑧ 「上手に使う健康食品Vol.1～10」を掲載

（4）その他の事業

1）後発医薬品の使用促進

「ジェネリック医薬品情報コーナー」をホームページに開設し、県民の後発医薬品の選択を支援し、県民や医療関係者へ情報提供すると共に電話相談に対応

2）アンチ・ドーピング活動

- ① 「ドーピング防止ホットライン」を実施し、競技者等からの相談に対応
・質問件数：35件（月平均2件）
・調査件数：131件（月平均10件）
- ② 「公認スポーツファーマシスト」の養成・認定を支援
- ③ 福岡県スポーツ協会の「スポーツ医・科学委員会」へ関連情報を提供し、福岡県のスポーツ振興に協力
- ④ アンチ・ドーピング研修会を開催

3）薬剤師の臨床疫学研究及び学術倫理審査会の運営を支援

4）講演会・研修会で講演、学会発表

6月21日 令和5年度第1回医薬品登録販売者生涯学習外部研修会
福岡
「販売時に注意が必要OTC

- 医薬品～薬物濫用、ドーピングを中心に～」講演
- 7月17日 令和5年度第1回医薬品登録販売者生涯学習外部研修会（再講習）福岡
「販売時に注意が必要なOTC医薬品～薬物濫用、ドーピングを中心に～」講演
- 9月17日 第56回日本薬剤師会学術大会和歌山
「薬事情報センターの利用に関するアンケート調査」ポスター発表
- 2月4日 アンチ・ドーピング研修会伝達講習
「2024年禁止表国際基準の変更点」講演
- 2月18日 第5回福岡県薬剤師会学術大会
「薬事情報センターの利用に関するアンケート調査」ポスター発表

5) 各種学会・研修会・会議等に参加

- 5月28日 Web 福岡県薬剤師会 学会発表スキルアップセミナー
～PECOを使って研究計画を作ってみよう！～
- 7月22日～23日 山形 第31回クリニカルファーマシーシンポジウム医療薬学フォーラム
- 8月26日 福岡 第68回くすりのセミナー福岡
- 9月17日～18日 和歌山 第56回日本薬剤師会学術大会
- 9月23日～24日

- 長崎 第82回九州山口薬学大会
- 11月11日 福岡 福岡県薬剤師会 情報リテラシーを高める研修会
- 12月1日 Web 令和5年度 都道府県薬剤師会アンチ・ドーピング活動担当者等研修会（東京）
- 1月26日 Web 令和5年度 日本薬剤師会薬事情報センター実務担当者等研修会（東京）
- 2月18日 福岡 第5回福岡県薬剤師会学術大会
- 2月28日 Web 令和5年度 日本薬剤師会研究推進に関する全国会議（東京）
- 3月7日 東京 令和6年度調剤報酬改定等説明会
- 3月29～31日 横浜 日本薬学会第144年会

6) 会議の運営

- ① ワーキンググループ：毎月1回（12回開催）
- ② 情報センター運営委員会：毎年1回（2月）

7) 「薬事情報センター利用に関するアンケート」結果を学会で発表

8) 新型コロナウイルスワクチン専用ダイヤルの運営を支援

9) 「薬剤師に必要な消毒薬の知識」の発行準備

・定時総会付議事項・

令和5年度 薬事情報センター活動状況

I. 情報センターへの問い合わせ

(1) 質問件数（質問者の数）

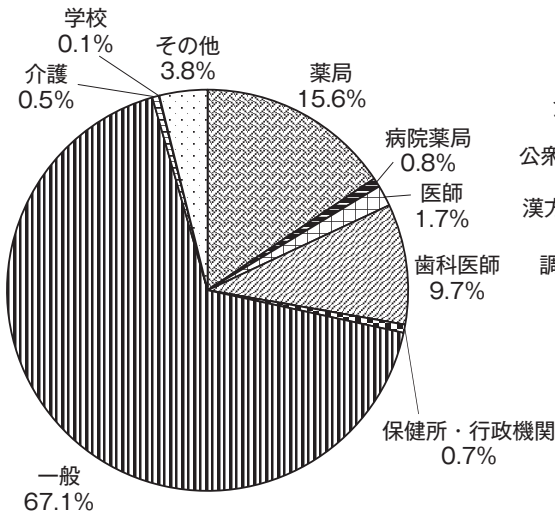
区 分		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均	%
会 員	薬 局 ・ 薬 店	29	41	38	45	35	20	26	27	31	24	29	34	379	31.6	15.6
	病院・診療所薬局	1	1	0	0	1	0	1	2	0	0	3	0	9	0.8	0.4
	製 薬 会 社	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0
	医 薬 品 卸	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0
	保健所・行政機関	1	2	2	2	2	0	0	2	4	1	0	0	16	1.3	0.7
	県 内 支 部	1	0	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	4	0.3	0.2
	そ の 他	6	5	1	7	8	5	9	9	8	3	4	5	70	5.8	2.8
	小 計	38	49	41	56	46	26	36	40	43	28	36	39	478	39.8	19.7
非 会 員	医 師	2	4	5	2	4	3	2	7	6	2	3	1	41	3.4	1.7
	歯 科 医 師	26	34	28	23	22	17	26	15	8	7	12	18	236	19.7	9.7
	病院・診療所薬局	0	1	2	1	1	1	1	1	0	1	0	0	9	0.8	0.4
	県外薬剤師会	1	0	2	1	3	0	0	3	2	2	1	3	18	1.5	0.7
	一 般	114	132	150	162	144	151	126	152	135	111	128	126	1,631	135.9	67.1
	介 護	0	0	2	0	0	4	1	1	1	0	1	3	13	1.1	0.5
	学 校	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0.1	0.1
	そ の 他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2	0.2	0.1
	小 計	143	171	189	189	174	176	156	179	152	125	145	152	1,951	162.6	80.3
合 計		181	220	230	245	220	202	192	219	195	153	181	191	2,429	202.4	100.0
累 計		－	401	631	876	1,096	1,298	1,490	1,709	1,904	2,057	2,238	2,429	－	－	－

(2) 調査件数（質問内容による分類）

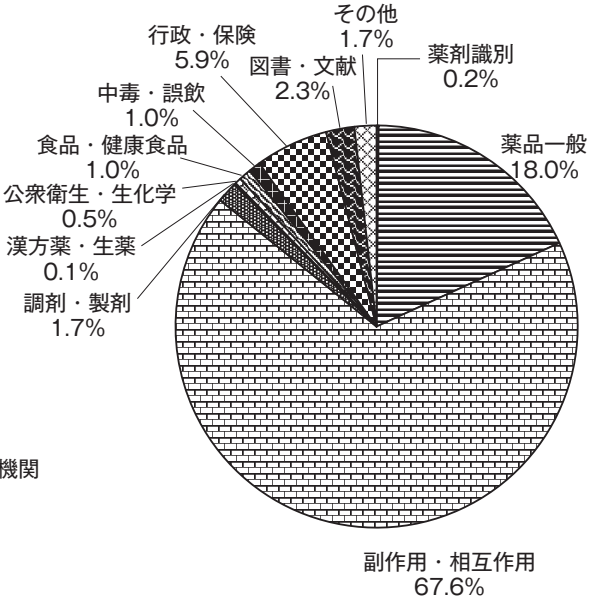
区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均	%
薬 剤 識 別	0	0	2	0	0	0	1	0	2	0	5	0	10	0.8	0.2
薬 品 一 般 *	55	84	103	88	94	136	97	116	86	63	87	81	1,090	90.8	18.0
副作用・相互作用	466	412	410	396	367	356	371	369	221	216	261	249	4,094	341.2	67.6
調 剤 ・ 製 剤	4	12	2	9	12	22	3	9	7	4	11	7	102	8.5	1.7
漢 方 薬 ・ 生 薬	2	0	2	0	1	0	1	0	2	1	0	0	9	0.8	0.1
公衆衛生・生化学	1	2	5	2	8	2	0	5	0	0	1	4	30	2.5	0.5
食品・健康食品	5	3	6	12	4	4	3	1	3	5	5	9	60	5.0	1.0
中 毒 ・ 誤 飲	6	4	8	12	5	4	1	3	3	5	2	5	58	4.8	1.0
行 政 ・ 保 険	29	37	35	36	41	19	23	23	31	26	25	30	355	29.6	5.9
図 書 ・ 文 献	8	11	11	13	14	12	10	14	17	8	10	10	138	11.5	2.3
そ の 他	13	13	7	11	10	8	4	7	9	9	3	13	107	8.9	1.7
合 計	589	578	591	579	556	563	514	547	381	337	410	408	6,053	504.4	100.0
累 計	—	1,167	1,758	2,337	2,893	3,456	3,970	4,517	4,898	5,235	5,645	6,053	—	—	—

*：市販の有無、用法・用量、治療方法など

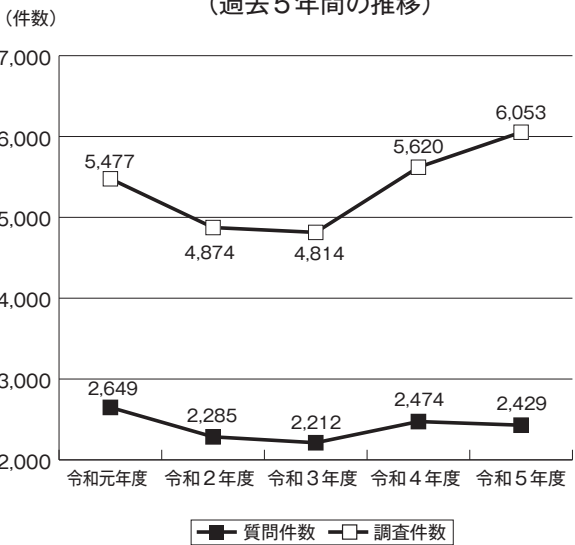
令和5年度 質問件数内訳
(総件数 2,429件)



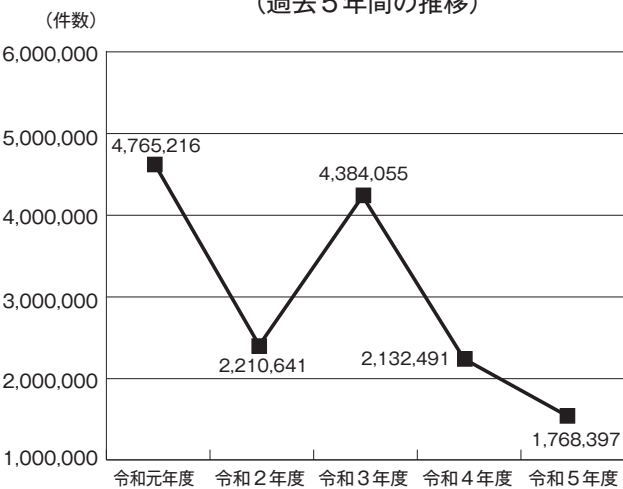
令和5年度 調査件数内訳
(総件数 6,053件)



質問件数・調査件数
(過去5年間の推移)



ホームページアクセス件数
(過去5年間の推移)



・定時総会付議事項・

II. 情報センターへの一般からの問い合わせ

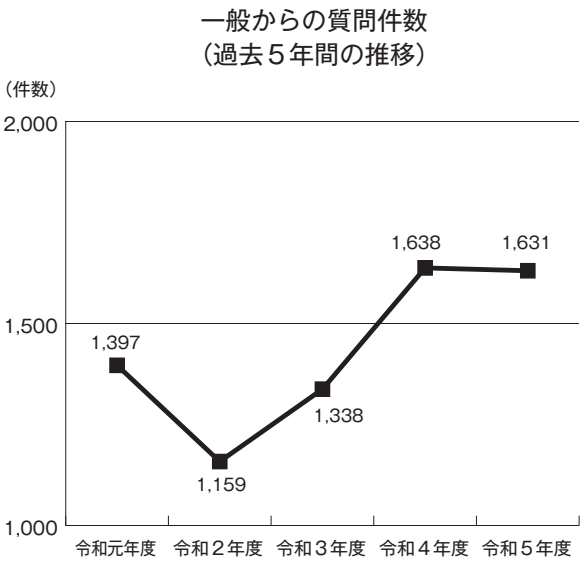
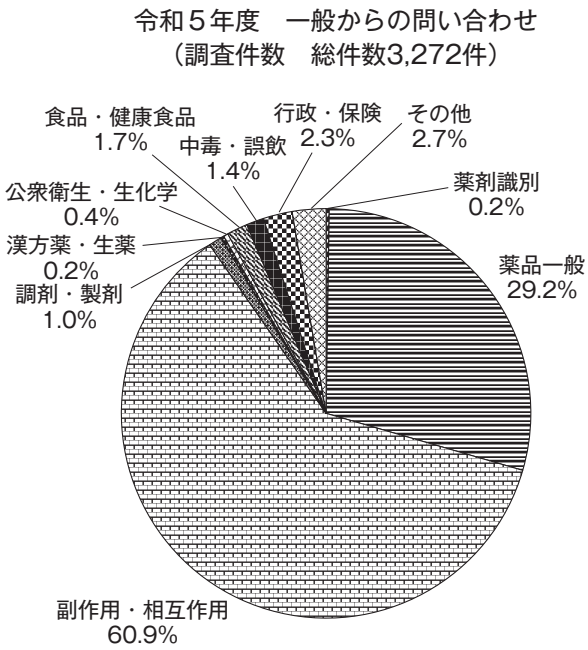
(1) 質問件数 (質問者の数)

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
合 計	114	132	150	162	144	151	126	152	135	111	128	126	1,631	135.9
累 計	—	246	396	558	702	853	979	1,131	1,266	1,377	1,505	1,631	—	—

(2) 調査件数 (質問内容による分類)

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均	%
薬 剤 識 別	0	0	2	0	0	0	0	0	1	0	5	0	8	0.7	0.2
薬 品 一 般 *	49	78	89	79	80	118	88	100	75	59	76	66	957	79.8	29.2
副作用・相互作用	196	127	216	171	175	172	146	234	157	159	139	100	1,992	166.0	60.9
調 剤 ・ 製 剤	3	0	0	2	3	20	0	0	1	2	3	0	34	2.8	1.0
漢 方 薬 ・ 生 薬	2	0	2	0	1	0	1	0	1	1	0	0	8	0.7	0.2
公衆衛生・生化学	0	1	1	0	2	1	0	4	0	0	1	2	12	1.0	0.4
食 品 ・ 健 康 食 品	5	1	5	11	3	4	3	1	3	4	5	9	54	4.5	1.7
中 毒 ・ 誤 飲	5	3	5	5	5	4	1	3	3	4	2	5	45	3.8	1.4
行 政 ・ 保 険	7	3	7	7	8	6	4	6	3	7	7	10	75	6.3	2.3
図 書 ・ 文 献	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0
そ の 他	13	12	5	6	8	7	4	3	9	6	3	11	87	7.3	2.7
合 計	280	225	332	281	285	332	247	351	253	242	241	203	3,272	272.7	100.0
累 計	—	505	837	1,118	1,403	1,735	1,982	2,333	2,586	2,828	3,069	3,272	—	—	—

*：市販の有無、用法・用量、治療方法など



報告第3号 令和6年度事業計画の件

令和6年度事業計画

本年1月1日16時10分に、石川県能登地方においてマグニチュード7.6、最大震度7の地震が発生した。地震による家屋倒壊や土砂災害、津波などにより死者が200人を超えるなど、甚大な被害が発生している。本会は1月4日に支援を目的とした災害対策本部を設置し、情報収集や支援体制の構築にあたり、1月9日より支援薬剤師やモバイルファーマシーを派遣している。このような自然災害には地域を問わず備える必要があり、従来より本会は、災害に関する各種協定の締結やモバイルファーマシーを中心とした災害対応に必要な資材等の整備、VPCSによる災害時の薬局在庫情報の共有、速やかな支援に向けた人材の養成などを先進的に取り組んでおり、引き続き県防災総合訓練への参加や、災害支援薬剤師養成に向けた研修等を通じ、実効性のある体制整備を行う。

我が国においては新型コロナウイルス感染症が5類感染症へ移行したことにより、多くの社会経済活動が活発化し、新たな日常が本格化した。ただし、新たな感染症の発生はこれからも想定されるものであり、薬局の感染症法に基づく「医療措置協定」の締結や、その機能・役割の実施、加えて地域住民一人ひとりの対応が重要である。我々は次に備えるとともに、引き続き地域住民のために薬剤師として活動していくことが求められる。ワクチン接種に伴う次のステージも視野に入れつつ、地域住民に対する医薬品の継続的な提供体制の構築とともにOTC医薬品・抗原定性検査キット等の適切な販売など、医薬品提供体制を担う日常的接点のある薬剤師ならではの活動を行っていく必要がある。

本年は診療報酬・介護報酬・障害福祉サービス等報酬のトリプル改定の年であるが、十分とは言えないまでもプラス改定となった。一方

で、新たな時代の薬局に向けた要求を窺わせる改定となり、内容を精査のうえ対応すべく事業を進めていく。

本年より第8次医療計画がスタートする。今回の医療計画には薬剤師や薬局に関する内容がこれまでになく盛り込まれており、特に「薬剤師の確保」や「薬局の活用」に関しては調剤という薬局の部分的役割のみならず、今後期待される役割や機能、つまり「あり様」が求められる内容となっている。介護・障害福祉サービス等との更なる連携とともに、第8次医療計画、健康サポート機能の充実、医療DX、さらには災害・新興感染症等への対応やプログラム医療機器（SaMD）への対応、緊急避妊薬の取り扱いなど、引き続き活動を検討し実行する。

医療分野におけるデジタル化は急速に進展し、電子処方箋の発行が順次開始されている。オンライン資格確認システムも義務化となり、そのプラットフォームを用いた薬剤情報等の閲覧に加え、電子カルテ情報共有サービスの検討やオンライン服薬指導機能も追加された次世代電子お薬手帳の運用も開始される。これからの薬剤師業務において医療DX対応は必須であり、インフラ整備の段階から適切な運用にむけた段階に変わりつつある。日本薬剤師会、地区薬剤師会と協力し、意欲ある薬剤師や薬局の支援を行うとともに、リテラシー習得に向けた対策も行う。

一方、今後積極化すると思われる電子処方箋の運用において必須となる薬剤師資格証（HPKIカード）の発行状況については、国際的な社会状況の影響を受けたカードの調達の不調に加え、発行申込件数の低調や想定を上回る書類不備等により、低調に推移している。電子処方箋においてもフリーアクセスを実現するた

定時総会付議事項

め、引き続き円滑な運用に向けての対応を進めていく。併せて県民のマイナンバーカードの保険証利用に向けた啓発を行うとともに、延期されている薬剤師資格証のマイナポ申請が開始された際には、積極的に周知を行っていく。

昨今、薬剤師・薬局に向けた規制改革の声は大きく、同意しかねる内容も多く含まれている。薬剤師・薬局の役割を示している「薬機法・薬剤師法」の趣旨・概念に基づき業務を行うとともに、薬剤師としての新たな可能性に向け、しっかりと責任を果たしていかなければならない。さらに厳しさを増すと思われる薬局の運営においては、地域における医薬品提供体制の維持と組織強化の視点に基づき、薬剤師による薬局運営についてのスキル習得とともに継続的運営に向けた支援を引き続き行う予定である。加えて、今年度から実施される改訂版の薬学教育モデル・コア・カリキュラムに沿った薬学教育の支援についても、将来ともに役割を担う後進の育成という観点から、引き続き積極的に対応していかなければならない。

本年度は「患者のための薬局ビジョン」「地域包括ケアシステムの構築」の実現目標である2025年に向けた最終の年である。実現に向けたラストスパートとともに、次に向けたマイルストーンとゴールをイメージしなければならない。地域に必要とされる社会的役割の中での薬剤師・薬局として、また経済的視点による薬剤師・薬局としても、今後の持続可能性について精査のうえで活動を行い、願わくば「種を蒔き、芽吹かせる」新たな春の年としたい。

以上を基本として、日本薬剤師会、地区薬剤師会と連携の下、災害、調剤報酬改定、薬局機能・ビジョン、医療DXなど、地域住民の健康な生活の確保・向上に寄与するため、以下に掲げる事項に取り組む。

1. 公1 県民の医薬品の適正な使用を図ることを目的とする事業

- (1) インターネット等を用いた広報活動事業
 - 1) 福岡県薬剤師会ホームページやSNSの活用による県民向け情報の充実および県内薬剤師への情報の共有と一元化ならびに知識啓発を実施
 - 2) 薬剤師職能に関する広報
- (2) 地域医療の向上を目指した情報提供事業
 - 1) 薬剤師無料職業紹介所およびファーマファインドJOB（薬剤師の求人求職Webシステム）の維持・運営
- (3) セミナー等の開催による広報活動事業
 - 1) 「くすりのセミナー福岡」の開催と講演内容の充実（年2回の開催予定）
 - 2) 「県民健康づくりセミナー」への参加と講演内容の充実
- (4) 新聞社・テレビ局を通じた広報活動事業
 - 1) マスメディア（新聞社・テレビ・ラジオ等）を通じた薬局・薬剤師職能の広報活動
- (5) 県薬会報（隔月刊誌）の編集・発行を通じた広報活動事業
 - 1) 県薬会報の充実
 - ① 会員への通達事項の掲載
 - ② 薬剤師職能に関する特集記事の企画および掲載
 - ③ 薬学・医療等の学術関連記事の掲載
 - ④ 最新の医薬品関連情報の掲載
 - ⑤ 地区薬剤師会の相互理解を深める記事の掲載
 - ⑥ 組織内の連携強化を図る記事の掲載
- (6) 行政機関との連携事業
 - 1) 組織強化
 - ① 公益法人制度および公益法人会計基準への継続的対応

2. 公2 県民の保険制度の充実を図ることを目的とする事業

(1) 医療における医療保険制度実施事業

1) セミナー、研修会、講習会などによる薬剤師の知識向上

- ① 保険薬局セミナーの開催・地区指導者研修会の開催
- ② 調剤報酬改定伝達講習会後の保険調剤Q & A等に関する会員への解釈の周知
- ③ 個別指導への指導員の推薦および立会者の派遣
厚生労働省および県との共同指導への立会者の派遣
国保診療報酬審査委員会への審査員推薦、社会保険診療報酬請求書審査委員会への審査員推薦
- ④ 委員会間の在宅医療等に関する積極的な情報の交換
- ⑤ 保険調剤業務の研修、伝達
- ⑥ 県薬会報への「審査ニュース」掲載
- ⑦ 適正受診指導事業の受託および関係者への指導実施

(2) 行政機関との連携事業

1) 保険関係機関や地域医療との連携

- ① 九州厚生局指導監査課との協議
- ② 福岡県国民健康保険団体連合会・社会保険診療報酬支払基金との協議
- ③ 福岡県医療審議会、福岡県薬事審議会および福岡県地域医療構想調整会議への参画、九州地方社会保険医療協議会、福岡県保険者協議会ならびに企画調査部会および保健活動部会への参画
- ④ 県五師会の協調と行政とのタイアップ
- ⑤ 在宅医療への薬剤師の参加を支援し、地域医療連携を積極的に推進

(3) 医療費削減を目的としたジェネリック医薬品使用促進活動事業

1) ジェネリック医薬品使用促進のための環境整備

- ① ジェネリック医薬品の備蓄および調剤に必要な体制の確保に向けた取り組み（ジェネリック医薬品情報のWebサービス）

(4) 県民の医療安全を目的とした調剤事故防止活動事業

1) 調剤事故防止に向けた活動

- ① 医療事故防止に向けた薬剤師職能の強化、調剤事故の削減を図るための研修会の開催
- ② 日本医療機能評価機構「薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業」への参加促進および事例報告の啓発
- ③ ICT（Information and Communication Technology）を使った調剤事故防止システムの紹介および普及促進
- ④ 薬局における安全管理体制の整備に関連した「医療安全管理指針」と「医薬品の安全使用のための業務手順書」の更新の周知および従業者に対する研修会の開催
- ⑤ 病院薬剤部と薬局間の患者情報共有による調剤事故回避へ向けた環境整備の促進（薬薬連携等）
- ⑥ 調剤事故が発生した際の対応の検討
- ⑦ 「調剤された薬剤および医薬品の情報提供等のための業務に関する指針」と「手順書」の設置の徹底および従業者に対する研修会の開催
- ⑧ 医療事故調査支援委員会および医療事故調査等支援団体連絡協議会への協力
- ⑨ 副作用、相互作用、治療効果不十分

❧ 定時総会付議事項 ❧

などを回避あるいは軽減した事例の
収集および報告

⑩ 医療安全セミナーの開催

(5) 薬業連携事業（医療機関と保険薬局の患
者情報等の共有事業）の強化事業

1) 薬業連携の強化

- ① 福岡県病院薬剤師会との連携推進
- ② 「お薬手帳」、「院外処方箋」等によ
る情報共有の促進
- ③ 臨床検査値等の医療情報を活用した
安全で質の高い適正な薬物療法の推
進
- ④ がん化学療法に関する情報共有を目
的とした標準レジメンの県薬会報掲
載
- ⑤ VPCSneo（Virtual Pharmacy
Computer System）の地域連携機能
を活用した情報共有の推進
- ⑥ 薬局、病院が連携した入退院支援の
推進
- ⑦ トレーシングレポートの現状調査お
よび活用推進

2) 薬局・薬剤師の職能強化

- ① DEM（Drug Event Monitoring）事
業への参加

(6) 在宅における医療保険と介護保険の適正
化事業

1) 在宅医療（緩和ケアを含む）と介護保
険制度

- ① 訪問薬剤（在宅患者訪問、居宅療
養）管理指導の推進と質の向上
- ② 福岡県保健医療介護部、福岡県介護
保険広域連合、福岡県国民健康保険
団体連合会、福岡県後期高齢者医療
広域連合関連委員会、協議会、検討
会等への委員派遣および協働連携
- ③ 地域包括ケアシステムの構築に関す
る事業への積極的な参画、関係職種

（医師会、歯科医師会、看護協会、
栄養士会、介護支援専門員協会等）
との連携強化

- ④ 在宅医療に関する研修会の開催
- ⑤ 在宅訪問に関する医療保険と介護保
険請求の周知徹底（保険薬剤師必読
ハンドブック等の活用）
- ⑥ 在宅関連の学会・研修会への派遣・
情報収集、福岡県介護保険審査会へ
の委員派遣
- ⑦ 多職種連携推進事業の地区薬での取
り組みを支援するため、薬剤師在宅
業務の啓発へ向けた研修会への講師
派遣

**3. 公3 薬剤師の医学・薬学知識の向上や
薬学教育制度の充実を図ることを目的と
する事業**

- (1) 学術研修事業企画
- (2) 薬学教育の支援およびその人材育成に関
する事業

1) 薬学教育への対応

- ① 認定実務実習指導薬剤師養成および
更新事業の継続
 - a. 認定実務実習指導薬剤師養成講
習会の開催
 - b. 認定実務実習指導薬剤師養成
ワークショップへのタスク
フォース派遣
 - c. 認定実務実習指導薬剤師養成
ワークショップの支援
 - d. 認定実務実習指導薬剤師更新へ
の対応
- ② 薬学生実務実習受け入れ体制の充
実・強化
 - a. 薬学実習生と受け入れ施設との
マッチング
 - b. 「6年制薬局実習の受入薬局に

- 対する日本薬剤師会の基本的な考え方」の周知
- c. 日本薬剤師会「薬局におけるふるさと実習に向けた提言」への対応
- ③ 実務実習におけるトラブルへの対応
 - a. ハラスメントの予防と啓発
 - b. 県内ブロック別トラブル対応担当者の設置・対応
- ④ 大学および関係団体との連携強化
 - a. 早期臨床体験受け入れへの協力
 - b. OSCE（Objective Structured Clinical Examination）評価者等の派遣
 - c. 実務実習事前学習への講師派遣
 - d. 大学との共同による実務実習受け入れ施設への説明会の開催
 - e. 病院・薬局実務実習九州・山口地区調整機構との連携
 - f. 九州山口地区薬剤師会薬局実務実習受入調整機関事務局の運営
 - g. 九州山口地区薬剤師会薬局実務実習受入調整機関実習施設概要閲覧サイトの管理・運営
 - h. 薬学生の教育支援
 - i. 他地区調整機構に所属する大学との連携

4. 公4 県民の環境衛生の向上を図ることを目的とする事業

- (1) 学校薬剤師事業
 - 1) 学校薬剤師事業
 - ① 学校薬剤師事業、公衆衛生活動への支援と参加
 - ② 学校薬剤師の資質向上のための研修会の開催
 - ③ 環境衛生検査等に対する積極的対応

- ④ 学校保健、環境衛生学術大会への参加
- ⑤ 薬の適正使用の啓発と指導
- ⑥ 薬物乱用防止活動への参加、協力
- ⑦ 児童生徒に対する喫煙防止教育、飲酒防止教育への支援
- ⑧ 学校保健に関する県三師会の協調と行政とのタイアップ
- ⑨ 福岡県学校保健会事業への協力
- (2) 医薬品試験検査センターの技術向上への支援事業
 - 1) 試験センター事業
 - ① 試験検査センターへの支援
 - ② 試験検査センターの技術向上
 - ③ 試験検査センター活動の広報
- (3) 行政機関等との連携事業
 - 1) 公害審査会への参加
 - 2) ふくおか健康づくり県民会議への協力および支援
 - 3) 特定の機能を有する薬局の認定への支援
- (4) 行政機関等との協賛事業
- (5) 薬剤師に対する体系的な卒後教育・研修活動事業の企画・開催
 - 1) 薬剤師研修制度の充実
 - ① 日本薬剤師会生涯学習支援システム「JPALS」(Japan Pharmaceutical Association life long Learning support System)の利用促進に向けた周知
 - ② ホームページでの研修会案内の充実
 - ③ 福岡県薬剤師会研修システムの維持管理
 - ④ 研修認定薬剤師制度(日本薬剤師研修センター)の活用
 - ⑤ インターネットによる会員への情報提供
 - ⑥ 高度な薬学的管理能力の向上を目指

定時総会付議事項

すための各学会等との共催事業

- ⑦ 薬剤師のかかりつけ機能強化研修の支援
- ⑧ 「健康サポート薬局」制度に基づく研修会の開催

2) 薬剤師の質の向上へ向けた取り組み

- ① 地区指導者研修会の開催
- ② 福岡県薬剤師会学術大会の開催準備
- ③ 学会発表等の活性化を支援
- ④ 臨床疫学研究における学術倫理審査会の運営
- ⑤ 「いわゆる健康食品」についての正しい知識の普及と健康被害の未然防止
- ⑥ 「いきいき健康ふくおか21」への積極的支援
- ⑦ 福岡県禁煙相談員養成研修の開催
- ⑧ 認知症対応力向上研修の開催
- ⑨ 情報リテラシーを高める研修会の開催

(6) 地域医療への参加と協力事業

1) 地域医療への参加と協力

- ① 地区健康推進協議会への参加推進と保健事業の積極的な実施
- ② オンライン診療に伴う緊急避妊薬の調剤の提供体制の整備

(7) 災害発生時の救援活動等への対応整備事業

- 1) 県民および薬剤師に対する震災等への防災意識高揚へ向けた取り組み実施、および防災マニュアル等の作成
- 2) 最新の情報に基づいた業務継続に向けての具体的対策
- 3) 災害時における医薬品等供給調整業務を行う災害支援薬剤師の養成、環境衛生に関わる検査および指導助言
- 4) 災害薬事コーディネーター、災害支援薬剤師による災害対応訓練および研修

会の開催

- 5) 災害用備蓄品・資材の整備
- 6) モバイルファーマシーの維持・管理、防災訓練および研修会の開催

5. 公5 県民等の薬事情報収集の効率化を図ることを目的とする事業

(1) 医薬品等の情報収集と分類

1) 薬事情報センター

- ① 情報の収集・分類や各事業の支援
 - a. 医薬品医療機器による健康被害防止を目的とした有効性・安全性情報の収集・提供体制の充実
 - b. ジェネリック医薬品情報提供に関するWebサービスの運用
 - c. 地域連携薬局の情報提供活動を支援
 - d. かかりつけ薬剤師・薬局による薬学的管理・指導に対する支援
 - e. 健康サポート薬局の機能充実を目指した情報の提供
 - f. 臨床疫学研究における学術倫理審査会の支援
 - g. CTI (Computer Telephony Integration) システムを活用した質疑応答データベースの作成
 - h. 「公認スポーツファーマシスト」制度の推進と養成支援
 - i. 「薬剤師に必要な消毒薬の知識」の発行準備

(2) 相談事業

- 1) 県民や医療関係者などへの医薬品等に関する相談・啓発活動
 - ① 「くすりなんでもテレホン」による医薬品等の電話相談の実施
 - ② 県民からのWebやLINEによる問い合わせや医薬品等の相談の実施
 - ③ 医薬品・健康食品等の適正使用につ

いての講演会・広報などを通じた啓
発活動

- ④ 県民・医療関係者へのジェネリック
医薬品の使用促進に向けた情報提供
と、品質確認などの電話相談の実施
- ⑤ 「ドーピング防止ホットライン」に
よるアンチ・ドーピング活動に関す
るWeb・電話相談の実施

(3) 情報発信

1) 出版物やインターネットを利用した情 報発信

- ① 「ふくおか県薬会報」「福岡県医
報」「歯界時報」を通じた、医薬品
医療機器安全性情報および適正使用
情報の提供
- ② ホームページ・メール・FAX・SNS
などによる安全性情報や薬価収載な
どの即時提供
- ③ ホームページを通じた県民向けパン
フレットの公開
- ④ ホームページを通じた相談事例や
Q&A、薬剤師業務に役立つ情報を
提供

6. 公6 業としての薬業全体の質の向上を 図ることを目的とする事業

(1) 薬局・薬剤師業務の充実へ向けた事業

1) 薬局業務の充実

- ① 薬局・薬剤師が地域住民による主体
的な健康の維持・増進を支援するた
めに必要な環境の整備および研修体
制の構築
- ② VPCSneoの利用によるジェネリック
医薬品の安定した流通供給の確保な
らびに医療材料・衛生材料の供給体
制の整備
- ③ 「患者のための薬局ビジョン」およ
び「福岡県版薬局グランドデザイ

ン」に対応する薬局・薬剤師の質の
向上と県民・地域のニーズに基づく
薬局機能の検討

- ④ かかりつけ薬剤師・薬局による薬学
的管理・指導に対する支援に必要な
体制の整備

(2) 薬局業務のICT推進事業

1) 薬局内ICT化と薬局業務支援システム であるVPCSneoの普及推進

- ① eお薬手帳3.0の普及促進と、薬局へ
の導入支援
- ② 医薬品備蓄、流通供給、医薬品情報
収集、ジェネリック医薬品使用促進
等のための薬局業務支援システムで
あるVPCSneoの普及促進
- ③ 多様化する在宅医療に対応するため
医療材料・衛生材料の安定供給に関
するシステムの維持・運用
- ④ 日本薬剤師会認証局による「薬剤師
資格証（HPKI）」発行業務の支援

(3) 健康食品、喫煙などによる健康被害の防 止対策事業

- 1) 「福岡県たばこ対策事業」の一環とし
て、「卒煙サポート薬局」・「禁煙相
談員」養成のための研修会の企画・開
催
- 2) 「いわゆる健康食品」についての正し
い知識の普及と健康被害の未然防止

(4) 行政機関との連携事業

- 1) 医療機器販売業等の営業所管理者、医
療機器修理業の責任技術者に対する継
続研修会の開催
- 2) 「健康日本21」への取り組み関係団体
として積極的に事業を展開
- ① 運動、食生活、喫煙等に関する目標
の設定に関与
- ② メタボリックシンドロームの該当者
および予備群の減少に関与

❧ 定時総会付議事項 ❧

- ③ 健康診査および保健指導の実施に関与
- 3) 「いきいき健康ふくおか21」への参加と積極的支援を実施、「いきいき福岡健康づくり推進協議会」、「健康21世紀福岡県大会実行委員会」等へ委員を派遣
- 4) 「薬と健康の週間」の実施
 - ① 県民向けの「くすりと健康フェア」を開催
 - ② 県民向けにSNSを活用した薬剤師職能や医薬品に関する情報提供の実施
- 5) 「新オレンジプラン」に基づく認知症対応力向上研修の企画・開催
- 6) 麻薬小売業者に対する研修会の開催
- 7) がん検診等の啓発と知識習得のための研修会の開催

7. 他1 斡旋図書を斡旋・販売する事業

- (1) 薬事関係図書等の斡旋販売事業
 - 1) 教育研修、実務関係の書籍、行政に申請する書類等の斡旋

8. 他2 会員相互事業

- (1) 地区薬剤師会および会員に対する表彰および会員に対する弔慰・見舞金給付事業
- (2) 会員向け保険事業
 - 1) 薬局・薬剤師として社会的責任を果たすため「薬剤師賠償責任保険」等のPRと加入促進
- (3) 薬局運営に関する支援事業
 - 1) 薬局運営・事業承継支援事業
(Pharmacy Operation & Succession Project) の運営
 - 2) 「CB College」のPRと加入促進
- (4) その他
 - 1) 組織強化
 - ① 会員加入促進
 - ② 会員証機能を有するアプリの運用
 - 2) 関係団体との連携
 - ① 福岡県薬業団体連合会との連携
 - ② 福岡県薬剤師国民健康保険組合への加入促進
 - ③ 福岡県医薬品登録販売者協会との連携

報告第4号 令和6年度収入支出予算の件

令和6年度収支予算書

自 令和6年4月1日
至 令和7年3月31日

(単位：円)

科 目	令和6年度予算額	令和5年度予算額	差引増減額	備 考	
I. 一般正味財産増減の部					1
1. 経常増減の部					2
(1) 経常収益					3
基本財産運用益	0	0	0		4
特定資産運用益	4,000	4,000	0		5
特定資産受取利息	4,000	4,000	0		6
受取入会金	2,220,000	2,610,000	-390,000		7
受取入会金	2,220,000	2,610,000	-390,000	A会員:50,000円、B会員:10,000円	8
受取会費	147,060,000	143,414,000	3,646,000		9
本会費	78,452,000	78,466,000	-14,000		10
正A会費	52,698,000	52,880,000	-182,000		11
正B会費	23,916,000	23,514,000	402,000		12
賛助A会費	1,334,000	1,484,000	-150,000		13
賛助B会費	504,000	588,000	-84,000		14
保険薬局特別会費	68,608,000	64,948,000	3,660,000		15
事業収益	14,904,000	11,129,000	3,775,000		16
広告出版収益	858,000	660,000	198,000	県薬会報	17
受取手数料	1,442,000	1,599,000	-157,000	保険料手数料他	18
共同事業収益	12,604,000	8,870,000	3,734,000		19
図書売上	8,891,000	5,336,000	3,555,000		20
用紙売上	3,713,000	3,534,000	179,000		21
受取補助金等	26,287,000	26,252,000	35,000		22
情報センター	13,680,000	13,680,000	0		23
日本薬剤師会助成金	11,821,000	11,782,000	39,000		24
受取補助金等振替額	786,000	790,000	-4,000		25
受取負担金	18,999,000	21,867,000	-2,868,000		26
福薬連受入金	600,000	600,000	0		27
研修会受入金	11,766,000	14,710,000	-2,944,000	研修会参加費	28
他団体受入金	6,633,000	6,557,000	76,000	九山、連盟、調整機関、学校薬剤師他	29
受託収益	16,676,000	18,936,000	-2,260,000		30
学校保健衛生受託収益	8,364,000	8,313,000	51,000	プール水質検査料、教室等空気環境検査料	31
業務受託収益	8,312,000	10,623,000	-2,311,000		32
雑収益	459,000	363,000	96,000		33
受取利息	5,000	5,000	0		34
受取賃貸料	90,000	90,000	0		35
その他収益	364,000	268,000	96,000	保険薬剤師必読ハンドブック他	36
経常収益計	226,609,000	224,575,000	2,034,000		37
(2) 経常費用					38
A. 事業費	179,694,000	165,382,000	14,312,000		39
役員報酬	11,613,000	11,712,000	-99,000		40
給料手当	50,687,000	45,474,000	5,213,000		41
臨時雇賃金	638,000	907,000	-269,000		42

・定時総会付議事項・

(単位：円)

科 目	令和6年度予算額	令和5年度予算額	差引増減額	備 考	
役員退職金	0	1,850,000	-1,850,000	役員退職記念品	1
退職給付費用	1,000	1,000	0		2
福利厚生費	11,042,000	8,904,000	2,138,000		3
厚生費	1,227,000	1,174,000	53,000		4
社会保険料	8,416,000	6,438,000	1,978,000		5
退職共済掛金	1,399,000	1,292,000	107,000		6
旅費交通費	25,678,000	24,697,000	981,000		7
旅費	2,065,000	2,322,000	-257,000		8
交通費	23,613,000	22,375,000	1,238,000		9
通信運搬費	3,235,000	3,071,000	164,000		10
減価償却費	2,745,000	3,611,000	-866,000	モバイルファーマシー他	11
消耗什器備品費	170,000	20,000	150,000		12
消耗品費	1,119,000	1,141,000	-22,000		13
修繕費	499,000	905,000	-406,000		14
広報宣伝費	16,820,000	14,098,000	2,722,000		15
広報費	13,351,000	10,999,000	2,352,000	県薬会報	16
会報郵送料	3,469,000	3,099,000	370,000		17
印刷製本費	7,130,000	3,973,000	3,157,000		18
印刷製本費	7,130,000	3,973,000	3,157,000	研修会等資料他	19
共同事業仕入	12,341,000	8,546,000	3,795,000		20
図書仕入	9,461,000	5,410,000	4,051,000		21
用紙仕入	2,880,000	3,136,000	-256,000		22
図書費	2,275,000	1,927,000	348,000		23
光熱水料費	1,860,000	1,730,000	130,000		24
賃借料	6,350,000	5,668,000	682,000		25
諸謝金	3,065,000	4,488,000	-1,423,000		26
租税公課	1,381,000	1,392,000	-11,000		27
諸会費	130,000	130,000	0		28
会員弔慰災害見舞費	380,000	200,000	180,000	会員弔慰金	29
支払負担金	8,364,000	8,313,000	51,000		30
福岡県学校保健会負担金	8,364,000	8,313,000	51,000	プール水質検査料、教室等空気環境検査料	31
支払助成金	870,000	1,142,000	-272,000	健康21世紀大会、福薬連他	32
委託費	7,753,000	8,000,000	-247,000		33
委託費	7,553,000	7,800,000	-247,000	試験検査センター、薬と健康フェア他	34
研修システム費	200,000	200,000	0		35
雑費	3,548,000	3,482,000	66,000		36
事務委託費	330,000	330,000	0		37
支払手数料	2,647,000	2,428,000	219,000		38
研修費	535,000	723,000	-188,000		39
雑支出	36,000	1,000	35,000		40
B. 管理費	46,114,000	47,470,000	-1,356,000		41
役員報酬	653,000	653,000	0		42
給料手当	5,773,000	8,322,000	-2,549,000		43
臨時雇賃金	392,000	158,000	234,000		44
退職給付費用	1,000	1,000	0		45
福利厚生費	4,021,000	4,071,000	-50,000		46
厚生費	2,804,000	2,420,000	384,000		47

(単位：円)

科 目	令和6年度予算額	令和5年度予算額	差引増減額	備 考
社会保険料	1,044,000	1,371,000	-327,000	
退職共済掛金	173,000	280,000	-107,000	
旅費交通費	11,955,000	11,496,000	459,000	
旅費	5,731,000	3,958,000	1,773,000	
交通費	6,224,000	7,538,000	-1,314,000	総会他
交際渉外費	2,084,000	1,983,000	101,000	
渉外費	2,084,000	1,983,000	101,000	
通信運搬費	445,000	414,000	31,000	
減価償却費	873,000	554,000	319,000	
消耗什器備品費	12,000	12,000	0	
消耗品費	255,000	259,000	-4,000	
修繕費	69,000	145,000	-76,000	
印刷製本費	288,000	291,000	-3,000	
図書費	1,000	1,000	0	
光熱水料費	440,000	420,000	20,000	
賃借料	514,000	460,000	54,000	
保険料	725,000	726,000	-1,000	
租税公課	145,000	116,000	29,000	
諸会費	90,000	90,000	0	
会館管理費	868,000	598,000	270,000	
会館管理費	449,000	449,000	0	
会館修理費	419,000	149,000	270,000	
衛生管理費	2,477,000	2,477,000	0	
支払負担金	2,904,000	2,356,000	548,000	
九州山口負担金	2,008,000	1,459,000	549,000	
公衆衛生協会負担金	190,000	190,000	0	
九州山口薬局実務実習調整機関負担金	506,000	507,000	-1,000	
福岡県学校保健会負担金	200,000	200,000	0	
支払助成金	7,061,000	7,066,000	-5,000	地区活動費
支払寄付金	500,000	500,000	0	
委託費	1,050,000	1,605,000	-555,000	健康フェア補助金
雑費	2,518,000	2,696,000	-178,000	
事務委託費	1,034,000	1,109,000	-75,000	
支払手数料	464,000	562,000	-98,000	
研修費	1,000	1,000	0	
顧問料	985,000	985,000	0	
雑支出	34,000	39,000	-5,000	
経常費用計	225,808,000	212,852,000	12,956,000	
評価損益等調整前当期経常増減額	801,000	11,723,000	-10,922,000	
評価損益等計	0	0	0	
当期経常増減額	801,000	11,723,000	-10,922,000	
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
経常外収益計	0	0	0	
(2) 経常外費用				
経常外費用計	0	0	0	
当期経常外増減額	0	0	0	

・定時総会付議事項・

(単位：円)

科 目	令和6年度予算額	令和5年度予算額	差引増減額	備 考	
税引前当期一般正味財産増減額	801,000	11,723,000	-10,922,000		1
法人税、住民税及び事業税	71,000	71,000	0		2
当期一般正味財産増減額	730,000	11,652,000	-10,922,000		3
一般正味財産期首残高	421,626,209	409,974,209	11,652,000		4
一般正味財産期末残高	422,356,209	421,626,209	730,000		5
Ⅱ 指定正味財産増減の部					6
受取補助金等	0	0	0		7
受取寄付金	0	0	0		8
一般正味財産への振替額	-786,000	-790,000	4,000		9
当期指定正味財産増減額	-786,000	-790,000	4,000		10
指定正味財産期首残高	1,843,291	2,633,291	-790,000		11
指定正味財産期末残高	1,057,291	1,843,291	-786,000		12
Ⅲ 正味財産期末残高	423,413,500	423,469,500	-56,000		13

令和6年度 投資活動及び財務活動に関する見込みを記載した書類

【特定資産取崩収入】 (単位：円)

科 目	令和6年度予算額	令和5年度予算額	差引増減額
役員退職金記念品代積立預金	0	1,850,000	-1,850,000
職員退職積立預金	0	0	0
会員弔慰・災害見舞積立預金	380,000	200,000	180,000
会館改修積立準備金	0	0	0
計	380,000	2,050,000	-1,670,000

【特定資産取得支出】 (単位：円)

科 目	令和6年度予算額	令和5年度予算額	差引増減額
役員退職金記念品代積立預金	800,000	900,000	-100,000
職員退職積立預金	0	0	0
会員弔慰・災害見舞積立預金	500,000	500,000	0
会館改修積立準備金	10,000,000	10,000,000	0
計	11,300,000	11,400,000	-100,000

定時総会付議事項

報告第5号 日本薬剤師会第102回定時総会・第103回臨時総会報告

日本薬剤師会総会報告

第102回定時総会

出席代議員	成重 賢司、高木 淳一、宮谷 英記、星野 正俊、小田 真稔
日 時	令和5年6月25日(土) 10:00~18:00 令和5年6月26日(日) 9:30~12:30
場 所	東京都江東区 ホテルイースト21東京
議 題	報告第1号 令和4年度会務並びに事業報告の件 議案第1号 令和4年度決算承認の件

第103回臨時総会

出席代議員	成重 賢司、満安 徹也、高木 淳一、宮谷 英記、星野 正俊、 小田 真稔
日 時	令和6年3月9日(土) 10:00~17:30 令和6年3月10日(日) 9:30~14:30
場 所	東京都江東区 ホテルイースト21東京
議 題	報告第1号 令和5年度会務並びに事業中間報告の件 報告第2号 令和5年度補正予算の件 議案第1号 令和6年度事業計画の件 議案第2号 令和6年度会費額の件 議案第3号 令和6年度収入支出予算の件 議案第4号 令和6年度借入金(会務運営)最高限度額の件 議案第5号 公益社団法人日本薬剤師会会長候補者及び副会長候補者 選挙の件

議案第1号 令和5年度決算承認の件

貸 借 対 照 表

令和6年3月31日現在

(単位:円)

科目	当年度	前年度	増減	
I. 資産の部				1
1. 流動資産				2
現金預金	153,692,790	122,348,927	31,343,863	3
現金	1,284,928	1,317,204	-32,276	4
普通預金	151,155,032	119,826,833	31,328,199	5
振替貯金	1,252,830	1,204,890	47,940	6
未収金	32,691,665	61,008,840	-28,317,175	7
役員傷害等未収金	747,062	4,371,696	-3,624,634	8
業務受託未収金	22,189,579	47,113,660	-24,924,081	9
保険薬局未収金	9,689,024	9,457,484	231,540	10
広告料未収金	66,000	66,000	0	11
売掛金	551,700	177,870	373,830	12
図書売掛金	366,550	34,270	332,280	13
用紙売掛金	24,150	17,300	6,850	14
お薬手帳売掛金	161,000	126,000	35,000	15
その他売掛金	0	300	-300	16
商品	5,283,829	4,137,334	1,146,495	17
商品	5,283,829	4,137,334	1,146,495	18
立替金	5,354,187	0	5,354,187	19
前払金	1,288,760	1,462,190	-173,430	20
預託金	8,800	8,800	0	21
流動資産合計	198,871,731	189,143,961	9,727,770	22
2. 固定資産				23
(1) 基本財産				24
土地	32,060,200	32,060,200	0	25
建物	30,345,685	31,996,280	-1,650,595	26
基本財産合計	62,405,885	64,056,480	-1,650,595	27
(2) 特定資産				28
役員退職記念品代積立預金	97,787	977,784	-879,997	29
職員退職積立預金	3,696,508	3,696,472	36	30
会員弔慰・災害見舞積立預金	888,694	838,689	50,005	31
会館改修準備金	171,159,277	161,157,675	10,001,602	32
災害特定事業預金	1,000,000	1,000,000	0	33
車両運搬具	1	2,826,098	-2,826,097	34
器具備品	179,015	0	179,015	35
特定資産合計	177,021,282	170,496,718	6,524,564	36
(3) その他固定資産				37
構築物	58,807	99,182	-40,375	38
器具備品	5,383,240	7,861,435	-2,478,195	39
長期前払金	0	203,100	-203,100	40
その他固定資産合計	5,442,047	8,163,717	-2,721,670	41
固定資産合計	244,869,214	242,716,915	2,152,299	42
資産の部合計	443,740,945	431,860,876	11,880,069	43
II. 負債の部				44
1. 流動負債				45
買掛金	3,432,834	2,476,369	956,465	46
未払金	9,453,012	11,169,456	-1,716,444	47
前受金	0	659,000	-659,000	48
預り金	1,567,534	1,181,079	386,455	49
未払消費税等	33,500	0	33,500	50
未払法人税等	71,000	71,000	0	51
流動負債合計	14,557,880	15,556,904	-999,024	52
2. 固定負債				53
退職給付引当金	3,696,508	3,696,472	36	54
固定負債合計	3,696,508	3,696,472	36	55
負債の部合計	18,254,388	19,253,376	-998,988	56
III. 正味財産の部				57
1. 指定正味財産				58
地方公共団体補助金	94,042	1,633,291	-1,539,249	59
寄付金	1,000,000	1,000,000	0	60

・定時総会付議事項・

(単位：円)

科目	当年度	前年度	増減	
指定正味財産合計	1,094,042	2,633,291	－1,539,249	1
（うち特定資産への充当額）	（ 1,094,042）	（ 2,633,291）	（ －1,539,249）	2
2. 一般正味財産	424,392,515	409,974,209	14,418,306	3
（うち基本財産への充当額）	（ 62,405,885）	（ 64,056,480）	（ －1,650,595）	4
（うち特定資産への充当額）	（ 172,230,732）	（ 164,166,955）	（ 8,063,777）	5
正味財産の部合計	425,486,557	412,607,500	12,879,057	6
負債及び正味財産合計	443,740,945	431,860,876	11,880,069	

正味財産増減計算書

自 令和5年4月1日

至 令和6年3月31日

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増減額	備 考	
I. 一般正味財産増減の部					1
1. 経常増減の部					2
(1) 経常収益					3
基本財産運用益	0	0	0		4
特定資産運用益	1,646	1,580	66		5
特定資産受取利息	1,646	1,580	66		6
受取入会金	2,070,000	2,410,000	-340,000		7
受取入会金	2,070,000	2,410,000	-340,000	A会員:50,000円、B会員:10,000円	8
受取会費	148,100,996	145,569,028	2,531,968		9
本会費	79,009,250	79,114,500	-105,250		10
正A会費	52,869,250	53,029,500	-160,250		11
正B会費	24,042,000	23,692,000	350,000		12
賛助A会費	1,405,000	1,591,500	-186,500		13
賛助B会費	693,000	801,500	-108,500		14
保険薬局特別会費	69,091,746	66,454,528	2,637,218		15
事業収益	11,399,191	14,593,506	-3,194,315		16
広告出版収益	660,000	495,000	165,000	「県薬会報」広告料	17
受取手数料	2,177,686	1,495,676	682,010	保険手数料他	18
共同事業収益	8,561,505	12,602,830	-4,041,325		19
図書売上	5,109,395	8,890,210	-3,780,815		20
用紙売上	3,452,110	3,712,620	-260,510		21
受取補助金等	27,039,949	29,104,325	-2,064,376		22
情報センター	13,680,000	13,680,000	0		23
健康21世紀	0	77,265	-77,265		24
地域医療介護総合確保基金	0	2,008,000	-2,008,000		25
日本薬剤師会助成金	11,820,700	11,781,400	39,300		26
受取補助金等振替額	1,539,249	1,557,660	-18,411		27
受取負担金	20,441,954	20,047,436	394,518		28
福薬連受入金	600,000	600,000	0		29
研修会受入金	13,209,090	12,677,200	531,890	研修会参加費	30
他団体受入金	6,632,864	6,770,236	-137,372	九山、連盟、調整機関、学校薬剤師他	31
受託収益	64,082,443	116,521,314	-52,438,871		32
学校保健衛生受託収益	8,413,630	8,362,700	50,930	プール水質検査料、教室等空気環境検査料	33
業務受託収益	55,668,813	108,158,614	-52,489,801	適正受診指導事業、薬剤師認知症対応力向上研修事業他*	34
雑収益	402,031	388,265	13,766		35
受取利息	1,733	1,517	216		36
受取賃貸料	90,000	0	90,000		37
その他収益	310,298	386,748	-76,450	保険薬剤師必読ハンドブック他	38
経常収益計	273,538,210	328,635,454	-55,097,244		39
(2) 経常費用					40
A. 事業費	217,563,017	257,395,529	-39,832,512		41
役員報酬	11,555,000	11,710,000	-155,000		42

34行目*注記 *新型コロナウイルスワクチン専用ダイヤル相談等対応業務

・定時総会付議事項・

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増減額	備 考	
給料手当	87,046,669	117,886,843	-30,840,174		1
臨時雇賃金	643,714	1,291,491	-647,777		2
役員退職金	1,780,000	0	1,780,000	役員退職記念品	3
退職給付費用	33	88	-55		4
福利厚生費	11,371,964	10,177,976	1,193,988		5
厚生費	1,986,874	1,341,825	645,049		6
社会保険料	8,041,306	7,678,682	362,624		7
退職共済掛金	1,343,784	1,157,469	186,315		8
旅費交通費	20,310,386	18,905,360	1,405,026		9
旅費	1,319,655	1,555,386	-235,731		10
交通費	18,990,731	17,349,974	1,640,757		11
通信運搬費	3,383,423	9,495,815	-6,112,392		12
減価償却費	7,160,371	6,086,257	1,074,114	モバイルファーマシー他	13
消耗什器備品費	827,228	1,277,884	-450,656		14
消耗品費	1,785,039	2,428,609	-643,570		15
修繕費	702,090	510,832	191,258		16
広報宣伝費	17,030,086	14,692,595	2,337,491		17
広報費	13,753,080	11,561,352	2,191,728	県薬会報	18
宣伝費	0	0	0		19
会報郵送料	3,277,006	3,131,243	145,763		20
印刷製本費	5,270,058	4,687,063	582,995		21
印刷製本費	5,245,385	4,612,715	632,670	研修会等資料他	22
期首商品高	438,231	512,579	-74,348		23
期末商品高	-418,379	-552,273	133,894		24
除却商品高	4,821	114,042	-109,221		25
共同事業仕入	7,127,035	12,793,400	-5,666,365		26
図書仕入	4,889,523	9,460,774	-4,571,251		27
期首商品高	2,784,434	2,755,356	29,078		28
期末商品高	-3,688,011	-2,784,434	-903,577		29
用紙仕入	3,408,680	2,879,140	529,540	お薬手帳他	30
期首商品高	914,669	1,397,233	-482,564		31
期末商品高	-1,183,844	-915,373	-268,471		32
除却商品高	1,584	704	880		33
図書費	2,084,580	1,998,644	85,936		34
光熱水料費	1,938,604	2,170,686	-232,082		35
賃借料	5,425,123	4,457,317	967,806		36
諸謝金	4,921,402	4,981,591	-60,189		37
租税公課	3,824,440	5,541,340	-1,716,900		38
諸会費	129,500	129,500	0		39
会員弔慰災害見舞費	410,000	140,000	270,000	会員弔慰・見舞金	40
支払負担金	8,363,630	8,314,350	49,280		41
地区負担金	0	1,650	-1,650		42
福岡県学校保健会負担金	8,363,630	8,312,700	50,930	プール水質検査料、教室等空気環境検査料	43
支払助成金	945,417	2,568,141	-1,622,724		44
委託費	9,023,483	7,326,511	1,696,972		45
委託費	8,814,483	7,117,511	1,696,972	試験検査センター、薬と健康フェア他	46
研修システム費	209,000	209,000	0		47

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増減額	備 考	
雑費	4,503,742	7,823,236	-3,319,494		1
事務委託費	492,975	532,775	-39,800		2
支払手数料	3,126,845	6,685,388	-3,558,543		3
研修費	819,120	567,640	251,480		4
雑支出	64,802	37,433	27,369		5
B.管理費	41,485,887	41,056,271	429,616		6
役員報酬	683,465	652,835	30,630		7
給料手当	210,162	1,921,513	-1,711,351		8
臨時雇賃金	404,886	149,984	254,902		9
退職給付費用	3	23	-20		10
福利厚生費	3,827,479	3,151,450	676,029		11
厚生費	2,509,391	1,457,954	1,051,437		12
社会保険料	1,111,872	1,440,965	-329,093		13
退職共済掛金	206,216	252,531	-46,315		14
旅費交通費	9,829,028	9,825,124	3,904		15
旅費	2,906,740	4,526,420	-1,619,680	日薬大会他	16
交通費	6,922,288	5,298,704	1,623,584	総会他	17
交際渉外費	3,059,750	2,087,597	972,153		18
渉外費	3,059,750	2,087,597	972,153		19
通信運搬費	306,382	340,374	-33,992		20
減価償却費	1,232,396	685,264	547,132		21
消耗什器備品費	106,021	303,764	-197,743		22
消耗品費	330,187	296,351	33,836		23
修繕費	75,698	100,584	-24,886		24
印刷製本費	313,764	197,340	116,424		25
光熱水料費	318,099	382,921	-64,822		26
賃借料	496,827	299,945	196,882		27
保険料	716,788	766,024	-49,236		28
諸謝金	62,356	68,368	-6,012		29
租税公課	405,860	118,360	287,500		30
諸会費	129,700	119,700	10,000		31
会館管理費	2,526,920	3,942,620	-1,415,700		32
会館管理費	448,800	448,800	0		33
会館修理費	2,078,120	3,493,820	-1,415,700		34
衛生管理費	2,459,873	2,446,222	13,651		35
支払負担金	2,355,200	2,348,400	6,800		36
九州山口負担金	1,458,200	1,450,400	7,800		37
公衆衛生協会負担金	190,000	190,000	0		38
九州山口薬局実務実習調整機関負担金	507,000	508,000	-1,000		39
福岡県学校保健会負担金	200,000	200,000	0		40
支払助成金	7,062,000	7,068,500	-6,500	地区活動費	41
支払寄付金	500,000	630,000	-130,000		42
委託費	1,481,506	750,000	731,506	県庁、健康フェア補助金	43
雑費	2,591,537	2,403,008	188,529		44
事務委託費	1,064,260	1,000,500	63,760		45
支払手数料	531,101	386,313	144,788		46
研修費	2,300	150	2,150		47

・定時総会付議事項・

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増減額	備 考	
顧問料	984,757	984,757	0		1
雑支出	9,119	31,288	-22,169		2
経常費用計	259,048,904	298,451,800	-39,402,896		3
評価損益等調整前当期経常増減額	14,489,306	30,183,654	-15,694,348		4
評価損益等計	0	0	0		5
当期経常増減額	14,489,306	30,183,654	-15,694,348		6
2. 経常外増減の部					7
(1) 経常外収益					8
経常外収益計	0	0	0		9
(2) 経常外費用					10
経常外費用計	0	0	0		11
税引前当期一般正味財産増減額	14,489,306	30,183,654	-15,694,348		12
法人税、住民税及び事業税	71,000	71,000	0		13
当期一般正味財産増減額	14,418,306	30,112,654	-15,694,348		14
一般正味財産期首残高	409,974,209	379,861,555	30,112,654		15
一般正味財産期末残高	424,392,515	409,974,209	14,418,306		16
Ⅱ. 指定正味財産増減の部					17
受取補助金等	0	0	0		18
受取地方公共団体補助金	0	0	0		19
受取寄付金	0	0	0		20
受取寄付金	0	0	0		21
一般正味財産への振替額	-1,539,249	-1,557,660	18,411		22
当期指定正味財産増減額	-1,539,249	-1,557,660	18,411		23
指定正味財産期首残高	2,633,291	4,190,951	-1,557,660		24
指定正味財産期末残高	1,094,042	2,633,291	-1,539,249		25
Ⅲ. 正味財産期末残高	425,486,557	412,607,500	12,879,057		26

財 産 目 録

令和6年3月31日現在

(単位：円)

科 目		金 額		
Ⅰ. 資産				
1. 流動資産				
現金・預金				
現金	手許有高	1,284,928		
普通預金	福岡銀行 博多駅東支店	145,374,366		
	西日本シティ銀行 渡辺通支店	3,465,563		
	福岡銀行博多駅東支店(情報センター用)	151,721		
	福岡銀行博多駅東支店(学校保健衛生用)	1,529		
	福岡銀行博多駅東支店(幹旋図書用)	2,161,853		
		151,155,032		
振替貯金	ゆうちょ銀行	1,252,830	153,692,790	
未収金				
役員傷害保険等未収金		747,062		
業務受託未収金		22,189,579		
保険薬局未収金		9,689,024		
広告料未収金		66,000	32,691,665	
売掛金				
売掛金			551,700	
商品				
商品	「国民保護業務計画」等	413,558		
	処方せん等	4,870,271	5,283,829	
その他流動資産				
立替金	能登半島地震派遣費用	5,354,187		
前払金		1,288,760		
預託金		8,800	6,651,747	
流動資産合計				198,871,731
2. 固定資産				
(1) 基本財産				
土地	福岡市博多区住吉2丁目20番15号(411.30平方米)	32,060,200		
建物	鉄筋コンクリート造4階建会館建物事務所、車庫等	30,345,685		
基本財産合計			62,405,885	
(2) 特定資産				
役員退職記念品代積立預金	福岡銀行博多駅東支店	97,787		
職員退職積立預金	同 上	3,696,508		
会員弔慰・災害見舞積立預金	同 上	888,694		
会館改修準備金	同 上	171,159,277		
災害特定事業預金	同 上	1,000,000		
車両運搬具	モバイルファーマシー	1		
器具備品	モバイルファーマシー搭載備品	179,015		
特定資産合計			177,021,282	
(3) その他固定資産				
構築物	自動ドア等	58,807		
器具備品	机・椅子、ロッカー、書棚等	5,383,240		
その他固定資産合計			5,442,047	
固定資産合計				244,869,214
資産合計				443,740,945
Ⅱ. 負債				
1. 流動負債				
買掛金				
買掛金	図書仕入等		3,432,834	
未払金			9,453,012	
預り金	賠償責任保険料等		1,567,534	
未払消費税等			33,500	
未払法人税等	県民税、市民税		71,000	
流動負債合計				14,557,880
2. 固定負債				
退職給付引当金	職員退職給付引当金残高		3,696,508	
固定負債合計				3,696,508
負債合計				18,254,388
正味財産				425,486,557

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

(1) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

個別法による原価法を採用している。

(2) 固定資産の減価償却の方法

① 建物

平成10年3月31日以前に取得したものについては旧定率法、平成10年4月1日以後に取得したものについては旧定額法、平成19年4月1日以降に取得したものについては定額法によっている。

② 構築物・車両運搬具・器具備品

平成19年3月31日以前に取得したものについては旧定率法、平成19年4月1日以後に取得したものについては定率法によっている。

(3) 引当金の計上基準

退職給付引当金 職員の退職給付に備えるため、期末要支給額（自己都合要支給額）から中小企業退職共掛金額を控除した金額を基礎として計上している。

(4) リース取引の処理方法

リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっている。

(5) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は税込方式によっている。

2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
土 地	32,060,200	0	0	32,060,200
建 物	31,996,280	0	1,650,595	30,345,685
小 計	64,056,480	0	1,650,595	62,405,885
特定資産				
役員退職記念品代積立預金	977,784	900,003	1,780,000	97,787
職員退職積立預金	3,696,472	36	0	3,696,508
会員弔慰・災害見舞積立預金	838,689	500,005	450,000	888,694
会館改修準備金	161,157,675	10,001,602	0	171,159,277
災害特定事業預金	1,000,000	0	0	1,000,000
車両運搬具	2,826,098	0	2,826,097	1
器具備品	0	179,015	0	179,015
小 計	170,496,718	11,580,661	5,056,097	177,021,282
合 計	234,553,198	11,580,661	6,706,692	239,427,167

3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産 からの充当額)	(うち一般正味財産 からの充当額)	(うち負債に対応 する額)
基本財産				
土 地	32,060,200	(0)	(32,060,200)	(0)
建 物	30,345,685	(0)	(30,345,685)	(0)
小 計	62,405,885	(0)	(62,405,885)	(0)
特定資産				
役員退職記念品代積立預金	97,787	(0)	(97,787)	(0)
職員退職積立預金	3,696,508	(0)	(0)	(3,696,508)
会員弔慰・災害見舞積立預金	888,694	(0)	(888,694)	(0)
会館改修準備金	171,159,277	(0)	(171,159,277)	(0)
災害特定事業預金	1,000,000	(1,000,000)	(0)	(0)
車両運搬具	1	(1)	(0)	(0)
器具備品	179,015	(94,041)	(84,974)	(0)
小 計	177,021,282	(1,094,042)	(172,230,732)	(3,696,508)
合 計	239,427,167	1,094,042	234,636,617	3,696,508

4. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
特定資産			
車両運搬具	13,565,266	13,565,265	1
器具備品	725,120	546,105	179,015
小 計	14,290,386	14,111,370	179,016
その他固定資産			
建物	171,273,022	140,927,337	30,345,685
器具備品	25,555,573	20,172,333	5,383,240
構築物	6,135,423	6,076,616	58,807
小 計	202,964,018	167,176,286	35,787,732
合 計	217,254,404	181,287,656	35,966,748

・定時総会付議事項・

5. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は、次のとおりである。

(単位：円)

補助金等の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表上の記載区分
情報センター	福岡県	0	13,680,000	13,680,000	0	—
モバイルファーマシー整備事業	福岡県	1,633,291	0	1,539,249	94,042	指定正味財産
合 計		1,633,291	13,680,000	15,219,249	94,042	

6. 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳

指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

内 容	金額
経常収益への振替額	
減価償却費計上による振替額	1,539,249
合 計	1,539,249

監査報告書

公益社団法人 福岡県薬剤師会
会長 原口 亨 殿

令和 6 年 5 月 17 日
公益社団法人 福岡県薬剤師会

監 事 満生 清士 
監 事 篠原 俊 

私たち監事は、令和5年4月1日から令和6年3月31日までの令和5年度における理事の業務及び会計の監査を行い、次のとおり報告いたします。

1 業務方法の概要

理事の業務執行については、理事会に出席し報告を受け、重要な関係書類の閲覧等、必要と思われる監査手続きを行い、その執行状況の妥当性を検討しました。また、帳簿並びに重要な関係書類の閲覧等、必要と思われる監査手続きを行い、計算書類の正確性を検討しました。

2 監査意見

- (1) 事業報告の内容は、法人の状況を正しく示していると認めます。
- (2) 理事の執行に関する不正な行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。
- (3) 計算書類及びその附属明細書並びに財産目録は、法人の財産の状態及び正味財産の増減の状況をすべての重要な点において適正に示しているものと認めます。

以 上

・定時総会付議事項・

議案第2号 令和7年度借入金限度額決定の件

令和7年度福岡県薬剤師会の借入金の限度額は、次のとおりとする

1. 金 50,000,000円

議案第3号 令和7年度会費および入会金決定の件

年会費

会員種別	金 額	備 考
正 会 員 A	39,500円	
正 会 員 B	19,000円	
賛 助 会 員 A	39,500円	
賛 助 会 員 B	19,000円	

※特別会員は無料とする。

※日薬会費を含む。

入会費

会員種別	金 額	備 考
正 会 員 A	50,000円	
正 会 員 B	10,000円	
賛 助 会 員 A	50,000円	
賛 助 会 員 B	10,000円	

※特別会員は無料とする。

※正会員Bは、入会促進キャンペーン期間中は無料とする。

議案第4号 理事追加選任の件

第127回定時総会終結時から、令和7年6月に開催を予定する定時総会終結時までを任期とした、公益社団法人福岡県薬剤師会理事1人の追加選任を願いたい。

【理事候補者】1人

1. 池田 光政（いけだ みつまさ） [福岡市] 67才
昭和57年3月 長崎大学薬学部 卒業
平成29年4月 福岡県保健医療介護部副理事兼薬務課長
平成30年6月 公益財団法人北九州生活科学センター理事長
令和5年7月～現在 福岡県薬剤師会会長付

参考資料

令和5年度公益社団法人福岡県薬剤師会薬事情報センター事業収支決算書

自 令和5年4月1日
至 令和6年3月31日

収入の部 (単位：円)

科 目	令和5年度予算額	令和5年度決算額	明 細
県 費 補 助 金	13,680,000	13,680,000	
本 会 負 担 金	39,320,000	34,568,149	
合 計	53,000,000	48,248,149	

支出の部 (単位：円)

科 目	令和5年度予算額	令和5年度決算額	明 細
運 営 費	52,200,000	47,372,322	
情 報 伝 達 費	17,480,000	15,257,130	県民情報提供費 6,306,486 情報提供研修会 4,827,149 印刷費 2,684,880 電話料金等通信費 871,511 編集会議費 567,104
消 耗 品 費	1,930,000	2,033,388	消耗品費 116,418 刊行物購読料 1,916,970
管 理 費	32,790,000	30,081,804	JAPIC他会費 129,500 会議費 154,804 研修会費 616,720 人件費 24,171,815 厚生費 5,008,965
設 備 費	800,000	875,827	
設 備 管 理 費	600,000	714,574	設備管理費 714,574
備 品 図 書 購 入 費	200,000	161,253	備品図書購入費 161,253
合 計	53,000,000	48,248,149	

I. 薬事情報センターに寄せられた質疑・応答の紹介（2024年4月・5月）

福岡県薬剤師会ホームページでもご覧いただけます。

[http://www.fpa.or.jp/johocenter/yakuji-main/_1635.html]

〔妊婦・授乳婦、中毒〕

Q：授乳中にリリカTMを服用して問題ないか？（一般）

A：リリカTM（プレガバリン）は、神経障害性疼痛や線維筋痛症に伴う疼痛に対する治療薬である。添付文書では、「本剤投与中は授乳を避けさせること。本剤はヒト母乳中への移行が認められている」となっている。

海外の評価は、「ヒトでのデータは限られているが、潜在的なリスクを考慮した上で恐らく授乳可能」、「データは限られているが、母乳中の濃度は低いとされる。しかし、よりデータが集まるまでは他の薬剤の使用が望ましい」となっている。

他薬に変更できず、服用中に授乳する場合は、乳児の神経症状等を十分に観察する必要がある。

リリカTMカプセル・OD錠インタビューフォームより

（乳汁への移行性＜外国人データ＞）

産後12週間以上の授乳婦（10例）に、プレガバリン150mgを12時間ごとに投与（300mg/日）した時、プレガバリンは母乳に移行し、母乳中の定常状態における平均濃度は、母体血漿中の約76%であった。乳児の平均母乳摂取量を150mL/kg/日と仮定すると、プレガバリンの乳児への1日あたりの平均曝露量は0.31mg/kg/日（体重換算すると母体投与量の約7%）と推定される。

プレガバリンを1日2回経口投与したときの3日目における薬物動態パラメータ*

	AUC _τ (μg・h/mL)	C _{max} (μg/mL)	T _{max} (h)	T _{1/2} (h)
母体血漿	32.50(24)	4.670(18)	2.01(1.00 - 3.00)	5.624±0.657
乳汁	24.64(27)	2.474(30)	4.63(3.08 - 6.16)	8.117±3.087

AUC_τ：定常状態における0時間から投与後12時間までの血漿中濃度－時間曲線下面積

*AUC_τ、C_{max}：幾何平均値（CV%）、T_{max}：中央値（範囲）、T_{1/2}：算術平均値±標準偏差

（幼若動物を用いた毒性試験（ラット））

7および21日齢のラットに2,500mg/kg以下の用量を単回経口投与しても、死亡および一般症状は観察されなかったが、体重増加量の減少が認められた。7日齢の幼若ラットに7週間反復経口投与した試験では、50mg/kg以上で歯ぐきしり、自発運動の亢進および体重増加抑制が観察された。

Q：エナジアTM吸入用カプセルを間違えて飲んでしまった。問題ないか？（一般）

A：エナジアTM吸入用カプセルは、インダカテロール酢酸塩（β₂刺激薬）、グリコピロニウム臭化物（抗コリン薬）、モメタゾンフランカルボン酸エステル（副腎皮質ステロイド）の3成分を配合した喘息治療の吸入用カプセルである。注意事項として、「必ず本剤専用の吸入用器具を用いて吸入し、内服しないこと」となっている。

各成分のバイオアベイラビリティは下表のとおりであり、誤って内服しても急激に副作用が発現する可能性は低いと考えられるが、各成分による副作用発現に関し、慎重に経過を観察する。

- ・β₂刺激作用による症状：頻脈、振戦、動悸、頭痛、悪心、嘔吐、傾眠、心室性不整脈、代謝性アシドーシス、低カリウム血症および高血糖等
- ・抗コリン作用による症状：口内乾燥、動悸、排尿困難、眼圧上昇、便秘等
- ・副腎皮質ステロイド剤による副腎皮質系機能抑制

インダカテロール	吸入投与時に対する経口投与時の相対的バイオアベイラビリティは約46%。消化管からも吸収されることが考えられる。
グリコピロニウム	経口投与時の絶対バイオアベイラビリティは約5%。全身吸収性は低いと考えられる。
モメタゾン	吸入投与時に対する経口投与時の相対的バイオアベイラビリティは約10%。全身吸収性は低いと考えられる。

〔調製法等〕

Q：抑肝散の坐薬の調製法は？（薬局）

A：抑肝散の効能・効果は、「虚弱な体質で神経がたかぶる方の神経症、不眠症、小児夜泣き、小児疳症」である。近年、認知症にともなう行動・心理症状や術後せん妄に対する有効性が報告されており、抑肝散の坐薬が、経口困難な術後せん妄等の治療に使用されることがある（保険適応外使用）。

福島県立医科大学会津医療センター外科において、2011年9月～2012年11月に全身麻酔下で消化器外科手術を施行した227例（30～93歳、平均年齢69歳）を対象に、抑肝散坐薬を作成し術後せん妄に対する安全性と効果を検討した報告¹⁾がある。以下の方法により院内製剤として調製している。せん妄の程度がNスケール*19点以下となった時点で、第一選択として抑肝散坐薬2gを1日4回6時間毎に投与した。

*Nスケール：NEECHAM Confusion Scale。認知・情報処理、行動、生理学的コントロールの3つのサブスケールから構成され、これらの合計ポイントでせん妄状態を評価する。合計ポイントは0～30点で、0～19点は中程度～高度の混乱・錯乱状態。

（処方）

抑肝散エキス顆粒 7.5g、ホスコH-15 適量、全量8g（1個2g）

（調製法）

抑肝散エキス顆粒（ツムラ）をメノウ乳鉢で微粉化し100メッシュのふるいにかけて後、融解基剤であるホスコH-15に懸濁し、電子レンジで3分間加熱融解後、基剤と合わせて8gを4分割してコンテナへ注入する。抑肝散坐薬（1個2g）製剤として作成。4℃の冷蔵庫に保存する。

1) 添田暢俊ら：日本腹部救急医学会雑誌 35(1), 11-18, 2015.

Q：ジゴキシシン0.1%散から0.01%散を調製したい。乳鉢と乳棒を用いて混合する場合、何回くらい混和するとよいか？（薬局）

A：散剤などの混和（混合）の度合いを評価する係数として、変動係数がある。試料中の着目成分含量の変動係数（C.V.：coefficient of variation）を混合度とし、着目成分の含量分布が正規分布するものとして、その90%が $100 \pm 10\%$ の範囲に収まるとした場合の変動係数は6.08%であることから、それ以下を混和良好とする。

（乳鉢・乳棒による散剤の混和（混合）の方法）¹⁾

変動係数（C.V.）6.1%以下を得るためには、以下の手順で乳鉢・乳棒による混和を行う必要がある。

- ・秤量した散剤の凝集などを取るため、目開き500～355 μ mのふるいで篩過した後、乳鉢を手を持ち、乳棒を動かしながら乳棒を乳鉢の底面に垂直に保持し、乳鉢の中心から外側に10回、次いで逆回りに外側から中心に向かって10回を3回繰り返し混和する。混和回数はおおよそ60回を目安とする。
- ・乳鉢の壁面に付着しやすい散剤の混合時には、混合途中に乳鉢を回転させたり、薬さじでかき落とすなどの操作が必要である。特に凝集しやすい散剤、吸湿性が高く流動性が悪い散剤は、篩過器を用いる。
- ・少量の散剤を大量の散剤に混合するなど配合比が異なる場合には、一度に両方の散剤を乳鉢に入れると混合ムラの原因となるため、少量の散剤とほぼ同じかさの散剤を大量の散剤から取り、まず混合した後、同様に等量ずつ取りながら混合を繰り返す。

（ジゴキシシンTM散0.1%を用いた混和の場合）

混合後の均一性を調査した報告²⁾では、篩過せずに混和した場合、混和回数が80回でも変動係数は平均12%であった。従って主薬の均一性を得るためには、篩過を行った後に混和することが重要である。

理由：ジゴキシシンTM散0.1%は、結晶乳糖と粉末乳糖を3：1の割合で混合した賦形剤で調製されている。結晶乳糖の大きな結晶は、篩過によって顕著に小さくなることが認められ、さらにこの結晶乳糖は乳鉢と乳棒による混和では、容易に粒子径が小さくならないことが示された。

1) 第十四改訂調剤指針増補版 日本薬剤師会編 令和4年8月8日

2) 中村均ら：病院薬学 23(4), 305, 1997.

〔検査値・検査方法〕

Q：心房細動でワルファリン服用中にPT-INRが急激に上昇した。その要因は？（医師）

A：PT-INR（プロトロンビン時間国際標準比）の至適治療域は、「2020年改訂版不整脈薬物治療ガイドライン」において、以下のように設定されている。

- ・脳梗塞の既往がない一次予防かつ血栓症リスクの低い患者：年齢によらず 1.6～2.6
- ・脳梗塞の既往を有する二次予防の患者やきわめて血栓症リスクが高い患者：70歳未満 2.0～3.0、70歳以上 1.6～2.6

ワルファリン服用中のPT-INRの上昇は、以下の要因が考えられる（表）。また、ワルファリンの増量、飲み間違いによる過量服用、ワルファリンと相互作用のある医薬品や食品・健康食品の摂取、下痢や腸における脂肪吸収不全（ビタミンKの吸収低下）なども上昇の要因となる。ワルファリンは血中アルブミンとの結合率が高いので、血中アルブミンが減少するとワルファリンの血中濃度が高くなるおそれがある。

肝疾患	以下の理由により、ワルファリンの感受性が増加していると考えられる。 1) 肝で産生されるビタミンK依存性血液凝固因子の合成能が低下している。 2) ワルファリンの代謝は肝で行われるため、肝疾患ではその代謝が低下する。 3) 閉塞性黄疸、胆道瘻では、胆汁中へのワルファリンの排泄障害や胆汁分泌不全による消化管からのビタミンK吸収障害を伴う。
腎疾患	ワルファリンは体内からの排泄速度が遅いため、腎障害があるとさらに排泄が遅延し、作用が長時間持続するので出血の危険が増大する可能性がある。
うっ血性心不全	肝代謝酵素活性低下により、また肝のうっ血が進行し凝固因子の産生が低下することによりワルファリンの感受性が亢進する。
悪性腫瘍	血液凝固能の亢進により血栓傾向となる一方で、腫瘍関連出血を生じることがある。また、全身状態や摂食状況の変化に伴う血液凝固能の変動を生じることがある。
甲状腺機能亢進症	病態の変化又は治療過程で甲状腺機能が正常化し、血液凝固能が変化することがある。甲状腺ホルモンはプロトロンビン、第Ⅶ因子、第Ⅹ因子の代謝回転を促進するため、甲状腺機能の変動は抗凝固薬の効果に影響すると考えられる。
CYP2C9の遺伝子多型	ワルファリンは光学異性体（S-ワルファリン、R-ワルファリン）のラセミ体で、S-ワルファリンは主にCYP2C9で、R-ワルファリンは主にCYP1A2、CYP3A4により代謝される。CYP2C9の遺伝子多型などの場合、クリアランスが1/3～1/10などとなることがある。

（お知らせ）薬剤師のためのアンチ・ドーピングガイドブック2024年版について

日本薬剤師会は、安易な医薬品の使用による意図しないドーピングの未然防止を目的として、「薬剤師のためのアンチ・ドーピングガイドブック」を作成しています。本ガイドブックは毎年更新されており、この度、2024年版が公開されました。医療用医薬品や一般用医薬品の製品名や成分名から、使用の可否が確認できますので、競技者等からの相談にご活用ください。

日本薬剤師会 薬剤師のためのアンチ・ドーピングガイドブック2024年版

https://www.nichiyaku.or.jp/assets/uploads/activities/guidebook_web2024.pdf



福岡県薬剤師会薬事情報センター @fukuoka_pic

最新の情報をX（旧Twitter）で発信しています。 #fpic



Ⅱ. 日本版抗コリン薬リスクスケール

抗コリン薬は、アセチルコリンのムスカリン受容体を遮断することによりさまざまな生理機能に影響を与える。さらに個々の薬剤の抗コリン作用は小さくても、併用した場合には抗コリン作用は相加的となり、「抗コリン薬負荷」の増大を引き起こすと考えられる。特に高齢者では、ポリファーマシーによる薬物有害事象の発現が懸念されている。

日本老年薬学会は2024年5月、医師、歯科医師や薬剤師等が、高齢者に頻用される抗コリン薬のリスクを正確に評価し、抗コリン薬による薬物有害事象や相互作用を減少させることで患者のQOLの向上を目指すことを目的として、「日本版抗コリン薬リスクスケール」を作成した（表）。高齢者を主な適用対象とするが、若年者でも基礎疾患によっては薬物有害事象の危険が高まることもあり、適用対象に年齢上の区分は設けない。

（日本版抗コリン薬リスクスケールに掲載された158薬物の選定および評価）

日本で入手可能な薬物（薬価収載薬、一般用医薬品）のみに限定した。内服薬、全身作用目的の経皮薬のみを対象とし、外用薬、眼科薬（局所）、耳科薬（局所）、経鼻薬（局所）、吸入薬などの非経口薬で全身作用を期待しない薬物、および販売中止医薬品は除外した。

評価には16文献を用い、各薬物の掲載スケール数、および平均点を算出し評価した。各文献でスコアリング方法が異なるため、スコアの補正作業を行った。スコア0の薬物リストは公開していない。

（使い方）

1. 個々の薬物のリスク評価
各薬物が持つ抗コリン作用によるリスクの強さをスコア3から1で評価を行う。高いスコアの薬物を使用している場合は、より低いスコアの薬物に切り替えるなど検討を行う。
2. 総合的なリスク評価（総抗コリン薬負荷）
高齢者は複数疾患に罹患しており複数の薬物が処方されていることが多く、それぞれの薬物のスコアを合算し、患者の総抗コリン薬負荷を算出する。総抗コリン薬負荷は服用期間が長くなるほどそのリスクが増加することが示されているため、服用期間も含めて確認し、総抗コリン薬負荷を下げるよう介入することが望ましい。
抗コリン薬は一般用医薬品にも含まれており、同様に評価することが求められている。



「日本版抗コリン薬リスクスケール第1版」日本老年薬学会2024年5月
抗コリン薬の薬物有害事象（認知機能低下、嚥下機能低下、排尿困難等）に関するスコアリングレビューや、158薬物のリスクスコアがこちらから確認できる。

表 日本版抗コリン薬リスクスケール

薬効群	薬物	リスクスコア
睡眠薬	エスタゾラム、トリアゾラム、フルニトラゼパム、フルラゼパム	1
抗不安薬	アルプラゾラム、クロラゼパム、クロルジアゼポキシド	1
抗不安薬・抗てんかん薬	ジアゼパム、ロラゼパム	1
抗てんかん薬	クロナゼパム、バルプロ酸、フェノバルビタール	1
	カルバマゼピン	2
抗パーキンソン病治療薬	エンタカポン、カルビドパ/レボドパ、セレギリン、プラミペキソール、プロモクリプチン、レボドパ、ロチゴチン	1
	アマンタジン	2
	トリヘキシフェニジル、ビペリデン	3
定型抗精神病薬	ハロペリドール	1
	フルフェナジン、プロクロルペラジン、プロペリシアジン、ペルフェナジン、レボメプロマジン	2
	クロルプロマジン	3
非定型抗精神病薬	アセナピン、アリピプラゾール、パリペリドン、プロナンセリン、リスペリドン	1
	オランザピン、クエチアピン	2
	クロザピン	3
抗精神病薬	ゾテピン	2
気分安定薬	リチウム	1

（次ページへつづく）

(前ページよりつづき)

薬効群	薬物	リスクスコア
抗うつ薬	エスシタロプラム、セルトラリン、デュロキセチン、トラゾドン、フルボキサミン、ベンラファキシン、ミルタザピン	1
	セチプチリン、ドスレピン、パロキセチン、マプロチリン、ミアンセリン、ロフェプラミン	2
	アミトリプチリン、アモキサピン、イミプラミン、クロミプラミン、トリミプラミン、ノルトリプチリン	3
筋弛緩薬	メトカルバモール※2	1
	エペリゾン、クロルゾキサゾン※1、バクロフェン	2
	チザニジン	3
制吐薬・鎮量薬	スコボラミン※1、ジフェニドール、ジメンヒドリナート	3
片頭痛治療薬	スマトリプタン、ゾルミトリプタン、ナラトリプタン	1
強心薬	ジゴキシン	1
狭心症治療薬	一硝酸イソソルビド、ジピリダモール、硝酸イソソルビド	1
抗不整脈薬	アミオダロン、キニジン	1
	ジソピラミド	2
降圧薬	アテノロール、カプトプリル、ジルチアゼム、トランドラプリル、ニフェジピン、ヒドララジン、ベタキソロール、ベナセプリル、メトプロロール	1
利尿薬	イソソルビド、トリアムテレン、フロセミド	1
鎮咳薬	グアイフェネシン※2、コデイン※2、デキストロメトルファン※2	1
	クロペラスチン	2
気管支喘息治療薬	テオフィリン※2	2
消化器管疾患治療薬	トリメプチン※2、ドンペリドン、ニザチジン※2、ファモチジン※2、メトクロプラミド、ランソプラゾール、ロペラミド※2	1
	シメチジン	2
	アトロピン、ジサイクロミン※2、チキジウム※2、ブチルスコポラミン※2、プロパンテリン	3
副腎皮質ステロイド	コルチゾン※2、デキサメタゾン※2、トリアムシノロン※2、ヒドロコルチゾン※2、プレドニゾロン※2、メチルプレドニゾロン	1
頻尿・過活動膀胱治療薬	イミダフェナシン、オキシブチニン、ソリフェナシン、トルテロジン、フェソテロジン、フラボキサート※2、プロピベリン※2	3
抗血栓薬	ワルファリン	1
痛風発作寛解・予防薬	コルヒチン	1
糖尿病治療薬	メトホルミン	1
免疫疾患治療薬	アザチオプリン、シクロスポリン、メトトレキサート	1
アレルギー疾患治療薬	エピナスチン※2、エメダスチン、オロパタジン、ケトチフェン※2、デスロラタジン、フェキソフェナジン※2、ルパタジン、レボセチリジン、ロラタジン※2	1
	アリメマジン※2、セチリジン※2	2
	カルビノキサミン※1、クレマスチン※2、クロルフェニラミン※2、ジフェニルピラリン※1、ジフェンヒドラミン※2、シプロヘプタジン、ヒドロキシジン、フェニラミン※1、プロメタジン※2、メキタジン※2	3
その他(抗コリン薬)	ベラドンナ※1	3
抗菌薬	アンピシリン、クリンダマイシン、バンコマイシン	1
鎮痛薬(NSAIDs)	セレコキシブ	1
麻薬類似薬	トラマドール	2
麻薬	オキシコドン、タペンタドール、フェンタニル、モルヒネ	1
	メサドン	2

※1：一般用医薬品のみが市販。

※2：一般用医薬品と医療用医薬品が市販。

いずれの表記もないものは、医療用医薬品のみが市販。

Ⅲ. エンタカポン製剤の使用による健康影響評価

エンタカポンを含有する製剤（エンタカポン製剤）について、ニトロソアミン類に分類される化学物質N-ニトロソジエチルアミン（NDEA）が検出されたことを受け、国内の製造販売業者のうち、ノバルティス ファーマ株式会社およびサンド株式会社のエンタカポン単味製剤（コムタンTM錠100mgおよびエンタカポン錠100mg「サンド」（以下、本剤））については、管理値^{※1}を上回るNDEAが検出された製剤ロットの自主回収を行っている。なお、ノバルティス ファーマ株式会社のエンタカポン・レボドパ・カルビドパ水和物配合剤（スタレボTM配合錠）については、管理値を上回る製剤ロットは現時点で確認されていない。現在、国内で流通している製剤（配合剤を含む）は、NDEAが管理値以下となるよう、製造販売業者により適切に管理されている。

※1：エンタカポン製剤におけるNDEAの管理値については、NDEAの一日許容摂取量 26.5ng/日、エンタカポン製剤の一日最大用量（1,600mg）、想定される使用期間（10年間）に基づき177.55ng/日と設定。

今般、過去にこれらの製剤を使用した患者における健康への影響について評価を行い、令和5年度第16回薬事・食品衛生審議会薬事分科会医薬品等安全対策部会安全対策調査会における審議結果を踏まえ、本剤の服用による健康影響評価、本剤を服用している方々への対応等が下記のとおり取りまとめられた。

（NDEAについて）

エンタカポンは、その構造中にジエチルアミド構造 [-CO-N(CH₂CH₃)₂] を有することから、原薬および製剤の製造工程で生成したジエチルアミンが、亜硝酸塩存在下でニトロソ化することにより、NDEAが生成される可能性がある。

NDEAの一日許容摂取量は、自主点検に係る通知および欧米のガイダンスにおいて、げっ歯類のTD₅₀値（腫瘍発生率が50%となる用量）に基づき26.5ngである旨が公表されている。

（NDEAの発生原因）

エンタカポンは、diethyl tertiary amide構造を有している。合成にジエチルアミンを使用すること、またはEP不純物Fおよびジエチルアミンを生じる加水分解により、原薬中にジエチルアミンが存在するリスクがある。ジエチルアミンは、亜硝酸塩によりN-ニトロソ化されやすい第二級アミンであり、NDEAを形成する可能性がある（図）。また、添加剤には亜硝酸塩が含まれているため、ニトロソ化を誘発する可能性があり、エンタカポン原薬を使用する医薬品の大部分でNDEAが認められる可能性がある。

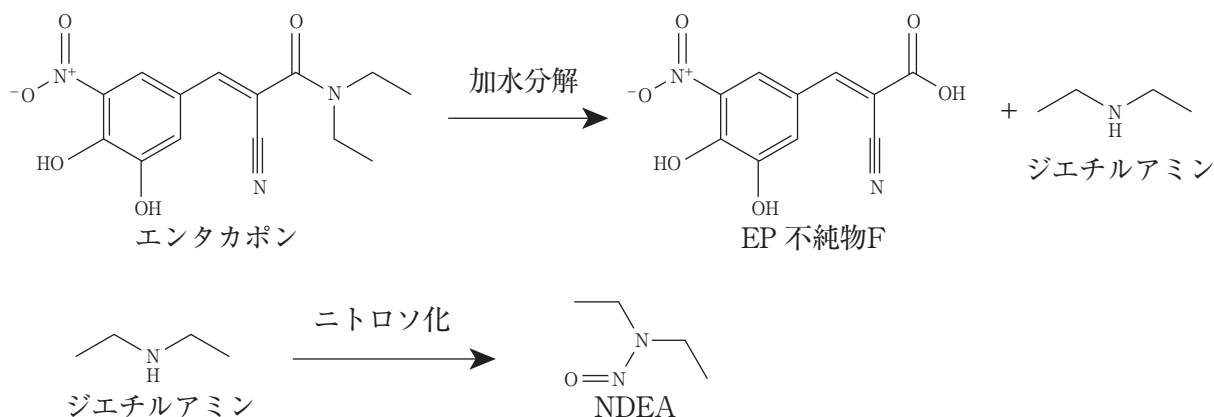


図 エンタカポン、NDEAのN-ニトロソ化経路および構造

（本剤の使用による健康影響評価について）

管理値を上回るNDEAを含む本剤の使用による理論上の発がんリスクについて、本剤1,600mgを10年間毎日服用した場合の理論上の発がんリスクは、ノバルティス ファーマ株式会社製品（コムタンTM錠100mg）ではおよそ143,000人に1人、サンド株式会社製品（エンタカポン錠100mg「サンド」）ではおよそ133,000人に1人が、生涯（70年間）でその曝露により過剰にがんを発症する程度のリスクに相当すると評価されている^{※2}。

※2：発がんリスクの評価は、以下の前提で行っている。

- ・本剤の使用期間については、製造販売業者が実施したデータベースを用いた使用実態調査に基づき、最長10年間と設定。

- ・1日使用量については、本剤の用法および用量が「本剤は単独では使用せず、必ずレボドパ・カルビドパ又はレボドパ・ベンセラジド塩酸塩と併用する。通常、成人にはエンタカポンとして1回100mgを経口投与する。なお、症状によりエンタカポンとして1回200mgを投与することができる。ただし、1日8回を超えないこと」であるため、1,600mgと設定。
- ・本剤のNDEAの含量については、10年間という長期間の投与を想定しており、単一の製剤ロットの使用は想定されないことから、製剤ロット間の含量のばらつきはあるものの、製剤ロットの分析結果の平均値（ノバルティス ファーマ株式会社製品では0.0810ppm、サンド株式会社製品では0.0870ppm）を含量として設定。

（本剤を使用している方等への対応）

医療機関等に対しては、本剤の投与を中止する場合には、パーキンソン病患者でみられる悪性症候群や横紋筋融解症が発現するおそれがあるので、患者の状態を十分観察しながら投与量を漸減し、必要に応じて併用薬を増量するなど注意深く行う必要があることから、患者の自己の判断のみにより本剤の服用を中止しないよう説明する。

【文献】

N-ニトロソジエチルアミンが検出されたエンタカポンを含有する製剤の使用による健康影響評価の結果等について（厚生労働省医薬局医薬安全対策課、監視指導・麻薬対策課 令和6年3月29日 事務連絡）

<https://www.mhlw.go.jp/content/001238375.pdf>

令和5年度 第16回医薬品等安全対策部会安全対策調査会（令和6年3月26日）

資料2-1 <https://www.mhlw.go.jp/content/11120000/001233943.pdf>

資料2-2 <https://www.mhlw.go.jp/content/11120000/001233944.pdf>

Ⅳ. 新医薬品の薬価基準追補収載

（2024年5月21日告示、22日から適用）

〔内 用 薬〕

劇：劇薬、処：処方箋医薬品、生：生物由来製品

分類	医薬品名（会社名）	識別コード	規格・単位	薬価(円)	規制
219	エンレスト粒状錠小児用12.5mg 〃 31.25mg (ノバルティス ファーマ)	12.5mg：白/無色透明 04/NVR 31.25mg：黄/無色透明 10/NVR (カプセル型容器の無色透明ボディ部に表示)	12.5mg 1個 31.25mg 1個 (サクビトリルバルサルタンとして)	21.40 45.10	処
概要	（有効成分） サクビトリルバルサルタンナトリウム水和物 アンジオテンシン受容体ネプリライシン阻害薬（ARNI）。 （効能・効果） 慢性心不全。 （用法・用量） 1歳以上の小児は、下表のとおり体重に応じた開始用量を1日2回投与。忍容性が認められる場合は、2～4週間の間隔で段階的に目標用量まで増量する。忍容性に応じて適宜減量。				
	小児における用量表（1回投与量）				
	体重	開始用量	第1漸増用量	第2漸増用量	目標用量
	40kg未満	0.8mg/kg	1.6mg/kg	2.3mg/kg	3.1mg/kg
	40kg以上50kg未満	0.8mg/kg	50mg	100mg	150mg
	50kg以上	50mg	100mg	150mg	200mg
・腎機能障害（eGFR 90mL/min/1.73m ² 未満）のある患者、中等度の肝機能障害（Child-Pugh分類B）のある患者、血圧が低い患者では、患者の状態を注意深く観察し、増量の可否を慎重に判断する。 ・本剤の増量は、臨床試験で用いられた血圧、血清カリウム値及び腎機能に関する以下の基準も目安に検討する。					

（次ページへつづく）

(前ページよりつづき)

概要

小児の臨床試験で用いられた増量時*の基準

血圧	収縮期血圧が以下の値超 ・ 1 歳以上10歳未満：70mmHg+ 2 × 年齢 ・ 10歳以上：90mmHg
血清カリウム値	5.4mEq/L以下
腎機能	eGFRが以下の値以上かつeGFRの低下率が35%未満 ・ 12ヶ月以上19ヶ月未満：31mL/min/1.73m ² ・ 19ヶ月以上18歳未満：38mL/min/1.73m ²

※目標用量に到達するまでの各段階の増量時の基準であり、臨床試験ではいずれの項目も満たす患者が増量可能とされた。

・ アンジオテンシン変換酵素阻害薬又はアンジオテンシンⅡ受容体拮抗薬が投与されている患者では、これらの用量や忍容性、及び患者の状態を踏まえ、医師が適切と判断した場合には、第1漸増用量から投与を開始することも可能。

・ 粒状錠小児用を用いて投与する場合

- 最低用量は12.5mgとし、用法及び用量で規定した投与量に最も近い用量となるよう、12.5mgと31.25mgを組み合わせて投与する。
- カプセルは容器であることから、カプセルごと投与せず、容器内の粒状錠のみを全量投与する。

(禁忌) 併用禁忌薬の投与中止から36時間以内の患者、血管浮腫の既往歴のある患者、アリスキレンフマル酸塩を投与中の糖尿病患者（ただし、他の降圧治療を行ってもなお血圧のコントロールが著しく不良の患者を除く）、重度の肝機能障害（Child-Pugh分類C）のある患者、妊婦又は妊娠している可能性のある女性。

(併用禁忌) アンジオテンシン変換酵素阻害薬（アラセプリル、イミダプリル塩酸塩、エナラプリルマレイン酸塩、カプトプリル、キナプリル塩酸塩、シラザプリル水和物、テモカプリル塩酸塩、デラプリル塩酸塩、トランドラプリル、ベナゼプリル塩酸塩、ペリンドプリルエルブミン、リシノプリル水和物）。

(相互作用) Sacubitrilat及びバルサルタンはOATP1B1及びOATP1B3の基質である。サクビトリル及びsacubitrilatはOATP1B1及びOATP1B3を阻害する。

(薬剤調製時の注意) PTPシートから取り出して調剤しない。

(薬剤交付時の注意) 以下の使用方法を十分指導する。

- 粒状錠の投与直前に指示された種類及び数のカプセル型容器をPTPシートから取り出す。
- 絶対にカプセル型容器ごと飲ませない。
- 粒状錠をカプセル型容器から取り出す際は、白色（粒状錠小児用12.5mg）又は黄色（粒状錠小児31.25mg）のキャップを上にして慎重に開封する。
- 粒状錠小児用は、1錠単位ではなく1カプセル単位（粒状錠小児用12.5mgは4錠、粒状錠小児用31.25mgは10錠）で含量を管理していることから、1回の投与時にカプセル型容器内の粒状錠はすべて投与することとし、1つのカプセル型容器内の粒状錠を分割して投与しない。

(作用機序)

サクビトリルバルサルタンは、サクビトリル及びバルサルタンに解離して、それぞれネプリライシン（NEP）及びアンジオテンシンⅡタイプ1（AT₁）受容体を阻害する。サクビトリルは、エステラーゼによりNEP阻害の活性体であるsacubitrilatに速やかに変換される。NEP阻害は、血管拡張作用、利尿作用、レニン-アンジオテンシン-アルドステロン系（RAAS）抑制作用、交感神経抑制作用、心肥大抑制作用、抗線維化作用、及びアルドステロン分泌抑制作用を有するナトリウム利尿ペプチドの作用亢進に寄与する。

バルサルタンのAT₁受容体拮抗作用は、血管収縮、腎ナトリウム・体液貯留、心筋肥大、及び心血管リモデリング異常に対する抑制作用をもたらす。

※新剤形（既発売品は、錠50mg・100mg・200mgで、100mg・200mgは高血圧症の効能・効果も有する）。

※新医薬品に係る処方日数制限（1回14日分まで）はない。

分類	医薬品名（会社名）	識別コード	規格・単位	薬価(円)	規制
399	オルミエント錠 1 mg (日本イーライリリー)	微赤白色フィルムコート錠 <i>Lilly</i> / 1	1 mg 1 T	1,356.80	劇 処

概要

(有効成分) バリシチニブ
ヤヌスキナーゼ（JAK）阻害薬。

(効能・効果)

○ 既存治療で効果不十分な下記疾患

- 関節リウマチ（関節の構造的損傷の防止を含む）

(次ページへつづく)

(前ページよりつづき)

概要

・アトピー性皮膚炎

・多関節に活動性を有する若年性特発性関節炎

○ SARS-CoV-2による肺炎（ただし、酸素吸入を要する患者に限る）

○ 円形脱毛症（ただし、脱毛部位が広範囲に及ぶ難治の場合に限る）

（用法・用量）

〈関節リウマチ、アトピー性皮膚炎（成人）、円形脱毛症〉
成人は、4 mgを1日1回投与。患者の状態に応じて2 mgに減量。

〈アトピー性皮膚炎（小児）、多関節に活動性を有する若年性特発性関節炎〉
2歳以上の患者は、体重に応じ以下の投与量を1日1回投与。

- ・30kg以上：4 mgとし、患者の状態に応じて2 mgに減量。
- ・30kg未満：2 mgとし、患者の状態に応じて1 mgに減量。
 - 体重30kg以上の場合に本剤4 mg 1日1回、体重30kg未満の場合に本剤2 mg 1日1回投与で治療効果が認められた際には、体重30kg以上の場合には2 mg 1日1回、体重30kg未満の場合には1 mg 1日1回投与への減量を検討する。
 - プロベネシドとの併用時には体重30kg以上の場合には本剤を2 mg 1日1回に、体重30kg未満の場合には1 mg 1日1回に減量するなど用量に注意する。
 - 中等度の腎機能障害のある患者には、体重30kg以上の場合には2 mgを、体重30kg未満の場合には1 mgを1日1回投与する。

〈SARS-CoV-2による肺炎〉
成人は、レムデシビルとの併用において4 mgを1日1回投与。総投与期間は14日間までとする。

（禁忌）

〈効能共通〉
活動性結核の患者、好中球数が500/mm³未満の患者、妊婦又は妊娠している可能性のある女性。

〈関節リウマチ、アトピー性皮膚炎、多関節に活動性を有する若年性特発性関節炎、円形脱毛症〉
重篤な感染症（敗血症等）の患者、重度の腎機能障害を有する患者、リンパ球数が500/mm³未満の患者、ヘモグロビン値が8 g/dL未満の患者。

〈SARS-CoV-2による肺炎〉
透析患者又は末期腎不全（eGFRが15mL/分/1.73m²未満）の患者、リンパ球数が200/mm³未満の患者。

（作用機序）
造血、炎症、免疫機能に関与する各種サイトカインや成長因子が受容体に結合する際にJAKが介在した細胞内シグナル伝達が行われる。細胞内シグナル伝達経路の中でJAK自体のリン酸化とともに対応するシグナル伝達兼転写活性化因子（STAT）がリン酸化される。リン酸化されたSTATは核内に移行し、サイトカインに反応する遺伝子群の転写を亢進する。パリシチニブはJAK1及びJAK2活性を阻害し、STATのリン酸化及び活性化を抑制することによりシグナル伝達を阻害する。

※新規格（既発売品は、2 mg・4 mg）。アトピー性皮膚炎（小児）の効能追加。

※新医薬品に係る処方日数制限（1回14日分まで）はない。

分類	医薬品名（会社名）	識別コード	規格・単位	薬価(円)	規制
429	トルカブ錠160mg 〃 200mg (アストラゼネカ)	明るい灰みの黄赤色フィルム コート錠 160mg：CAV160 200mg：CAV200	160mg 1 T 200mg 1 T	9,263.50 11,244.30	劇 処

概要

（有効成分）カピバセルチブ
抗悪性腫瘍薬。AKT阻害薬。

（効能・効果）内分泌療法後に増悪したPIK3CA、AKT1又はPTEN遺伝子変異を有するホルモン受容体陽性かつHER2陰性の手術不能又は再発乳癌。

（用法・用量）フルベストラントとの併用において、成人は、1回400mgを1日2回、4日間連続して投与し、その後3日間休薬。これを1サイクルとして投与を繰り返す。患者の状態により適宜減量。

・本剤投与により副作用が発現した場合には、添付文書の目安を考慮して、休薬・減量・中止する。

・強いCYP3A阻害剤と併用する場合には、本剤の1回用量を320mgに減量する。

（相互作用）主にCYP3Aにより代謝され、CYP3Aに弱い阻害作用を示す。また、MATE1、MATE2-K及びOCT2に阻害作用を示す。

（作用機序）
カピバセルチブは、AKTのキナーゼ活性を阻害する。AKT及びその下流のシグナル伝達分子を阻害することにより、腫瘍増殖抑制効果を示す。

分類	医薬品名（会社名）	識別コード	規格・単位	薬価(円)	規制
399	レズロック錠200mg (Meiji Seika ファルマ)	微黄色～黄色フィルムコート錠 KDM/200	200mg 1 T (ベルモスジルと して)	30,525.90	劇 処
概要	(有効成分) ベルモスジルメシル酸塩 選択的ROCK2阻害薬。 (効能・効果) 造血幹細胞移植後の慢性移植片対宿主病（ステロイド剤の投与で効果不十分な場合）。 (用法・用量) 成人及び12歳以上の小児は、200mgを1日1回食後に投与。併用薬に応じて、効果不十分な場合に1回200mg1日2回投与に増量可能。 - 食後投与に比べて空腹時投与で本剤のCmax及びAUCが低下するため、本剤は食後に服用する。 - プロトンポンプ阻害剤又は強いCYP3A4誘導剤との併用により、本剤の血中濃度が低下する可能性があるため、これらの薬剤を併用する場合は患者の状態に注意し、本剤の効果が不十分な場合には、本剤を1回200mg1日2回投与に増量することを考慮する。 (禁忌) 妊婦又は妊娠している可能性のある女性。 (相互作用) 主にCYP3A4により代謝され、CYP3A、P-gp、BCRP及びOATP1B1に対する阻害作用を示す。また、本剤の溶解度はpHの上昇により低下する。 (薬剤交付時の注意) - ボトル包装のふたはチャイルドロックを施しているため、ふたを強く押しながらねじって開封する。 - ボトル開封後は、湿気を避けて保存する。 - 小分けをする場合には、専用小分けボトル等の湿気を避けられる容器を用いる。 (作用機序) Rho-associated coiled-coil-containing protein kinase (ROCK) 2は、T細胞受容体シグナル伝達を含むT細胞免疫応答の調整、細胞骨格系再構築及びエフェクターT細胞の機能獲得において中心的な役割を果たすRho GTPaseシグナル伝達経路の下流に存在する分子である。ベルモスジルはROCK2に選択的に結合し、ROCK2のキナーゼ活性を阻害することにより、T細胞免疫応答の調整作用及び抗繊維化作用を示す。				

〔外 用 薬〕

分類	医薬品名（会社名）	規格・単位	薬価(円)	規制
229	サルグマリン吸入用250μg （ノーベルファーマ）	250μg 1 瓶	42,359.10	処 生
概要	(有効成分) サルグラモスチム（遺伝子組換え） 遺伝子組換えヒトGM-CSF製剤。 1バイアル中の含量：サルグラモスチム（遺伝子組換え）264μg（1回の投与で125μgを吸入できるよう過量充填） (効能・効果) 自己免疫性肺胞蛋白症。 (用法・用量) 成人は、125μgを1日2回、ネブライザーを用いて7日間連日吸入投与し、7日間休薬する。これを1クールとし、投与を繰り返す。 (薬剤交付時の注意) - 本剤はネブライザーを用いて吸入するタンパク製剤であり、加熱により活性が失われるおそれがあることから、超音波式（メッシュ式を除く）以外のネブライザーを使用するよう指導する。また、ネブライザーは機種により使用方法及び性能が異なるため、患者に対してその使用方法及び性能をよく説明する。 - 本剤を交付する際には、患者用説明文書を渡し、本剤の調製方法及び吸入方法を指導する。 - バイアルは遮光して冷蔵保存（2～8℃）するように指導する。 (薬剤調製時の注意) - 本剤は日局生理食塩液4mLを用いて溶解し、1回に2mLの薬液を使用する。残りの薬液2mLは冷蔵保存（2～8℃）して18時間以内に使用する。 - 冷蔵保存（2～8℃）した残りの薬液を使用する場合は、常温に戻してから使用する。 (作用機序) サルグラモスチムは肺胞マクロファージの成熟を促し、それに続く成熟マクロファージによる肺サーファクタントの分解により肺機能を改善する。			

分類	医薬品名（会社名）	規格・単位	薬価(円)	規制
131	シスタドロップス点眼液0.38%（ヴィアトリス）	0.38% 5 mL 1 瓶 （システアミンとして）	256,095.50	処
概要	（有効成分）システアミン塩酸塩 1 mL中の含量：システアミン塩酸塩5.6mg（システアミンとして3.8mg） （効能・効果） シスチン症における角膜シスチン結晶の減少。 （用法・用量） 1回1滴、1日4回点眼。症状により適宜回数を減じる。 （禁忌） ペニシラミンに対し過敏症の既往のある患者。 （薬剤交付時の注意） 患者及び保護者等に対して、以下の点などを患者及び保護者等向けの説明書を用いるなどの方法によって、十分に説明する。 ・本剤は澄明で粘稠性のある液であるが、微量の繊維状物質を含むことがある。 ・開栓前は外箱に入れ冷蔵（2～8℃）保存する。 ・開栓の1時間以上前に常温（15～25℃）に置く。 ・開栓後は外箱に入れて、冷所（1～15℃）を避けて常温（15～25℃）で保存する。 ・開栓後7日経過した残液は使用しない。 ・本剤の点眼には、点眼用ノズルをバイアルに装着して使用する。 ・薬液汚染防止のため、点眼用ノズル装着時にノズルやバイアルの内側に触れないよう、また、点眼時に点眼用ノズルの先端が直接目に触れないように注意する。 ・患眼を開瞼して結膜嚢内に点眼し、1～5分間閉瞼して涙嚢部を圧迫させた後、開瞼する。 ・他の点眼剤と併用する場合には、少なくとも10分間以上の間隔をあけて点眼する。 ・本剤に含まれているベンザルコニウム塩化物は、ソフトコンタクトレンズに吸着することがあるので、コンタクトレンズを装着している場合は点眼前にレンズを外し、点眼15分以上経過後に装着する。 （作用機序） システアミンは、ライソゾームに蓄積するシスチンと反応し、システイン-システアミン混合ジスルフィド及びシステインを生成し（ジスルフィド交換反応）、角膜のシスチン結晶を減少させる。			

〔注 射 薬〕

分類	医薬品名（会社名）	規格・単位	薬価(円)	規制
430	アキュミン静注（日本メジフィジックス）	185MBq 1 瓶 （検定日時において）	344,867	処
概要	（有効成分）フルシクロビン（¹⁸F） 放射性医薬品。悪性腫瘍診断薬。 （効能・効果） 初発の悪性神経膠腫が疑われる患者における腫瘍の可視化。ただし、磁気共鳴コンピュータ断層撮影検査による腫瘍摘出計画時における腫瘍摘出範囲の決定の補助に用いる。 （用法・用量） 本剤1バイアル（87～270MBq）を静脈内投与し、投与10～50分後にポジトロン断層撮影法により撮像を開始。 （集積機序） フルシクロビン（¹⁸F）は、血液脳関門を透過し、アミノ酸トランスポーターを介して細胞内に取り込まれるが、腫瘍細胞等では正常細胞よりもアミノ酸代謝が亢進していることから、正常細胞よりも腫瘍組織でより多く集積する。			
分類	医薬品名（会社名）	規格・単位	薬価(円)	規制
339	アジンマ静注用1500（武田）	1500IU 1 瓶(溶解液付)	1,212,026	処 生
概要	（有効成分）アパダムターゼ アルファ（遺伝子組換え）・シナキサダムターゼ アルファ（遺伝子組換え） 遺伝子組換えヒトADAMTS13製剤。 1 バイアル中の含量：アパダムターゼ アルファ（遺伝子組換え）/シナキサダムターゼ アルファ（遺伝子組換え）1590IU（1 バイアルから1500IUを採取するに足る量を確保するため過量充填） （効能・効果） 先天性血栓性血小板減少性紫斑病。 （用法・用量） 本剤を添付の溶解液 5 mLで溶解し、2～4 mL/分の速度で緩徐に静脈内注射。定期的投与する場合、成人及び12歳以上の小児は、1回40IU/kgを隔週投与するが、患者の状態に応じて1回40IU/kgを週1回投与可能。 急性増悪時に投与する場合、成人及び12歳以上の小児は、1日目に1回40IU/kg、2日目に1回20/kg、3日目以降は1日1回15IU/kgを投与。			

（次ページへつづく）

(前ページよりつづき)

概要	(作用機序) ADAMTS13は、亜鉛メタロプロテイナーゼであり、超高分子量VWF多量体を切断し、小単位とすることにより、VWFと血小板との結合及びそれに続く微小血栓の形成を抑制する。本剤は遺伝子組換えADAMTS13であり、本剤によりADAMTS13を補充し、血漿中のADAMTS13活性を回復させることで、血小板減少症につながる微小血管の血栓形成を抑制する。			
分類	医薬品名（会社名）	規格・単位	薬価(円)	規制
430	アミヴィッド静注（PDRファーマ）	370MBq 1 瓶 (検定日時において)	184,203	処
概要	(有効成分) フロルベタピル (¹⁸F) 放射性医薬品。アミロイドイメージング薬。 1 バイアル中の含量：1～9 mL（検定日時においてフロルベタピル (¹⁸ F) を370MBq含有するように、製剤ごとに異なる放射エネルギーが充填） (効能・効果) アルツハイマー病による軽度認知障害又は認知症が疑われる患者の脳内アミロイドベータプラークの可視化。 (用法・用量) 370MBqを静脈内投与し、投与30分後から50分後までに撮像を開始。撮像時間は10分間とする。 (集積機序) ヒト脳組織ホモジネートを用いた <i>in vitro</i> 結合試験において、フロルベタピル (¹⁸ F) はアミロイドベータ (A β) に高い親和性で結合することが示された。また、ヒト脳組織切片を用いたオートラジオグラフィ試験において、フロルベタピル (¹⁸ F) はA β に選択的かつ定量的に結合することが示された。 (保険給付上の注意) 本剤は、レカネマブ（遺伝子組換え）製剤の投与の可否を判断する目的でA β 病理を示唆する所見を確認する場合に限り、保険適用される。			
分類	医薬品名（会社名）	規格・単位	薬価(円)	規制
429	エルレフィオ皮下注44mg 〃 76mg（ファイザー）	44mg 1.1mL 1 瓶 76mg 1.9mL 1 瓶	558,501 957,222	劇 処 生
概要	(有効成分) エルラナタマブ（遺伝子組換え） 抗悪性腫瘍薬。抗BCMA/CD3二重特異性抗体。 (効能・効果) 再発又は難治性の多発性骨髄腫（標準的な治療が困難な場合に限る）。 (用法・用量) 成人は、1 日目に12mg、4 日目に32mgを1 回皮下投与。8 日目以降は1 回76mgを1 週間間隔で皮下投与。24週間以上投与し、奏効が認められている場合は、投与間隔を2 週間間隔とする。 ・本剤投与によるサイトカイン放出症候群（CRS）を軽減させるため、1 日目、4 日目及び8 日目の投与については、本剤投与開始の約1 時間前に、解熱鎮痛剤、副腎皮質ホルモン剤及び抗ヒスタミン剤を投与する。 ・本剤投与により副作用が発現した場合には、添付文書の基準を参考に本剤を休薬又は中止する。 ・副作用等の理由による休薬後に本剤を再開する場合は、添付文書の表を参考に投与する。以降は、用法・用量の投与スケジュールに準じる。 (作用機序) エルラナタマブは、B細胞成熟抗原（BCMA）及びCD3に対するヒト化免疫グロブリン（Ig）G2二重特異性モノクローナル抗体である。エルラナタマブは、T細胞の細胞膜上に発現するCD3と骨髄腫細胞の細胞膜上に発現するBCMAの両者に結合することによりT細胞を活性化し、BCMA陽性の腫瘍細胞を傷害する。			
分類	医薬品名（会社名）	規格・単位	薬価(円)	規制
634	オビザー静注用500（武田）	500U 1 瓶 (溶解液、専用溶解器付)	268,509	処 生
概要	(有効成分) スソクトコグ アルファ（遺伝子組換え） 遺伝子組換え型ブタ配列血液凝固第Ⅷ因子製剤。 (効能・効果) 後天性血友病A患者における出血抑制。 (用法・用量) 本剤を添付の日本薬局方注射用水1 mLで溶解し、緩徐に静脈内注射。18歳以上の患者は、初回投与量は体重1 kg当たり200単位とする。その後は、出血の程度に応じて、血液凝固第Ⅷ因子活性や患者の状態を確認しながら投与量と投与頻度を調節する。 (禁忌) ハムスター細胞由来タンパク質に対してアナフィラキシーの既往歴のある患者、インヒビター保有先天性血友病A患者。 (作用機序) スソクトコグ アルファはBドメイン欠損遺伝子組換えブタ血液凝固第Ⅷ因子であり、血液凝固第Ⅷ因子の欠乏を一時的に補正することにより、出血を抑制する。			

分類	医薬品名（会社名）	規格・単位	薬価(円)	規制												
639	ピアスカイ注340mg（中外）	340mg 2 mL 1 瓶	1,978,062	劇 処 生												
概要	（有効成分） クロバリマブ（遺伝子組換え） pH依存的結合性ヒト化抗補体（C5）モノクローナル抗体。 （効能・効果） 発作性夜間ヘモグロビン尿症（PNH）。 ・原則として本剤投与開始の少なくとも 2 週間前までに髄膜炎菌に対するワクチンを接種する。 （用法・用量） 患者の体重を考慮し、1 日目に 1 回1,000又は1,500mgを点滴静注し、2、8、15 及び22日目に 1 回340mg、29日目以降は 4 週ごとに 1 回680又は1,020mgを皮下投与。 ・1 回あたりの本剤の投与量及び投与方法は、下表を参考にする。															
	<table><tr><td>体重</td><td>1 日目</td><td>2、8、15及び22日目</td><td>29日目以降、4 週に 1 回</td></tr><tr><td>40kg以上 100kg未満</td><td>1,000mg点滴静注</td><td>340mg皮下投与</td><td>680mg皮下投与</td></tr><tr><td>100kg以上</td><td>1,500mg点滴静注</td><td>340mg皮下投与</td><td>1,020mg皮下投与</td></tr></table>				体重	1 日目	2、8、15及び22日目	29日目以降、4 週に 1 回	40kg以上 100kg未満	1,000mg点滴静注	340mg皮下投与	680mg皮下投与	100kg以上	1,500mg点滴静注	340mg皮下投与	1,020mg皮下投与
	体重	1 日目	2、8、15及び22日目	29日目以降、4 週に 1 回												
	40kg以上 100kg未満	1,000mg点滴静注	340mg皮下投与	680mg皮下投与												
	100kg以上	1,500mg点滴静注	340mg皮下投与	1,020mg皮下投与												
予定日に投与できなかった場合は、可能な限り速やかに 1 回分を投与し、以降の投与は規定通りに行う。																
（禁忌） 髄膜炎菌感染症に罹患している患者。 （作用機序） クロバリマブは、補体C5にpH依存的に高い親和性で結合する。補体C5のC5a及びC5bへの開裂を阻害することで、終末補体複合体C5b-9の生成を抑制し、補体の活性化を阻害する。PNH患者における補体介在性の血管内溶血を抑制する。																
分類	医薬品名（会社名）	規格・単位	薬価(円)	規制												
429	ビキセオス配合静注用（日本新薬）	(144mg) 1 瓶	877,877	劇 処												
概要	（有効成分） ダウノルビシン塩酸塩・シタラビン 抗悪性腫瘍薬。 1 バイアル中の含量：100ユニット（ダウノルビシン塩酸塩47mg（ダウノルビシンとして44mg）、シタラビン100mg） （効能・効果） 高リスク急性骨髄性白血病。 （用法・用量） （1）寛解導入療法 本剤100ユニット（ダウノルビシン/シタラビンとして44mg/100mg）/m ² （体表面積）を 1 日 1 回、90分かけて、最大 2 サイクルまで投与。 1 サイクル目として本剤を 1、3、5 日目に点滴静注。1 サイクル目に寛解に到達しなかった患者で、本剤への忍容性が良好な場合、1 サイクル目の投与開始から 2 ～ 5 週間後に、2 サイクル目として本剤を 1、3 日目に点滴静注。 （2）地固め療法 本剤65ユニット（ダウノルビシン/シタラビンとして29mg/65mg）/m ² （体表面積）を 1 日 1 回、90分かけて、最大 2 サイクルまで投与。 最後の寛解導入療法開始から 5 ～ 8 週間後に、1 サイクル目として本剤を 1、3日目に点滴静注。 1 サイクル目の投与開始後に病態が進行していない患者で、本剤への忍容性が良好な場合、1 サイクル目の地固め療法開始から 5 ～ 8 週間後に、2 サイクル目として本剤を 1、3 日目に点滴静注。 （重要な基本的注意） 本剤はダウノルビシンとシタラビンをリポソームに封入した製剤であることから、本剤の有効性、安全性、薬物動態等は従来のダウノルビシン塩酸塩製剤又はシタラビン製剤と異なる。本剤を従来のダウノルビシン塩酸塩製剤又はシタラビン製剤の代替として使用しない。また、本剤を従来のダウノルビシン塩酸塩製剤又はシタラビン製剤と同様の用法・用量で投与しない。 （禁忌） 心機能異常又はその既往歴のある患者。 （作用機序） 本剤は、ダウノルビシンとシタラビンを 1：5 のモル比で含有するリポソーム製剤である。ダウノルビシンは、DNAと結合し、トポイソメラーゼⅡを阻害してDNA合成を阻害することにより、腫瘍増殖抑制作用を示す。シタラビンは、生体内で活性代謝物（Ara-CTP）に変換され、DNAポリメラーゼを阻害してDNA合成を阻害することにより、腫瘍増殖抑制作用を示す。本剤は、エンドサイトーシス等により腫瘍細胞に取り込まれ、本剤からダウノルビシン及びシタラビンを放出することで、腫瘍増殖抑制作用を示す。															
	分類	医薬品名（会社名）	規格・単位	薬価(円)	規制											
	429	ビキセオス配合静注用（日本新薬）	(144mg) 1 瓶	877,877	劇 処											

分類	医薬品名（会社名）	規格・単位	薬価(円)	規制
430	ビザミル静注（日本メジフィジックス）	185MBq 1 瓶 （検定日時において）	196,481	処
概要	（有効成分）フルテメタモル（¹⁸F） 放射性医薬品。脳疾患診断薬。 （効能・効果）アルツハイマー病による軽度認知障害又は認知症が疑われる患者の脳内アミロイドベータプラークの可視化。 （用法・用量）本剤 1 バイアル（120～370MBq）を静脈内投与し、投与後60～120分に撮像を開始。 （集積機序） フルテメタモル（¹⁸F）は ¹¹C-PiBと同様に非イオン性であり、血液脳関門を通過して、高い親和性を持って脳内アミロイドベータ（Aβ）に結合すると共に、正常な脳組織からは速やかにクリアランスされるという特徴を有する。フルテメタモル（¹⁸F）は脳内に沈着したAβに結合する一方で、Aβが沈着していない大脳皮質からは速やかにクリアランスされる。 （保険給付上の注意） 本剤は、レカネマブ（遺伝子組換え）製剤の投与の可否を判断する目的でAβ病理を示唆する所見を確認する場合に限り、保険適用される。			
分類	医薬品名（会社名）	規格・単位	薬価(円)	規制
429	ビロイ点滴静注用100mg（アステラス）	100mg 1 瓶	54,502	劇 処 生
概要	（有効成分）ゾルベツキシマブ（遺伝子組換え） 抗悪性腫瘍薬。抗CLDN18.2モノクローナル抗体。 1 バイアル中の含量：ゾルベツキシマブ（遺伝子組換え）105mg（1 バイアルを注射用水5.0mLで溶解した時にゾルベツキシマブ濃度が20mg/mLとなるよう過量充填） （効能・効果）CLDN18.2陽性の治癒切除不能な進行・再発の胃癌。 （用法・用量）他の抗悪性腫瘍剤との併用において、成人は、初回は800mg/m²（体表面積）を、2 回目以降は600mg/m²（体表面積）を 3 週間間隔又は400mg/m²（体表面積）を 2 週間間隔で 2 時間以上かけて点滴静注。 ・本剤の投与速度は添付文書の表を参考とし、患者の忍容性が良好な場合には投与開始から30～60分後以降は徐々に投与速度を上げることが可能。 ・本剤投与により副作用が発現した場合には、添付文書の表を参考に、本剤の中断・中止等を考慮する。 （作用機序） ゾルベツキシマブは、ヒトCLDN18.2に対する抗体であり、胃癌細胞等の細胞膜上に発現するCLDN18.2に結合し、抗体依存性細胞傷害（ADCC）活性及び補体依存性細胞傷害（CDC）活性により、腫瘍増殖抑制作用を示す。			
分類	医薬品名（会社名）	規格・単位	薬価(円)	規制
229	ファセンラ皮下注10mgシリンジ（アストラゼネカ）	10mg 0.5mL 1 筒 （注射針付）	134,121	劇 処 生
概要	（有効成分）ベンラリズマブ（遺伝子組換え） ヒト化抗IL-5受容体αモノクローナル抗体。 （効能・効果）気管支喘息（既存治療によっても喘息症状をコントロールできない難治の患者に限る）。 （用法・用量）体重35kg未満の6 歳以上12歳未満の小児は1 回10mgを、初回、4 週後、8 週後に皮下注射し、以降、8 週間隔で皮下注射。 ・10mgシリンジと30mgシリンジの生物学的同等性試験は実施していないため、30mgを投与する際には10mgシリンジを使用しない。 （作用機序） ベンラリズマブは、好酸球の細胞表面に発現するインターロイキン-5（IL-5）受容体αサブユニット（IL-5Rα）に特異的かつ高親和性で結合し、IL-5の好酸球に対する作用を抑制する。さらに、糖鎖からフコースを除去する技術（ポテリジェント技術）によりナチュラルキラー細胞（NK細胞）を誘導し、ADCC活性（抗体依存性細胞傷害活性）を介して直接的に血中好酸球を除去する。また、血中好酸球だけでなく、喀痰、気道中好酸球も除去する。 ※新規格（既発売品は、皮下注30mgシリンジ）。プレフィルドシリンジ製剤。			

分類	医薬品名（会社名）	規格・単位	薬価(円)	規制
625	ベイフォータス筋注 50mgシリンジ 〃 100mgシリンジ (アストラゼネカ～サノフィ)	50mg 0.5mL 1 筒 100mg 1 mL 1 筒	459,147 906,302	処 生
概要	(有効成分) ニルセビマブ（遺伝子組換え） 抗RSウイルスヒトモノクローナル抗体。 (効能・効果) 1. 生後初回又は2回目のRSウイルス（Respiratory Syncytial Virus）感染流行期の重篤なRSウイルス感染症のリスクを有する新生児、乳児及び幼児における、RSウイルス感染による下気道疾患の発症抑制。 2. 生後初回のRSウイルス感染流行期の1. 以外のすべての新生児及び乳児におけるRSウイルス感染による下気道疾患の予防。 (用法・用量) 生後初回のRSウイルス感染流行期には、体重5kg未満の新生児及び乳児は50mg、体重5kg以上の新生児及び乳児は100mgを1回、筋肉内注射。 生後2回目のRSウイルス感染流行期には、200mgを1回、筋肉内注射。 (作用機序) ニルセビマブは、長期間作用型の遺伝子組換えヒト免疫グロブリンG1κ（IgG1κ）モノクローナル抗体であり、RSウイルスFタンパク質（膜融合前構造）の抗原部位におけるエピトープに結合する。RSウイルスFタンパク質はウイルス侵入過程の膜融合段階に必要であり、ニルセビマブはこれを阻害することによりRSウイルスを中和する。 ※プレフィルドシリンジ製剤。			
分類	医薬品名（会社名）	規格・単位	薬価(円)	規制
449	ミチーガ皮下注用30mgバイアル（マルホ）	30mg 1 瓶	67,112	劇 処 生
概要	(有効成分) ネモリズマブ（遺伝子組換え） ヒト化抗ヒトIL-31受容体Aモノクローナル抗体。 1 バイアル中の含量：ネモリズマブ（遺伝子組換え）51.2mg（溶解した薬液の調製時の損失を考慮し、過量充填。注射用水0.9mLで溶解した薬液全量のうち、0.6mLに含まれる量は30mgとなる） (効能・効果) 既存治療で効果不十分な、アトピー性皮膚炎に伴うそう痒、結節性痒疹。 (用法・用量) 〈アトピー性皮膚炎に伴うそう痒〉 6歳以上13歳未満の小児は、1回30mgを4週間の間隔で皮下投与。 〈結節性痒疹〉 成人及び13歳以上の小児は、初回に60mgを皮下投与し、以降1回30mgを4週間の間隔で皮下投与。 ・本剤とミチーガ皮下注用60mgシリンジの生物学的同等性は示されていないことから、互換使用を行わない。 (作用機序) ネモリズマブは、ヒト化抗ヒトIL-31受容体A（IL-31RA）モノクローナル抗体であり、IL-31と競合的IL-31に結合することにより、IL-31の受容体への結合及びそれに続く細胞内へのシグナル伝達を阻害する。 ※新剤形（既発売品は皮下注用60mgシリンジで、効能・効果はアトピー性皮膚炎に伴うそう痒（既存治療で効果不十分な場合に限る））。			

V. 報告品目等の薬価基準追補収載 (2024年5月21日告示、22日から適用)

〔内 用 薬〕 劇：劇薬、処：処方箋医薬品、生：生物由来製品

分類	医薬品名（会社名）	規格・単位/識別	薬価(円)	規制	備考（成分、薬効）
396	カナグルOD錠100mg (田辺三菱)	100mg 1 T (カナグリフロジンとして) 淡黄褐色素錠 カナグルOD	158.50	処	(有効成分) カナグリフロジン水和物 SGLT2阻害薬。 (効能・効果) 2型糖尿病、2型糖尿病を合併する慢性腎臓病。ただし、末期腎不全又は透析施行中の患者を除く。 ※新剤形（既発売品は、錠100mg）。
119	ジスバルカプセル20mg (田辺三菱)	20mg 1 C (バルベナジンとして)	1,537.50	劇 処	(有効成分) バルベナジントシル酸塩 VMAT2阻害薬。 (効能・効果) 遅発性ジスキネジア。 ※新規格（既発売品は、カプセル40mg）。

〔外 用 薬〕

分類	医薬品名（会社名）	規格・単位	薬価(円)	規制	備考（成分、薬効）
131	アレジオン眼瞼クリーム 0.5%（参天）	0.5% 1 g	1,686.70		（有効成分）エピナスチン塩酸塩 （効能・効果）アレルギー性結膜炎。 ※新剤形（既発売品の外用薬は、点眼液0.05%・LX点眼液0.1%。既発売品の内用薬は、錠10mg・20mg、ドライシロップ1%で、効能・効果が異なる）。

〔注 射 薬〕

分類	医薬品名（会社名）	規格・単位	薬価(円)	規制	備考（成分、薬効）
399	ウステキヌマブBS皮下注 45mgシリンジ「F」 （富士）	45mg 0.5mL 1 筒	147,524	劇 処 生	（有効成分）ウステキヌマブ（遺伝子組換え）[ウステキヌマブ後続1] ヒト型抗ヒトIL-12/23p40モノクローナル抗体。 （効能・効果） 既存治療で効果不十分な尋常性乾癬、乾癬性関節炎。 ※バイオ後続品。
392	スガマデクス静注液200mg シリンジ「ニプロ」 （ニプロ）	200mg 2 mL 1 筒 （スガマデクスとして）	3,023	処	（有効成分）スガマデクスナトリウム 筋弛緩回復薬。 （効能・効果）ロクロニウム臭化物又はベクロニウム臭化物による筋弛緩状態からの回復。 ※新剤形（先発医薬品は、ブリディオ静注200mg・500mg）。キット製品。 ※新しく後発医薬品として収載されたもの。先発医薬品にはシリンジ製剤がなく、新キット製品に該当することから、6月の後発医薬品追補収載より先行して収載。
	スガマデクス静注液200mg シリンジ「F」 （富士）		2,955		
	スガマデクス静注液200mg シリンジ「マルイシ」 （マルイシ）		3,003		
299 449	ゾレア皮下注75mgペン 〃 150mgペン 〃 300mgペン （ノバルティス ファーマ）	75mg 0.5mL 1 キット 150mg 1 mL 1 キット 300mg 2 mL 1 キット	11,927 21,830 40,091	劇 処 生	（有効成分）オマリズマブ（遺伝子組換え） ヒト化抗ヒトIgEモノクローナル抗体。 （効能・効果）気管支喘息（既存治療によっても喘息症状をコントロールできない難治の患者に限る）、季節性アレルギー性鼻炎（既存治療で効果不十分な重症又は最重症患者に限る）、特発性の慢性蕁麻疹（既存治療で効果不十分な患者に限る）。 ※新剤形（既発売品は、シリンジ75mg・150mg、皮下注用150mg）。キット製品。 ※在宅自己注射可能。
241	フォリスチム注300IUカートリッジ 〃 600IUカートリッジ 〃 900IUカートリッジ （オルガノン）	300IU0.36mL 1 筒 600IU0.72mL 1 筒 900IU1.08mL 1 筒	11,410 21,001 30,008		
399	メトジェクト皮下注7.5mgペン 0.15mL 〃 10mgペン0.20mL 〃 12.5mgペン0.25mL 〃 15mgペン0.30mL （日本メダック）	7.5mg 0.15mL 1 キット 10mg 0.2mL 1 キット 12.5mg 0.25mL 1 キット 15mg 0.3mL 1 キット	1,938 2,310 2,652 2,972		（有効成分）メトトレキサート （効能・効果）関節リウマチ。 ※新剤形（既発売品は、シリンジ7.5mg・10mg・12.5mg・15mg）。キット製品。 ※在宅自己注射可能。

Ⅵ. 後発医薬品の薬価基準追補収載 (2024年6月13日告示分)

厚生労働省は令和6年6月13日、後発医薬品の薬価基準追補収載を告示した。収載数は17成分、30規格、67品目で、うち新しく後発医薬品として収載されたのは、1成分、2規格、12品目である(表)。保険適用は6月14日より。

表 初収載の後発医薬品

	薬効分類等	成分名	先発品(メーカー)	後発品の規格単位
注射薬	392 解毒薬	スガマデクスナトリウム	ブリディオナ静注200mg 〃 500mg (MSD)	200mg 2 mL 1 瓶 500mg 5 mL 1 瓶

※スガマデクス静注液200mgシリンジ(後発医薬品)は、新キット製品として5月21日に収載され、すでに発売されている。

収載品目は官報に告示され、官報ホームページにも掲載されている(令和6年6月13日 官報号外第142号 厚生労働省告示第216号 1頁～4頁)。

<https://kanpou.npb.go.jp/20240613/20240613g00142/20240613g001420001f.html>

後発医薬品調剤体制加算の算定要件となっている後発品数量シェアの算定の分母に組み入れられることになる日についての詳細は、厚労省ホームページを参照(<https://www.mhlw.go.jp/topics/2024/04/tp20240401-01.html>)。

薬価基準収載品目リスト及び後発医薬品に関する情報について(令和6年6月14日適用)

目次5. その他(各先発医薬品の後発医薬品の有無に関する情報)

Ⅶ. 公知申請が承認された適応外薬の保険適用

薬事・食品衛生審議会において、下表成分の適応外使用に係る公知申請について事前評価が終了し、薬事承認を待たずに保険適用されることになった。保険適用日は、令和6年4月26日より。

表 適応外使用で保険適用が可能となった医薬品

一般名	製品名(会社名)	効能、用法・用量等
①エルトロンボパゴ オラミン	レボレード錠12.5mg・ 25mg (ノバルティス ファーマ)	慢性特発性血小板減少性紫斑病 成人および1歳以上の小児は、初回投与量12.5mgを1日1回、食事の前後2時間を避けて空腹時に投与。血小板数、症状に応じて適宜増減。また、1日最大投与量は50mgとする。 ※小児使用追加
②ロミプロスチム (遺伝子組換え)	ロミプレート皮下注 250μg調製用 (協和キリン)	慢性特発性血小板減少性紫斑病 成人および1歳以上の小児は、初回投与量1μg/kgを皮下投与。投与開始後、血小板数、症状に応じて投与量を適宜増減し、週1回皮下投与。また、最高投与量は週1回10μg/kgとする。 ※小児使用追加
③リツキシマブ(遺 伝子組換え)	リツキサン点滴静注 100mg・500mg (全薬工業)	既存治療で効果不十分な慢性特発性血小板減少性紫斑病 1回量375mg/m ² を1週間間隔で4回点滴静注。

Ⅷ. 医薬品・医療機器等安全性情報 No.409 (概要)

医薬局2024年4月25日

1. 医療現場での医薬品リスク管理計画 (RMP) の利活用について

医薬品を適正に使用し、リスクを最小化するためには医薬品リスク管理計画 (Risk Management Plan) (以下「RMP」) を利活用することが重要である。RMPは開発の段階から、市販後に収集される医薬品のリスク (副作用等の情報) を整理し、リスクの最小化を図るための活動や情報収集活動を検討・実施するために作成されている。

本稿では、RMP全体の概要に触れた後、医療現場でのRMPの利活用について紹介する。

RMPを利活用することで、承認時に行われた臨床試験等のデータではわからなかったリスク (副作用) が、市販後の使用経験を蓄積していくことにより判明することがある。また、令和6年度調剤報酬改定において、薬局におけるRMPに基づいた薬学的管理が評価されるようになり、医療現場における適切なRMPの利活用が望まれている。

2. カルベジロール及びビソプロロールの「使用上の注意」の改訂について

平成17年に厚生労働省により国立成育医療研究センター内に「妊娠と薬情報センター」(以下「センター」) が設置され、医薬品が母体や胎児に与える影響について最新のエビデンスを収集・評価し、それに基づいて、妊婦あるいは妊娠を希望している女性の相談に応じる業務を実施してきた。

また、平成28年度からはこれまでにセンターに集積された情報の整理・評価を行い、妊産婦等への医薬品投与に関する情報の添付文書への反映を推進する取組を行っている。本取組では、専門家が参加するワーキンググループ (以下「WG」) を設置し、候補医薬品を選定のうえ、これまでの集積情報の整理・評価を行い、当該医薬品の添付文書の改訂案を報告書として取りまとめている。

今般、 β 遮断薬のうち、カルベジロール、ビソプロロールフマル酸及びビソプロロール (以下両成分を合わせて「ビソプロロール」) について、薬事・食品衛生審議会薬事分科会医薬品等安全対策部会安全対策調査会 (以下「安全対策調査会」) における審議を踏まえ、カルベジロール及びビソプロロール (以下「両剤」) の禁忌等に係る記載について見直しを行ったので、その内容を紹介する。

(WGでの検討内容について)

カルベジロールは本態性高血圧症、腎実質性高血圧症、狭心症、虚血性心疾患又は拡張型心筋症に基づく慢性心不全、頻脈性心房細動を効能・効果として本邦で製造販売承認されているが、ラットにおける妊娠前及び妊娠初期投与試験において、臨床用量の約900倍で黄体数の減少及び骨格異常の増加が報告されていること及びヒトにおける妊娠中の投与に関する安全性は確立していないことから、先発医薬品の製造販売承認時より「妊婦又は妊娠している可能性のある女性」への投与が禁忌とされている。

また、ビソプロロールは、本態性高血圧症、狭心症、心室性期外収縮、虚血性心疾患又は拡張型心筋症に基づく慢性心不全、頻脈性心房細動を効能・効果^{*}として本邦で製造販売承認されているが、動物実験で胎児毒性 (致死、発育抑制) 及び新生児毒性 (発育毒性等) が報告されたことから、先発医薬品の製造販売承認時より「妊婦又は妊娠している可能性のある女性」への投与が禁忌とされている。

これに対し、慢性心不全の妊婦で両剤を含む β 遮断薬の医療上のニーズが考えられ、そのニーズは高齢出産の増加、先天性心疾患患者の予後の改善等から高まってきており、その一方で、現行妊婦に投与可能な β 遮断薬 (アテノロール、プロプラノロール、ラベタロール等) には慢性心不全の適応がないこと、また、それ以外の両剤の各適応症についても、国内ガイドラインにおける両剤又は β 遮断薬の臨床的な位置付けを踏まえると、妊婦に対して両剤の医療上のニーズが考えられたことから、WGにより妊産婦等に係る禁忌の適正性が検討された。その結果、両剤ともに、妊婦又は妊娠している可能性のある女性への投与に関しては、「禁忌」の項から削除し、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与する旨の注意喚起を記載することが適切であるとの報告書が取りまとめられた。

※ビソプロロールフマル酸の効能・効果は、本態性高血圧症、狭心症、心室性期外収縮、虚血性心疾患又は拡張型心筋症に基づく慢性心不全、頻脈性心房細動
ビソプロロールの効能・効果は、本態性高血圧症と頻脈性心房細動

(安全対策調査会での検討内容について)

今般、WGでの検討内容及びWG報告書を受けて実施した独立行政法人医薬品医療機器総合機構(PMDA)の調査結果を踏まえ、令和6年3月26日に実施された令和5年度第16回安全対策調査会にて審議を行い、両剤について以下のとおり改訂を行って差し支えないと判断された。

- ・「禁忌」の項から「妊婦又は妊娠している可能性のある女性」を削除し、「妊婦」の項に「治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ、妊婦又は妊娠している可能性のある女性に投与すること」の注意事項を追記する。
- ・上記の注意事項に加え、投与に際して母体及び胎児・新生児の状態を観察し異常が認められた場合には適切な処置を行う旨の注意喚起、文献や副作用報告で報告されている事象の情報提供を行う。

3. 重要な副作用等に関する情報 (1件)

令和6年3月28日、4月9日に改訂を指導した医薬品の使用上の注意のうち重要な副作用等について。

(1) アンデキサネット アルファ (遺伝子組換え) : オンデキサ静注用200mg (アストラゼネカ)

[薬効分類等] その他の血液・体液用薬

(新記載要領)

8. 重要な基本的注意 (新設)

ヘパリン抵抗性を示すことがあるので、ヘパリンによる抗凝固が必要な手術・処置の状況下で本剤を投与するにあたっては、本剤投与の要否を慎重に判断すること。

周術期に本剤を使用し、ヘパリン抵抗性を示す症例が国内外で報告されている。その中には、ヘパリンの抗凝固作用が十分に得られず、人工心肺回路が血栓で閉塞し、重篤な転帰に至った症例も認められる。

10. 相互作用

10.2 併用注意 (新設)

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
未分画ヘパリン ヘパリンナトリウム ヘパリンカルシウム 低分子ヘパリン エノキサパリンナトリウム ダルテパリンナトリウム パルナパリンナトリウム	ヘパリンの抗凝固作用が減弱し、ヘパリン抵抗性を示すことがある。	In vitroデータから、本剤がヘパリン-アンチトロンビンⅢ複合体に作用し、ヘパリンの抗凝固作用を減弱させることが示唆されている。

15. その他の注意

15.1 臨床使用に基づく情報 (削除)

(参考)

医薬品医療機器総合機構における副作用等報告データベースに登録された症例から、副作用名が「ヘパリン抵抗性 (PT)」の症例に加え、本剤とヘパリンが同一症例内で投与されている症例のうち、経過にヘパリン抵抗性の可能性が否定できないエピソードを含む症例で因果関係が否定できないもの。

10例 (うち死亡0例)

企業が推計した過去1年間の推定使用患者数：約3,300人

販売開始：2022年5月

4. 使用上の注意の改訂について (その349)

令和6年3月28日、4月9日に改訂を指導した医薬品等の使用上の注意について。

アンデキサネット アルファ (遺伝子組換え) 他 (4件)

5. 市販直後調査の対象品目一覧 (令和6年3月末日現在) (略)

(参考資料)

「免疫エフェクター細胞関連神経毒性症候群 (ICANS)」について

昨今、造血器悪性腫瘍の治療に用いる医薬品及び再生医療等製品の電子添文において、最新の知見に基づき「免疫エフェクター細胞関連神経毒性症候群 (ICANS)」が注意喚起されているので解説する。

(1) 疾患概念

米国移植細胞治療学会のガイドラインには、免疫エフェクター細胞関連神経毒性症候群 (immune effector cell-associated neurotoxicity syndrome。以下「ICANS」)は、次のように定義されている。

ICANSとは、内在性又は外来性のT細胞又は他の免疫エフェクター細胞が活性化/標的への誘導を受ける結果、中枢神経系に生じる病的プロセスとして特徴づけられる病態である。症状・徴候は進行性であることがあり、失語、意識障害、認知機能低下、筋力低下、けいれん、脳浮腫が含まれる。

(2) 原因

炎症性サイトカインによる血管透過性の亢進、脳血液関門の破綻、脳脊髄液中のサイトカイン増加の結果、脳浮腫に進行する場合があると推定されている。

(3) 診断と管理

ICANSの診断は、臨床所見に基づいており、症状・徴候としては、振戦、昏迷、興奮、けいれん等が挙げられ、重要な所見として、不全失語症、非流暢発語及び書字困難があり、表出性言語障害及び感覚性失語に進行することがある。

観察を十分に行い、異常が認められた場合には、副腎皮質ステロイド等により適切な処置を行う。

IX. 医薬品・医療機器等安全性情報 No.410 (概要)

医薬局2024年6月5日

1. 薬剤により誘発される胃腸炎症候群について

厚生労働省では、令和6年5月8日にアモキシシリン水和物含有製剤（以下「本剤」）の使用上の注意に「薬剤により誘発される胃腸炎症候群」に関する注意喚起の追記を指示する通知を发出した。改訂する根拠は本剤との因果関係が否定できないDrug-induced enterocolitis syndromeの症例報告が複数例集積したことによるものである。

本事象の詳細な発生機序は十分解明されておらず、アレルギー反応を起こすいずれの医薬品でも生じる可能性があると考えられる。医薬品による本事象が疑われる症例を経験した際には、「医薬品・医療機器等安全性情報報告制度」に基づき、医薬品医療機器総合機構に報告いただくか、当該医薬品の製造販売業者に情報提供いただくよう、協力をお願いする。

(Drug-induced enterocolitis syndromeについて)

(1) 疾患概念

Drug-induced enterocolitis syndromeとは、文献によれば薬剤投与の数時間後に発現する胃腸系が関与する非IgE介在性の過敏反応とされている。薬剤投与後に発現する嘔吐等の消化器症状には、IgEが介在する即時型の過敏症が知られているが、drug-induced enterocolitis syndromeでは、薬剤投与から消化器系症状が発現するまでの時間が数時間（多くは1～4時間後）であること、アレルギー性の皮膚症状や呼吸器症状が認められないことが特徴とされており、食物アレルギーの一つである食物蛋白誘発胃腸炎 (Food-protein-induced enterocolitis syndrome : FPIES) に類似した症状を示すと考えられている。

(2) 疫学

Drug-induced enterocolitis syndromeの文献における報告数は限定的である。薬剤投与後の消化器症状が、アナフィラキシーや抗生物質起因性の腸炎と診断されていることも想定され、実際の患者数は報告された症例数よりも多い可能性も考えられるとの文献上の考察がある。また、主に小児で報告されている。

(3) 原因

病態生理学的メカニズムは不明である。なお、薬剤の反応性代謝物または薬剤－タンパク質複合体が、免疫学的反応によって直接的または間接的に消化管上皮に影響を与える可能性があると考えられている。また、本剤以外の医薬品もDrug-induced enterocolitis syndromeの推定原因医薬品として報告されている。

(4) 診断

Drug-induced enterocolitis syndromeの確立した診断基準は存在しない。令和6年5月時点で国内外のガイドラインでDrug-induced enterocolitis syndromeに関する記載のあるものは確認できないが、薬剤の投与から数時間後の繰り返す嘔吐や激しい腹痛、下痢等の臨床症状が診断に関連すると報告されており、脱水症状や、極度の無気力や顔面蒼白、低血圧や低体温を伴う症例も報告されている。また、必ずしも初回投与時に発現していない。

検査所見には好中球数増多が知られており、ほかに血小板数増多やメトヘモグロビンレベルの上昇も報告されている。急性期のCT検査にて、腸管の浮腫の所見も報告されている。診断の確定には、薬剤誘発試験（チャレンジテスト）が有用だが、その実施には細心の注意が必要とされる。

(5) 治療

Drug-induced enterocolitis syndromeの治療は、消化器症状（嘔吐、腹痛等）の緩和と脱水症状に対する輸液が主体である。

2. 使用上の注意の改訂について（その350）

令和6年5月8日に改訂を指導した医薬品等の使用上の注意について。
リバーロキサバン 他（4件）

3. 市販直後調査の対象品目一覧（令和6年4月末日現在）（略）

X. 定期購読雑誌の紹介

薬事情報センターで定期購読している医薬関連雑誌のうち、以下の雑誌に掲載されている特集の表題をご紹介します。

雑誌名		特集の表題
月刊薬事	2024年5月号 Vol.66 No.7 2024	基本とコツを押さえた イマドキの緩和ケア ■ 特集にあたって ■ 総論 ○ 緩和ケアと薬物療法 ■ Up to Date! がん疼痛治療薬の使い方の基本とコツ ○ オピオイド鎮痛薬の特徴 ○ オピオイド鎮痛薬を使いこなす ○ 非オピオイド鎮痛薬の特徴、使い方 ○ 鎮痛補助薬の特徴、使い方 ■ がん患者の症状緩和の基本とコツ ○ 悪心・嘔吐 ○ 便秘 ○ 食欲不振、悪液質 ○ 倦怠感 ○ 腹部膨満感、腹水、消化管閉塞 ○ 睡眠障害 ○ せん妄 ○ 咳嗽/呼吸困難、死前喘鳴 ■ ここが知りたい! 緩和ケアQ&A ○ 注意が必要な患者（肝機能障害時、腎機能障害時）へのオピオイド鎮痛薬の投与はどう考える？ ○ 骨転移痛患者への対応は？ ○ がんサバイバーの痛みに対するオピオイド鎮痛薬の注意点は？

雑誌名	特集の表題
月刊薬事	2024年5月号 Vol.66 No.7 2024 ○ 緩和ケアでよく使う漢方薬は？ ○ 難治性の痛みへの治療選択は？ ○ 終末期の輸液管理はどうする？ ■ 心不全の緩和ケアの実践 ○ 末期心不全への緩和ケアの基本 ■ 小児の緩和ケアの実践 ○ こどもたちに緩和ケアを届けるために大切にしたいこと こどもを主語にした緩和ケアの実践
	2024年6月号 Vol.66 No.8 2024 “何となく”では終わらせない薬剤選択 病棟での疼痛マネジメント ■ 特集にあたって ■ 総論 ○ 患者から「痛い」と訴えがあったなら 痛みの分類から考える適切なアプローチ ○ 病棟でよく出合う疼痛への対応 ■ 慢性的な痛みと薬の使い方 ○ 慢性頭痛 ○ 神経障害性疼痛 ○ 胃痛・腹痛 ○ 腰痛、肩・膝などの関節痛、首の痛み ■ 悩ましい場面での痛みと薬の使い方 ○ 術後期の疼痛治療 ○ 処置時の疼痛治療 ○ 認知症患者への疼痛治療 ■ 疾患特有の痛みと薬の使い方 ○ 三叉神経痛 ○ リウマチ性疾患（関節リウマチ・脊椎関節炎・その他の膠原病） ○ 帯状疱疹 ○ 骨転移による痛みに対する集学的アプローチ ■ トレンドトピックス ○ 術後疼痛管理チーム加算とその役割 ○ 腎障害患者へのNSAIDs、アセトアミノフェンの考え方 ○ 薬物乱用頭痛 頭痛外来での支援
薬局	2024年5月号 Vol.75 No.6 2024 腸内細菌となかよく 生きて腸までとどく薬学管理 ■ 特集にあたって ■ 薬剤業務に生きてはたらく！ 腸内細菌Q&A ① 腸内細菌とヒトとのかかわり篇 ② プロバイオティクス・プレバイオティクスのしくみ篇 ③ 整腸薬の使いかた篇 ④ 食品・食事のすすめ篇 ■ 腸内細菌の生態、人体とのかかわりを探る！ ① 腸内細菌の暮らしをひもとく ② 腸内細菌の代謝産物のはたらき ③ 腸内細菌の免疫系へのかかわり ④ 腸内細菌の影響を受けるくすり－腸内細菌と「くすりのかたち」の関係－ ⑤ コラム 免疫チェックポイント阻害薬と腸内細菌 ⑥ 皮膚常在細菌叢のはなし ⑦ 口腔常在細菌叢のはなし ■ 腸内細菌叢のバランスが変化するとき、くすりと治療 ① 腸内細菌叢に最も影響を与えるのはくすりです、影響度の高いくすりとは？ ② 薬剤師のためのClostridioides difficile感染症（CDI）のはなし ③ 腸内細菌と経腸・静脈栄養－救急・集中治療領域における腸内細菌叢と腸管内治療－

雑誌名		特集の表題
薬局	2024年5月号 Vol.75 No.6 2024	■ 腸内細菌の知識を活かして、患者の健康を支える！ ① 整腸薬・プロバイオティクス食品を活用する ② 腸内環境を整える食事のはなし ③ 腸内細菌叢検査のこれから
	2024年6月号 Vol.75 No.7 2024	加算算定までつなげる！ 外来がん治療の「病－薬連携」 ■ 特集にあたって ■ 外来がん薬物療法を支える！ 薬剤師業務の「2本柱」 ■ 「連携充実加算－特定薬剤管理指導加算2」からみた薬剤師業務の未来予想図 ① 病－薬連携の整備－ツ・ナ・ガ・ロ・ウのサイン－ ② 病院発信情報を活用した患者フォローアップ－テ・ヲ・ム・ス・ブのサイン－ ■ 第一の薬剤師業務の柱－「アドヒアランス評価」の基本 ① 経口抗がん薬の初回服薬指導で留意すること ② 外来で起きる服薬エラーの探り方 ③ アドヒアランス評価の意外な落とし穴 ■ 第二の薬剤師業務の柱－「副作用評価→支持療法薬・用量変更の提案」の基本 ① 「副作用重症度評価」ははじめの一步 ①グレード0・1を重篤化させない ② 「副作用重症度評価」ははじめの一步 ②休薬？ 継続？ グレード2を判定する ③ 抗がん薬の減量を考慮すべき状態と用量変更のポイント ④ 支持療法薬でサポートする副作用と薬剤選択のポイント ⑤ 支持療法薬の必要性を判断するタイミングとその止め方 ■ 加算算定につなげる文書の作り方・書き方・使い方 ① がん薬物療法の情報提供書の作成方法と保険薬局での活用方法 ② 保険薬局におけるがん薬物療法のトレーシングレポートの作成方法 ■ 外来頻用レジメンの「病－薬連携管理」－加算算定までつながった実例集 ① S-1による流涙－治療レジメン：胃がんSOX療法－ ② 分子標的薬中止による低血圧－治療レジメン：ベバシズマブ＋CAPOX療法－ ③ 高度催吐性リスクレジメンの悪心・嘔吐および支持療法による副作用－治療レジメン：ddEC療法－ ④ 治療完遂へのアプローチ：発熱性好中球減少症対策－治療レジメン：TC療法－ ⑤ サイクリン依存性キナーゼ4/6阻害薬による静脈血栓塞栓症－治療レジメン：アベマシクリブ＋レトロゾール併用療法－ ⑥ 相互作用と好中球減少対策－治療レジメン：パルボシクリブ＋レトロゾール療法－ ⑦ 食欲不振・味覚障害による血糖変動－治療レジメン：GnP療法－
診断と治療	2024年5月号 Vol.112 No.5 2024	日常診療で診るCKD 乗り遅れないための最新情報 ■ ねらい ■ CKDの基本的概念 ○ CKD診断の臨床的意義と専門医紹介基準 ■ CKDの原疾患 ○ 高血圧・CVD（心不全）とCKD ○ 高血圧性腎硬化症・腎動脈狭窄症

雑誌名	特集の表題
2024年5月号 Vol.112 No.5 2024	○ 糖尿病性腎臓病 ○ 高尿酸血症とCKD ○ 脂質異常症・メタボリックシンドロームによるCKD ○ 日常で診る腎炎：IgA腎症、感染症関連糸球体腎炎(COVID-19も含む) ■ 進行したCKDとESKD ○ 腎性貧血 ○ CKD-MBD ○ 透析導入とCKM ○ 高齢化社会における在宅医療としての腹膜透析 ○ 腎移植－近年の進歩・日本の現状と課題について－ ■ CKDの予防医療 ○ 薬剤性腎障害とその予防 ○ CKDの食事療法・生活栄養指導 ○ 腎臓リハビリテーション ■ 最新のトピックス ○ 腎臓イメージングに関する最新情報 ○ 腎臓病バイオバンクの紹介と遺伝子診療の現状 ○ 腎不全治療の未来－腎臓再生医療の新たな展望と課題－
2024年6月号 Vol.112 No.6 2024	大きく変貌したリハビリテーション医療 超高齢・重複障害に対する医療の切り札 ■ ねらい ■ 総論 ○ リハビリテーションの大変貌 内科でも活かせるTIPS ■ 各論：領域別のリハビリテーション医療 ○ 脳血管障害急性期のリハビリテーション医療 ○ 脳血管障害回復期のリハビリテーション医療 ○ 高次脳機能障害のリハビリテーション医療 ○ 認知症のリハビリテーション医療 ○ てんかんリハビリテーション ○ 摂食嚥下障害のリハビリテーション医療 ○ 心臓リハビリテーション－心筋梗塞・心不全など－ ○ 呼吸リハビリテーション－慢性閉塞性肺疾患・間質性肺炎など－ ○ 腎臓リハビリテーション ○ 肝臓リハビリテーション ○ 重度肥満症に対する減量・代謝改善手術と運動療法の役割 ○ 悪性腫瘍のリハビリテーション医療 ○ 腰痛・膝痛のリハビリテーション医療 ○ フットケアとリハビリテーション医療 ○ 転倒・介護予防のリハビリテーション医療 ■ 最新情報 ○ ロボットのリハビリテーション医療への導入 ○ ICTのリハビリテーション医療への導入－遠隔心臓リハビリテーションを中心に－ ○ デジタルセラピューティクス (DTx) のリハビリテーション医療への導入 ○ COVID-19後遺症患者へのリハビリテーション医療
2024年5月号 Vol.30 No.6 2024	疑問を解決！挑戦！薬物動態Quiz ■ 特集にあたって ■ 基礎・成人編 01 腎機能評価に関する検査値の特徴と活かし方 02 肝機能評価に関する検査値の特徴と活かし方

診断と治療

調剤と情報

(キリトリ線)

雑誌名		特集の表題
調剤と情報	2024年5月号 Vol.30 No.6 2024	03 極端に体格が違う場合に投与量を考慮する薬物 04 低アルブミン値や浮腫を認める患者での血中濃度が変化する可能性 ■ 相互作用編 05 代謝酵素の誘導、阻害作用に影響する期間 06 飲食物と薬物の組み合わせの影響 ■ 子ども編 07 体重あたりの投与量が新生児・小児の方が多い薬物 08 小児や乳幼児に特徴的な吸収や排泄が理由で薬物動態に影響する薬物 ■ 妊婦・授乳婦編 09 妊婦への有益性投与の考え方 10 授乳中患者の服薬継続可否
	2024年6月号 Vol.30 No.8 2024	大変革時代の到来 薬局・薬剤師の新しい価値を創る ■ 特集にあたって 01 社会のニーズの変化と薬局・薬剤師：多様で激変するニーズへの対応 ■ 薬局の価値を創る3つの視点①：地域医療・介護福祉への貢献 02 予防・未病領域が新たな価値を創る「かかる前薬局・薬剤師」 03 僻地の薬局の役割から考えるこれからの薬局の価値 04 地域の健康寿命を延ばす健康体操教室－薬局の横の健康サポートセンター ■ 薬局の価値を創る3つの視点②：薬局施設を利用した地域コミュニティ創りへの貢献 05 地域の社会課題の解決の一例－病児保育室×薬局 06 ふらっと立ち寄れる場所に－コミュニティカウンターから広がる健康HOTステーション ■ 薬局の価値を創る3つの視点③：新しい時代に則した薬局機能を高める業務開拓 07 ドラッグストアを身近に感じてもらうPTPシートのリサイクル 08 心不全パンデミックで発揮される薬剤師の価値と可能性 09 患者ファーストを考えるとときに何をする？！ ■ COLUMN ○ 薬剤師がオーバードーズ問題のゲートキーパーに
週刊日本医事新報	No.5218 2024/4/27	老衰の臨床－診断・ケア、死亡診断書はどうする
	No.5219 2024/5/4	クリニックから発信する小児アトピー性皮膚炎治療
	No.5220 2024/5/11	一般外来で診る小児心身症－専門医紹介までに行えること
	No.5221 2024/5/18	当直医のための心肺蘇生術up date
	No.5222 2024/5/25	知っておきたい腎臓リハビリテーション－透析患者における運動療法
	No.5223 2024/6/1	かかりつけ医が見逃したくない軽度認知症障害－薬剤性MCIを中心に
	No.5224 2024/6/8	慢性腎臓病（CKD）に使える漢方
	No.5225 2024/6/15	皆さんの身体活動・筋力トレーニングは足りている！？
	No.5226 2024/6/22	慢性下痢症へのアプローチ－ガイドラインを超えて

福岡県薬剤師会 公式アプリのご案内！

公益社団法人福岡県薬剤師会の会員向け公式アプリをリリースしました。

このアプリは地区薬剤師会・福岡県薬剤師会の会員証としてご利用いただけます。

また、発出文書・審査ニュース・研修会の開催案内等を通知にて随時お知らせいたします。

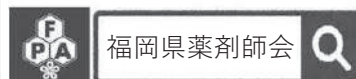
ダウンロード後、ぜひご利用ください。

★本会からのお知らせ
(発出文書や審査ニュース)を随時受け取れます！

★会員証になります
★PECS (研修単位) のQR
コードをアップロードすると研修会時に便利！



／今すぐダウンロード／



薬学研究よもやま話 第67回

新規発症糖尿病および血糖値悪化の診断に対するスタチン治療の影響：
個々の参加者データのメタ解析

国際医療福祉大学福岡薬学部 西村 信弘

はじめに

動脈硬化性心血管疾患は世界中で死亡原因の上位を占めており、LDLコレステロールは主要な原因リスク因子である。また、糖尿病は動脈硬化性心血管疾患のリスクを大幅に高めることも報告されている。一方、HMG Co-A還元酵素阻害剤（スタチン）は、LDLコレステロールが1 mmol/L減少するごとに心筋梗塞と虚血性脳卒中の発症率を約4分の1に減少させ、糖尿病の有無にかかわらず一貫した効果を示す。スタチンには確認されている副作用がほとんどないが、スタチン治療の大規模ランダム化比較試験 報告書の要約データのメタ解析では、標準的なスタチン治療ではプラセボや通常治療と比較して新規糖尿病発症リスクが約10%増加し、より強力なスタチン治療ではさらに10%の相対的リスク増加が示された。しかし、要約データのメタ解析に利用できる情報が限られているため、スタチン治療の効果の評価は、スタチン治療が新たな糖尿病を発症するリスクに与える影響は不完全と言わざるを得ない。特に、スタチンが原因で糖尿病を発症するリスクが特に高いのはどのようなタイプの人か、治療開始後に過剰なリスクが生じるタイミング、または糖尿病が判明している人々の血糖コントロールに対するスタチン治療の効果についてはほとんどわかっていない。

この論文¹⁾の著者らは、これらの疑問や関連する疑問に対する回答を提供するために、コレステロール治療試験（CTT）コラボレーションに参加しているスタチン治療の大規模長期二重盲検ランダム化比較試験で記録されたすべての糖尿病関連の有害事象、糖尿病の治療、および血糖値の測定値に関する個々の参加者データを分析し報告している。

研究方法

公表されたCTT共同研究プロトコル²⁾に記載されたプロスペクティブ研究に参加したスタチン治療のランダム化比較試験から個々の参加者データのメタ解析を実施した。少なくとも2年間の予定期間があり、少なくとも1,000人の参加者がいるスタチン治療のすべての二重盲検ランダム化比較試験が、このメタ解析の対象データとなった。

記録された糖尿病関連の有害事象、治療法、および血糖値の測定値はすべて、適格な試験から収集された。メタ解析では、スタチン治療によると推定される新規糖尿病発症（糖尿病関連の有害事象、新しい血糖降下薬の使用、血糖値、またはHbA1c値で定義）、および糖尿病患者の血糖悪化（血糖コントロールの合併症、血糖降下薬の使用増加、またはHbA1cの0.5%以上の上昇で定義）に与える影響を評価した。これらの影響に関する標準的なメタ解析は、事前に指定されたプロトコルに従って実施された。

各試験で治療群に割り当てられた参加者における各アウトカムの初回発生について、ログランクの観測値から期待値を引いた統計量（o - e）とその分散（v）を計算した。

事前に指定されたサブグループ解析には、特定のベースライン参加者特性、治療年、および異なるスタチン治療または強度による解析が含まれた。log RRの異質性（または傾向）に関する標準的なカイ二乗検定を実施し、任意のサブグループでの効果がすべての参加者に見られる全体的な効果と大幅に異なるかどうかを評価した。探索的解析では、1年後の試験固有の絶対LDLコレステロール濃度差で各試験を重み付けした場合の効果を調べた。全体のRRは95%CIで報告されているが、その他のすべてのRR（サブグループ解析など）は、多重比較を可能にするために99%CIで報告されている。

結果

CTTコラボレーションに参加した試験のうち、19件の試験ではスタチンとプラセボを比較し（参加者123,940人、糖尿病患者25,701人 [21%]、追跡期間中央値4.3年）、4件の試験ではより強力なスタチン治療とそれほど強力でないスタチン治療を比較した（参加者30,724人、糖尿病患者5,340人 [17%]、追跡期間中央値4.9年）。プラセボと比較して、低強度または中強度スタチン治療への割り当てでは、新規発症糖尿病の10%増加（スタチン投与群39,179人中2,420人 [年間1.3%] vs. プラセボ投与群39,266人中2,214人 [年間1.2%]、割合比 [RR] 1.10、95%信頼区間1.04~1.16）が認められ、高強度スタチン治療への割り当てでは36%増加（スタチン投与群9,935人中1,221人 [年間4.8%] vs. プラセボ投与群9,859人中905人 [年間3.5%]、1.36、1.25~1.48）が認められた。各試験において、プラセボ投与に割り当てられた参加者の新規糖尿病発症率は、少なくとも1回の追跡HbA1c測定を受けた参加者の割合に大きく依存しており、この割合は低強度試験や中強度試験よりも高強度試験の方がはるかに高かった。その結果、2種類の試験における影響の大きさの主な決定要因は、スタチン治療に関連するリスクの増加ではなく、HbA1c測定の頻度であった。

ベースラインで糖尿病のない参加者では、低強度または中強度スタチン（95%CI 0.03~0.05）と高強度スタチン（0.02~0.06）の両方で平均血糖値が0.04mmol/L上昇し、平均HbA1cは低強度または中強度スタチンで0.06%（0.00~0.12）、高強度スタチンで0.08%（0.07~0.09）上昇した（表1）。

新規糖尿病発症のプラセボイベント率は、高強度スタチン2つの試（プラセボに割り当てられた参加者9,859人中905人 [年間3.5%]）の方が、低強度または中強度スタチンの14の試験（年間1.2%）よりも大幅に高く、この差は糖尿病の生化学的診断によるものであった（高強度スタチンではプラセボに割り当てられた参加者 9,859人中788人 [年間3.0%] に対し、低強度または中強度スタチンではプラセボに割り当てられた参加者39,266人中1,369人 [年間0.8%]）。

異なる強度のスタチン治療における新規糖尿病発症リスクに関するさらなる情報は、より強度の高いスタチン治療とより強度の低いスタチン治療を比較した4件の試験から得られた。強度の低いスタチン治療と比較して、強度の高いスタチン治療では新規糖尿病発症が 10% 比例して増加し（RR 1.10、95% CI 1.02-1.18）、これは絶対的な年間超過 0.22%（95% CI 0.05-0.41）に相当した。高強度スタチンと低強度スタチン、および低強度または中強度スタチンとプラセボを比較した試験を組み合わせることによって、間接的に導かれた高強度スタチンの相対リスクは1.27（95% CI 1.11-1.44）であり、これは高強度スタチンとプラセボを直接比較して得られた推定値（表1）と類似していた。



表1 スタチンの強度による新規糖尿病発症に対するスタチンとプラセボの効果

	イベント (年間%)		観測値ー予測値		比率(CI:95%信頼区間)
	スタチン	プラセボ	観測値と予測値 の差	観測値と予測値 の差の分散	
低強度または中強度スタチン	(n=39179)	(n=39266)			
糖尿病関連の有害事象 併用薬から糖尿病と診断	1224 (0.7)	1153 (0.6)	32.3	594.1	1.06 (99% CI 0.95-1.17)
併用薬から糖尿病と診断	764 (0.4)	680 (0.4)	40.2	357	1.06 (99% CI 0.95-1.17)
小計: 糖尿病関連の有害事象および併用薬	1523 (0.8)	1396 (0.8)	60.3	728.6	1.09 (95% CI 1.01-1.17)
生化学的に判定された糖尿病	1497 (0.8)	1369 (0.8)	67.7	715.8	1.10(99% CI 1.00~1.21)
新たに発症した糖尿病	2420 (1.3)	2214 (1.2)	106.8	1156.8	1.10(95% CI 1.04~1.16)
高強度スタチン	(n=9935)	(n=9859)			
糖尿病関連の有害事象	246 (0.9)	174 (0.7)	37	105	1.42(99% CI 1.11~1.83)
併用薬から糖尿病と診断	198 (0.8)	159 (0.6)	20.1	89.2	1.25 (99% CI 0.95-1.64)
小計: 糖尿病関連の有害事象および併用薬	297 (1.1)	229 (0.9)	35.1	131.5	1.31(95% CI 1.10~1.55)
生化学的に判定された糖尿病	1078(4.1)	788 (3.0)	149.3	465.7	1.38 (99% CI 1.22-1.55)
新たに発症した糖尿病	1221 (4.8)	905 (3.5)	163.9	530.8	1.36 (95% CI 1.25-1.48)

新規発症糖尿病の転帰について、低強度または中強度のレジメンと高強度のレジメン間の異質性を検定した (p<0.0001)。

糖尿病リスクスコアの血糖値に、ベースラインの年齢、性別、BMI、トリグリセリド、eGFR、HDLコレステロールを加えたところ、上位4分の1の過剰症例の割合はわずかに増加して67%になった(表1)。

ベースラインの血糖測定値がある人のうち、新規発症糖尿病症例の約62%は、すでにベースライン分布の上4分の1に入っていた参加者であった。新規発症糖尿病に対するスタチン治療の相対的効果は、さまざまなタイプの参加者間でも、時間の経過とともに同様であった。ベースラインで糖尿病患者の場合、低強度または中強度のスタチンに割り当てられた被験者は、プラセボと比較して血糖値の悪化が10%相対的に増加した。また、高強度試験では、このグループに割り当てられた被験者は、血糖値の悪化が24%相対的に増加した(表2)。

表2 スタチンの強度による血糖悪化に対するスタチンとプラセボの効果

	イベント (年間%)		観測値ー予測値		比率(CI:95%信頼区間)
	スタチン	プラセボ	観測値と予測値 の差	観測値と予測値 の差の分散	
低強度または中強度スタチン	(n=12109)	(n=11941)			
ケトーシスまたは血糖コントロールの合併症	308 (0.6)	299 (0.6)	2.2	151.7	1.01 (99% CI 0.82-1.25)
HbA1cの悪化	2732(6.4)	2484 (5.9)	181.8	1284.2	1.15 (99% CI 1.07-1.24)
糖尿病の併用薬の増量	4081 (9.3)	3924 (9.0)	100.9	1680.4	1.06 (99% CI 1.00-1.13)
血糖値の悪化	6224 (16.3)	5902(15.4)	252.5	2737.5	1.10(95% CI 1.06~1.14)
高強度スタチン	(n=805)	(n=846)			
ケトーシスまたは血糖コントロールの合併症	7 (0.3)	5 (0.2)	1.1	3	1.42(99%CI 0.32~6.30)
HbA1cの悪化	108 (3.9)	78 (2.7)	20.2	45.8	1.55 (99% CI 1.06-2.27)
糖尿病の併用薬の増量	254 (11.9)	231 (10.0)	20.5	120.8	1.18 (99% CI 0.94-1.50)
血糖値の悪化	338 (16.0)	295 (12.8)	33.3	157.2	1.24 (95% CI 1.06-1.44)

低強度または中強度のレジメンと高強度のレジメン間の血糖悪化の結果に対する影響を検定した(p=0.15)。

考察

このメタ解析は、スタチン治療が糖尿病に及ぼす悪影響についての理解を深めるものと考えられる。本研究結果から、スタチン治療は用量依存的に糖尿病の新規診断を中程度に増加させること、新規発症糖尿病の過剰のほとんどはすでに糖尿病リスクが高い人（血漿血糖マーカーが糖尿病の診断閾値に近い人）に発生していること、そしてこれらの人の新規発症糖尿病はスタチンによる血糖マーカー（血漿グルコースおよびHbA1c）のわずかな増加によって説明できる可能性が高いことが示された。糖尿病が判明している人の血糖コントロール悪化に対する相対的影響は、新規発症糖尿病の場合とほぼ同様であった。

JUPITER試験³⁾では、アトルバスタチンは、糖尿病のない人と糖尿病のある人の両方で、治療開始後数か月以内に血糖値がわずかに上昇することが報告されている。集団全体での血糖値の小さな変化は、分布の末端近くの診断閾値を超える集団の割合に大きな相対的影響を及ぼす可能性がある。これは、血糖値の変化は小さいが、糖尿病のリスクの相対的变化が中程度に大きい他の薬剤によって証明されている。例えば、糖尿病予防プログラムの試験では、メトホルミンの投与によりHbA1cが約0.1%減少し、糖尿病のリスクも31%減少した。

高強度スタチン試験では、介入群とプラセボ群の両方で、低強度または中強度スタチン試験よりも新規糖尿病発症率が大幅に高かった。生化学的に測定された糖尿病発症率は、介入群では年間3.0%であった。プラセボ群では、高強度スタチンでは0.1%、低強度または中強度スタチンでは0.8%であったのに対し、同じ試験群のプラセボ群における糖尿病関連の有害事象の報告と血糖降下剤の使用によって判定された糖尿病率は同様であった。

新規糖尿病発症のRRは、時間の経過とともに有意に変化しなかった。この結果の理由は、追跡調査の年が進むごとに、加齢に伴う血糖値の上昇により糖尿病の診断閾値を超えるリスクのある人々のグループが新たに現れ、スタチンを服用している人はその可能性がわずかに高くなるためだと考えられる。対照的に、ベースラインで糖尿病と診断されていた人では、スタチンによる早期の血糖値悪化は長期的には持続していなかった。これは、このような人では血糖コントロールが通常監視され、管理される可能性が高いためと考えられる。

これまでの科学論文では、スタチン治療による糖尿病リスクの増加は、体重増加が糖尿病リスクの増加に一部起因している可能性が示唆されている。いくつかの試験とメタ分析のデータから、体重と糖尿病の関連性が示唆されている。解析結果をみると、通常の治療と比較して、平均体重減少2.45kg（95%CI-3.56～-1.33）は、3年後の2型糖尿病への進行が37%（0.51～0.79）減少したと関連していた。解析で糖尿病のない参加者に観察されたスタチン治療による体重増加（最終測定で0.30kg）は、これらの研究よりもはるかに小さかった。したがって、体重のこのような小さな変化が、より多くの糖尿病の原因を説明するとは考えにくい。

これまでに報告された試験の結果に基づくスタチン治療による心血管系への利点と糖尿病のリスクの比較では、この試験が一見健康な人々（高脂血症はないが、高感度CRP検査でCRP濃度が上昇している）を対象とした一次予防の設定で実施されたにもかかわらず、ロスバスタチンの心血管系への利点が新規発症糖尿病のリスクを大幅に上回るという結論が以前に下されていた。注目すべきことに、スタチン治療の血管系への利点は、血中脂質と血糖に対するスタチンの総合的な効果を表しており、そのため、血糖値のわずかな上昇（または、実際には他のメカニズムによ

研修

るもの)から生じる可能性があるスタチンの心血管系リスクに対する理論的な悪影響は、これらの試験でスタチン治療に見られる心血管系リスクの全体的な低下にすでに考慮されている。さらに、将来的に新たな主要血管イベントが発生するリスクは、糖尿病の診断後よりも主要血管イベント後のほうが有意に高くなる。長期的な有害事象データがないことと、一貫した詳細な診断情報(網膜写真や微量アルブミン尿またはタンパク尿の測定値など)がないことの両方から、分析では糖尿病の臨床的に重要な微小血管合併症を評価することはできなかった。

本研究結果は、臨床診療にいくつかの意味を持つと考えられる。第一に、スタチン治療に起因する糖尿病の新規診断の大部分は、すでに糖尿病の生化学的診断閾値に近い人々に発生することが明らかになった。本研究では、スタチン治療に起因する新規発症糖尿病症例の約62%は、血糖分布の上位4分の1に属する個人に発生し、血糖に他のリスク要因を加えても、スタチン治療に起因する症例の割合は、血糖単独の場合よりもわずかに増加した(約67%)だけであった。本研究結果はまた、スタチン治療が個人内の血糖測定値に与える影響は小さい(すなわち、個人内変動と検査室分析変動を合わせた変動よりもかなり小さい)ため、スタチン治療開始後にスタチン開始前の値と比較する目的でグルコース濃度とHbA1c値を日常的に測定しても、臨床的利益はほとんどない可能性が高いことを示唆している。しかし、糖尿病および関連する危険因子の検査は引き続き受け、現在の臨床ガイドラインに従って血糖コントロールを監視する必要がある。

本研究は、さまざまなスタチン治療が糖尿病の新規診断のリスクに与える影響に重点を置いているが、いくつかの限界もある。これらの限界の中で最も重要なのは、含まれる試験のほとんどが、主にスタチン治療が糖尿病に及ぼす影響の仮説を検証するように設計されていなかったことである。また、糖尿病でない人の血糖値の測定に関するデータが不足していることも結果に影響を与えと考えられる。参加者が絶食しなかった場合、空腹時血糖値の測定から生じた症例のイベント率は過大評価された可能性があるが、実薬群とプラセボ群の絶対差は実質的に偏らず、生化学的に判定された糖尿病の症例を除外しても結果に大きな影響はなかった。

結論

以上より、糖尿病のない人の場合、スタチン治療は、血糖値のごくわずかな上昇を誘発することで、用量依存的に糖尿病の診断率を高めることが示唆された。スタチン治療により糖尿病の診断閾値を超えるリスクが最も高いのは、治療前の血糖コントロールが閾値に近い場合であった。これらの結果の直接的な臨床的影響を考慮すると、スタチン治療による血糖値のわずかな変化から生じる糖尿病関連のリスクは、主要な血管イベントに対するスタチンの利点によって大幅に上回ると結論づけられる。

参考文献

1. Cholesterol Treatment Trialists' (CTT) Collaboration. Electronic address: ctt@ndph.ox.ac.uk, et al. Effects of statin therapy on diagnoses of new-onset diabetes and worsening glycaemia in large-scale randomized blinded statin trials: an individual participant data meta-analysis. Lancet Diabetes Endocrinol. 2024 May ; 12(5) : 306-319.
2. Cholesterol Treatment Trialists' (CTT) Collaboration. Protocol for analyses of adverse event data from randomized controlled trials of statin therapy. Am Heart J 2016 ; 176 : 63-69.
3. Ridker PM, Danielson E, Fonseca FA, et al. Rosuvastatin to prevent vascular events in men and women with elevated C-reactive protein. N Engl J Med 2008 ; 359 : 2195-207.

令和6年度スタッフのための薬局業務研修会

薬局ビジョン推進委員会 理事 連石 信

5月11日(土)「スタッフのための薬局業務研修会」をハイブリッドで開催した。土曜日の午後にも関わらず現地7人、Web522人と、多くの薬局スタッフが参加した。本研修会は、平成31年4月2日に厚生労働省 医薬・生活衛生局より発出された、いわゆる「0402通知」において、薬剤師が調剤に最終的な責任を有するということを前提として、薬剤師以外の者に実施させることが可能な業務の基本的な考え方が整理され、当該業務を実施する薬剤師以外の者に対し、薬事衛生上必要な研修の実施など、その他必要な措置を講じることとされ、上記通知への対応を目的としての開催である。

初めに、大場崇委員が「0402通知 調剤業務のあり方について」「倫理・関係法規」と題し、各薬局で薬剤師以外が携わることができる業務、できない業務の内容を、例を踏まえ説明した。それらを明記した業務手順書の作成が必要であり、自局で手順書の確認をするように話した。また医療に係る倫理について、守秘義務や個人情報保護について医療従事者として自覚を持ち、日頃から十分注意が必要であると話した。次に、小塚訓靖委員がリフィル処方箋、電子処方箋、マイナ保険証について、それぞれの取り扱い方法や注意点について説明した。続いて、田中聖委員が「医療安全・医薬品の取り扱い」と題し、医薬品販売のルールや、医薬品の管理について説明した。次に、高橋俊輔理事が「リスクマネジメントー医療従事者として気をつけることー」と題し講演した。間違いを起こすメカニズムを理解し、人はミスを起こすことを前提に、間違いを発生させない仕組みや、被害を最小限にするための仕組みについて説明した。最後に、藤浦大介理事が「準備行為の基本的ルール」をテーマに、処方医薬品の記載表示の解説や、特に注意しなければならない医薬品、名称や規格類似により取り間違えやすい医薬品について写真スライドを用いて具体的に分かりやすく説明した。



会場の参加者

本研修は年に1度、薬剤師が行う対人業務の質向上、充実を図るために、スタッフが対物業務の一部を担うことができるための研修会として、基本的な内容と新しい情報を含めた構成で開催している。薬局の職員が互いに協力することで地域住民に頼りにされ、愛される薬局づくりの一翼を担えればと思う。

本研修会は次年度も開催予定であるので、ぜひ多くのスタッフに参加いただきたい。

「学会発表スキルアップセミナー」 －事例報告・症例報告にチャレンジ！－

学術委員会 委員 杉本 奈緒美

5月19日(日)福岡県薬剤師会館大ホールにて「事例報告・症例報告にチャレンジ！」をテーマに学会スキルアップセミナーが開催した。今年度は前半で2題の講演が行われ、後半はグループワークを行い、後に発表、討議、質疑応答の順でセミナーは進められた。

講演1では、当会 小林大介理事が「事例報告、症例報告を行うノウハウ」と題し講演した。学会発表は、研究発表だけでなく事例や症例を社会に発信することで、関連分野の発展に貢献できると、その意義を説明した。また、症例報告の際の倫理審査の必要性、配慮すべき問題点など、発表内容の決定に至るまでの作業などを話し、次に、抄録作成のポイント、演題登録までの流れを説明した。実際に発表する場合のパワーポイント、ポスター作製の注意点などにも触れた。



講師の小林大介理事と野口時恵氏

講演2では、福岡市薬剤師会学術委員 野口時恵氏が、「学会での発表事例－症例報告と臨床研究・倫理審査－」と題し講演した。昨年度九州山口薬学大会および福岡県薬剤師会学術大会で発表した症例報告をもとに、日常業務を行う上で、生じた疑問に対し、症例、研究という形で発表に至るまでの経緯を話した。まずは発表題材に関して倫理審査が必要かどうかの検証を行い、必要でないと判断されたことを受け、テーマを決め研究計画書を作成し発表準備に入った経緯を説明し、その過程において研究で苦労したこと、困ったこと、ありがたかったこと、工夫したことなども話した。患者とのやり取りの中での素朴な疑問も研究材料になることを示した内容で、参加者の発表への意識向上につながる話であった。

後半のグループワークでは「事例や症例を学会発表するまでブラッシュアップするために必要なこと」を学ぶために、当会 西村信弘常務理事がファシリテーターとなり、学会発表に至る症例を説明し、グループ内で話し合いながら「発表演題名」「演者」「目的」または「背景」「症例」「経過」「結果・考察」「結論」にそった抄録の作成を行った。各グループで提示された症例をもとに演題名を決め、そこから症例内容の検討が行われ、目的や背景に目を向けることで「経過」や「結果」をどうまとめるか等の作業を行い、グループ毎に抄録が作成された。いずれのグループでも活発な議論がなされ、短い時間ではあったが各グループで特徴のある抄録が作成された。



グループワークをする参加者

今後学術委員会では、臨床現場にて生じた疑問に対し、研究計画をもとに研究を進め、その成果を学会等で発表できるスキルを身に着けるためのサポート研修会を行っていく。

令和6年度福岡県総合防災訓練

災害・感染対策委員会 委員 大石 博美

6月2日(日)、福岡県・田川市・香春町が主催する、令和6年度福岡県総合防災訓練が田川市および香春町の訓練会場にて実施された。短時間記録的大雨とマグニチュード6.9、震度6強の直下型地震の発生を想定した訓練が行われた。地域住民による訓練を中心に、県行政、消防、警察、自衛隊、医療、通信、物流等の災害に係わる各関係機関が参加し、実際の災害を想定し活動した。福岡県薬剤師会は、医師、薬剤師、看護師の3人1組チームで、医師の診察および災害処方箋発行のフォロー、モバイルファーマシーでの災害処方箋による調剤、福岡県庁の災害対策本部での災害薬事コーディネーター活動を行い、展示ブースでは、災害時の薬剤師活動の啓発と経口補水液の提供を熱中症の注意喚起と併せて行った。また、福岡市薬剤師会も避難所横にモバイルファーマシーを設置、田川薬剤師会は避難所の環境衛生検査を中心とした活動を行った。

災害処方箋に対応する訓練では、モバイルファーマシーの在庫医薬品リストを基にした災害処方箋発行のフォローや避難者の服用薬の確認等だけでなく、診察チーム薬剤師とモバイルファーマシー常駐薬剤師がトランシーバーを用いて交信し、疑義照会や在庫医薬品の確認等も行った。さらに、福岡県薬剤師会と福岡市薬剤師会のモバイルファーマシー同士で情報共有し、医薬品の在庫状況確認を想定した訓練も行った。

また、全体の情報共有の訓練として、県庁災害対策本部の災害薬事コーディネーター、福岡県庁薬務課担当者、福岡県薬剤師会モバイルファーマシー、福岡市薬剤師会モバイルファーマシーの間で、D-CSS^{※注}を用いてクロノロジーを共有し、被災状況、被災想定地域の医薬品卸の稼働状況、被災想定地域の薬局インフラ機能の状況、被災想定地域での災害薬事活動等に関する情報をリアルタイムで把握する訓練も行った。

当日は天気にも恵まれ、多くの県民が訓練に参加し、関係機関の展示を見学した。県行政を中心とした関係機関の災害への備えに触れることで、県民の防災意識の向上につながるような訓練にもなった。

最後に、今回の訓練のように、実際の活動に近い形で多職種と連携したうえでの訓練を行うことにより、災害時の薬事活動の質の向上を図り、実際の災害時にも地域住民に対して質の高い薬物治療や公衆衛生を提供することが出来ると考える。しかし、そのためには、同様の訓練等に定期的、継続的に参加し、日頃から緊急時の対応を意識することも重要であることを付け加えておく。



災害処方箋を受け付ける訓練

注) D-CSS (Disaster-Chronology Sharing System) : 災害時に用いられるクロノロジーは、汎用性のある記録ツールであり、本部を通り過ぎていく情報を時刻とともに記録する。その目的は、更新された情報の共有化、時系列に沿った情報の整理、上位本部への報告である。D-CSSは、これらの目的に沿いながらも、本部と災害拠点の情報共有のタイムラグを解決するために開発された。

福岡大学薬学部 救急・災害医療薬学研究室より引用

令和6年度福岡県総合防災訓練

田川薬剤師会 会長 中原 学

6月2日(日) 令和6年度福岡県総合防災訓練が、田川地区および福岡県庁にて開催された。毎年度県内各地で開催されるこの訓練が田川で開催されるのは34年振りとなる。

災害時における県、市町村、防災関係機関との連携や技術向上、県民に広く防災意識と啓発を図ることを目的としており、自衛隊、警察、消防、医療関係団体など約70の団体、総人数1,400人の大規模な訓練となった。田川地区では、田川市民会館、田川中央公園、香春思永館（義務教育学校）が会場となり、1時間に約130ミリの記録的短時間豪雨により、田川市および香春町を中心に浸水被害、マグニチュード6.9最大震度6強の直下型地震により、家屋の倒壊、火災などが発生した想定で訓練が行われた。薬剤師会は田川薬剤師会の他に、福岡県薬剤師会、福岡市薬剤師会が、参加し、モバイルファーマシーの運営、災害処方箋、クロノロジー、薬剤師会ブースにおいて「災害時における薬剤師の役割」のPR活動等を行った。また開催時間の後半では全ての薬剤師会が合同で、モバイルファーマシーの運営や災害処方箋発行から調剤、投薬、クロノロジー作成までの流れを訓練することが出来た。

田川薬剤師会は、主に避難所における環境検査と指導助言を行い、結果を本部に報告、避難者の健康やお薬に関する相談応需を行った。検査項目は、夏季と冬季を想定し、温度、相対湿度、二酸化炭素、水道水の残留塩素等、照度、騒音、浮遊粉じん、ホルムアルデヒド、一酸化炭素、気流で、基準値は建築物環境衛生管理基準に従った。検査結果としては、二酸化炭素、騒音、気流、照度が基準値不適合となったが、実際の災害時避難所ではさらに多くの人が出入りして密になる可能性が高く、夏期、冬期、夜間、また避難所生活が長くなることで発生する衛生問題や、感染症のまん延を想像すると、環境衛生検査による状況確認や、状況悪化に対する予防策や改善に対する指導助言の重要性は極めて高い。その際には、学校薬剤師スキルのある薬剤師の積極的な活動が求められる。

反省点としては、始動時に多職種に対して行う挨拶が遅れ、活動場所の確保に手間取り活動開始が遅れたり、多職種との連携がとりにくかったりした。それに加え、メンバー内での活動計画



環境検査を行った田川薬剤師会メンバー

や事前打ち合わせ不足が原因で、多くの人や物で混雑する避難所での活動がスムーズに行えなかった。その他、避難所やその近辺で携帯電話の電波が入りにくい等思いがけない事態も発生した。実際の災害時には想像以上に過酷な環境での活動となるであろうが、今回の防災訓練によって、挨拶を含め初動の重要性、多職種間やチーム内でのコミュニケーションの大切さ、迅速な活動計画や打ち合わせの必要性、加えて繰り返し訓練を行う意義を感じることが出来た。

「福岡県禁煙相談員養成研修」の開催

「令和6年度福岡県たばこ対策事業」の実施に伴い、禁煙希望者からの相談に応じるとともに、たばこに関する情報提供を行う「禁煙相談員」を養成するため、福岡県保健医療介護部健康増進課と共催にて、「禁煙相談員養成研修」を下記のとおり開催いたします。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

日 時：令和6年8月25日(日) 13時00分から15時45分

開催方法：福岡県薬剤師会館（ハイブリッド開催）

内 容：1. 「歯科医院での禁煙支援」

たかぎ歯科医院 院長 高木 景子

2. 「禁煙コーチング－医者に頼らずガチで禁煙サポートしてみませんか－」

日本臨床コーチング研究会 理事 原 隆亮

参 加 費：会員1,000円・非会員3,000円（事前振込）

申込期間：7月16日（月）14時から8月16日（金）17時

申込方法：研修プラットフォームより登録後お申し込みください

【<https://nichiyaku.manaable.com>】

ログイン・新規登録＞研修を探す＞当研修会をクリック後お申し込みください

研修単位：日本薬剤師研修センターに単位を申請中（1単位）

そ の 他：1）研修修了者には、福岡県知事・福岡県薬剤師会会長連名による修了証書を発行します

2）新規受講薬局には「禁煙相談員」のいる薬局（卒煙サポート薬局）であることを明示するための登録証とステッカーを研修会終了後配布いたします

「薬剤師認知症対応力向上研修」の開催

厚生労働省が公表した新オレンジプランでは、認知症の人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で自分らしく暮らし続けることができる社会の実現を目指しています。本研修では、認知症の疑いのある人に早期に気づき、かかりつけ医等と連携して対応するとともに、その後も状況に応じた適切な薬学的管理を行い、支援体制構築の担い手となることを目的としています。

また、今回は令和6年1月1日に施行された「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」（認知症基本法）も反映させた内容へ一部変更となっております。その他、令和6年度診療報酬改定において新設された在宅薬学総合体制加算の施設基準に、定期的に在宅業務に関する外部の学術研修（認知症等）を受講することが望ましい旨が追加となっておりますので、本研修をご活用ください。

記

日 時：令和6年8月31日（土）15時00分から17時05分

※14時30分より受付開始

開催方法：福岡県薬剤師会館（ハイブリッド開催）

内 容：「認知症高齢者の基礎知識とその対応」（仮題）

公益社団法人福岡県医師会 理事 田中 耕太郎

「認知症の薬学的管理と薬剤師の役割」

公益社団法人福岡県薬剤師会 地域医療連携委員 吉永 美恵

「薬剤師認知症対応力向上研修－制度編－」

福岡県保健医療介護部高齢者地域包括ケア推進課

在宅介護・予防係 係長 山田 昭一

参 加 費：会員、非会員 無料

申込期間：7月26日（金）14時から8月23日（金）17時まで

申込方法：URL：<https://nichiyaku.manaable.com>

ログイン・新規登録＞研修を探す＞当研修会をクリック後お申し込みください

定 員：会場 50人・Web 定員なし

研修単位：日本薬剤師研修センターに単位を申請中（1単位）

修了証：後日、郵送にてお送りいたします

Check !

本会主催のWeb研修 受講について 日本薬剤師会研修プラットフォーム

本会主催のWeb研修受講時に、Zoomログインを行う際、「日薬研修ID」の入力が必要となります。
令和6年4月以降の研修会では「日薬研修ID」の入力が必須となります。研修会当日に慌てることがないように、事前に研修IDの記載場所をご確認ください。

【Zoom】
ログイン画面

日薬研修IDを入力
(MB以下の数字をコピーして貼り付けてください)

【研修プラットフォーム】
利用者画面

- 研修を探す
- マイページ
- 自分の研修
- 個人を払い
- 個人設定
- お知らせ

ヘルプ

お知らせ

福岡太郎

MB-000017

日薬研修ID

(MB-*****)

2件

今月もがんばりました！

直近の受講予定

直近の受講予定はありません。

2023年に修了した研修

研修名	修了日	評価
研修1	2023.1.1	4.5
研修2	2023.2.1	4.0
研修3	2023.3.1	4.2
研修4	2023.4.1	4.1
研修5	2023.5.1	4.3
研修6	2023.6.1	4.4
研修7	2023.7.1	4.5
研修8	2023.8.1	4.6
研修9	2023.9.1	4.7
研修10	2023.10.1	4.8
研修11	2023.11.1	4.9
研修12	2023.12.1	5.0

プラットフォームにログイン後、画面右上のご自身のお名前の下に表示されています

第6回 健康日本21・医療安全セミナー

- 1) 開催日時：令和6年8月18日(日) 12時～17時
- 2) 開催方法：現地開催のみ（WEB配信無し）
北九州国際会議場 1階「メインホール」
(北九州市小倉北区浅野3-9-30 TEL 093-541-5931)
- 3) 聴講料：所属薬剤師会会員 無料
非会員：3,000円(事前振込)
- 4) 申込先：<https://forms.gle/hEJFSeWuZQJeGMAN6>
または、右側のQRコードより登録
※座席指定のため当日受付はありません

※入力後、Googleフォームからの返信メールが届かない場合は何度も入力をせず、メールまたは電話にて当会へお問い合わせください。
- 5) 申込期間：令和6年7月1日(月)～8月5日(月) 15時
- 6) 研修単位：3単位(申請中)
※PECS(薬剤師研修・認定システム)への薬剤師登録が必須です。
単位付与を希望される場合は、登録完了後に受講してください。
- 7) 定員：350人程度 定員超過の場合は会員優先となります。

【講演内容】

- 12:00～12:10 会長挨拶
- 12:10～13:40 高齢者総合機能評価を薬物療法に活かす
～多職種に向けた訪問薬剤管理指導に必要なこと～
講師：国立研究開発法人 国立長寿医療研究センター
長寿医療研修部 高齢者薬学教育研修室長 溝神 文博
- 13:40～13:50 (休憩)
- 13:50～15:20 健康日本21(第二次)の評価と健康日本21(第三次)について
講師：厚生労働省 健康・生活衛生局 健康課 課長補佐 寺井 愛
- 15:20～15:30 (休憩)
- 15:30～17:00 令和6年度調剤報酬改定について～日本薬剤師会が目指したもの～
講師：公益社団法人 日本薬剤師会副会長 森 昌平

<連絡先>

公益社団法人北九州市薬剤師会

e-mail: kpa@siyaku.org

電話：093-651-2255 FAX：093-651-4566

薬局業界特化型 e ラーニング

“CBCollege”

「あした」を自ら創造する組織のための
「学び」と「交流」の場

薬局業界特化型 e ラーニング

“CBCollege” 3つの強み

変化の激しい薬局業界において、人材への投資は必要不可欠です。薬局人材に対して継続的な知識の習得を促進するためには、学びを可視化し、かつ成長を実感させることが有効です。C B Collegeは、従業員の内発的な学びの原動力をご提供いたします。

POINT

01

「隙間時間」に「これから」
知っておくべきテーマを学べる！



薬局業界に特化したC B コンサルティングだからこその実践的なコンテンツが充実。社会人一般として持っているべき対人スキルやビジネスマナーはもちろんのこと、薬局向けとして、電子処方箋をはじめとした医療DXや人事制度、マーケット分析などの研修が受け放題。他の薬局の取り組み紹介などもあり、わかりやすい動画を隙間時間にインプットできるため、効果の高い従業員教育が実現できます。

POINT

02

明日から業務でアウトプットできる！
薬剤師・従業員が成果を出せる！



薬剤師・従業員にインプットだけでなく、アウトプットも行ってもらいたい。そんな経営者様に好評なのが、ライブ型の実践研修トレーニング。プロの講師や他業界の参加者との同時研修では、自社内とは違った視点の新鮮なフィードバックを受けられます。インプットとアウトプットを重ねることで、研修効果も倍増します。

POINT

03

店舗間の差やOJTの属人化を防ぎ、
自社独自の教育プログラムを作成！



どなたでも簡単に、動画や資料を使ったオリジナルコースを作成できます。C B Collegeのコンテンツを自社独自の教育プログラムとして編集することにより、目指すべき方向性の共有や人材育成など、力を入れたい部分に対して効果の高い教育を実施できます。均一化した教育プログラムによって、OJTの属人化を防ぎます。

福岡県薬剤師会は、医療・介護・福祉業界の経営支援を行う株式会社 C B コンサルティングが提供する薬局向け教育動画サイト・コンテンツサービス「CB College」を、会員向け教育支援ツールとして導入しています。

CB College で できること

① 階層別に個人学習ができる

CB College は 経営者、開業希望者、管理・監督者、中堅・若手社員の階層別に数多くのコンテンツを揃えており、自分にあった動画を視聴することができます。

動画はチャプターに分かれ、短い時間で視聴できるので、隙間時間に学ぶことも可能です



階層別の「よくある課題」に合わせコースを配信。
業界特化のコンサル会社が構築する体系的トレーニングメニューで学べる

経営者	調剤薬局はなぜつぶる？ 経営者必読の経営戦略	これからの中小薬局に必要な 人事評価と教育制度	メディカルパートナー活用	管理職が押さえておくべき労働法	調剤薬局の経営戦略（前編） 売上向上とコスト削減	調剤薬局の経営戦略（後編） 新サービスと収益拡大
開業希望者	調剤薬局 M & A における 事業価値評価	財務基礎（前編）	財務基礎（後編）	TOPの心構えと コミュニケーション力	調剤薬局のためのマーケット 分析入門（PEST分析）	業界未来と事業承継の注意点
管理監督者	マネージャーコース マネージャーの役割とスキル	押さえておくべき労働法	メンタルヘルス 対策コース マネジメント	強い組織の作り方講座	事例ディスカッション 『Z世代の人才培养』	⑥ 創造的なチームを創り出す 7つの習慣
若手中堅	知らないといけない！ 社会人基礎中の基礎コース	セルフマネジメント 実践講座	調剤薬局の経営戦略（前編）	エフエムエムエフ講座 『調剤の上昇する人材の方法』	PowerPointの基本操作 4ステップで学ぶ	現場配属前の 上司先輩との コミュニケーションアップコース

マーケティング



- 調剤薬局のためのマーケット分析入門
- 薬局業界は今後どうなる？
市場分析から見える業界未来と事業承継の注意点
- 見落としがちな薬局マーケティング講座

— etc. —

経営戦略



- これからの薬局業界を乗り切るための
「虫の目・鳥の目・魚の目」
- ＜トークセッション＞生き残る中小薬局の
“あした”を考える
- 《事例紹介》究極の地域薬局を目指す、
ある中小薬局の取り組み

— etc. —

組織管理



- これからの中小薬局に必要な人事評価と教育制度
- 薬局経営者のための「人事制度」
～全体像とその進め方～
- 統計からみる人事制度

— etc. —

コミュニケーション



- ビジネスマナー講座『好感を呼ぶ言葉遣い』
- 1 on 1 コミュニケーション強化
- 実践コミュニケーション力強化レッスン

— etc. —

医療DX



- 薬局経営DX～気をつけたい3つの誤解～
- 電子処方箋モデル事業参加薬局が語る
電子処方箋対応の必要性和可能性
- 薬剤師の付加価値向上のためのDX

— etc. —

会計・ファイナンス



- 財務基礎入門コース
- 調剤薬局M & Aにおける事業価値評価
- 《社労士が解説》5分で判断！
知っておきたい助成金制度

— etc. —

② オンライントレーニングを受講できる

オンライントレーニングのプログラム数は約 100 本と充実。

トレーニング内容はビジネススキル、マネジメント、対面研修など様々で、薬業界以外の方も参加するため、異業種との交流を深めることもできます。

興味のあるトレーニングがきっと見つかるはずです

オンライントレーニング開催スケジュール

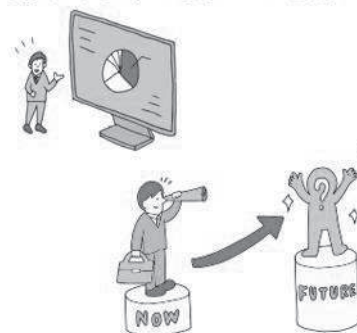
開催日	カテゴリー	タイトル	タイプ
07月03日(水) 13:00~14:00	ビジネスマインド	自らの主体性を発揮させる講座	講座
07月03日(水) 13:00~14:00	ビジネスマナー	信頼される電話応対レッスン	レッスン
07月03日(水) 15:00~16:00	ビジネスマインド	7つの習慣研修フォローアップ講座「第5の習慣」	講座
07月03日(水) 15:00~16:00	コミュニケーション	聞き上手になる聴く力レッスン	レッスン
07月03日(水) 17:00~17:30	ビジネスマナー	第一印象UPトレーニング	超実践トレーニング
07月08日(月) 11:00~12:00	マネジメント	行動が変わる叱り方レッスン①	レッスン
07月08日(月) 13:00~14:00	コミュニケーション	スマートに伝える話す力レッスン	レッスン
07月08日(月) 15:00~15:30	ビジネスマナー	ビジネス敬語トレーニング	超実践トレーニング
07月08日(月) 16:00~17:00	ビジネススキル	ゴール明示・業務分解レッスン	レッスン
07月09日(火) 11:00~12:00	マネジメント	部下との定期面談レッスン①	レッスン
07月09日(火) 11:00~12:00	ビジネスマナー	文章で伝える力を磨く書く力レッスン	レッスン
07月09日(火) 13:00~14:00	マネジメント	最強組織の作り方講座「3つの鉄則」②	講座
07月09日(火) 13:00~14:00	コミュニケーション	成果を持続し人を惹きつけるリーダーとは	ディスカッション
07月09日(火) 15:00~16:00	セールススキル	営業のためのクロージングレッスン①	レッスン
07月09日(火) 15:00~16:00	マネジメント	チームを動かす指示出しレッスン	レッスン
07月09日(火) 16:30~17:00	コミュニケーション	傾聴力強化トレーニング	超実践トレーニング
07月10日(水) 13:00~14:00	ビジネスマインド	フォローアップ講座	講座
07月10日(水) 15:00~16:00	リーダーシップマインド	動画で学ぶリーダーシップ「トリムタブ」～自分が起点となる	ディスカッション
07月12日(金) 11:00~12:00	ビジネススキル	指示受け・報告レッスン	レッスン
07月12日(金) 13:00~14:00	ビジネススキル	生産性UPのスケジューリングレッスン	レッスン
07月12日(金) 15:00~16:00	ビジネススキル	トラブル対応・プロセス改善レッスン	レッスン
07月17日(水) 11:00~12:00	マネジメント	理解する共感力アップレッスン	レッスン
07月17日(水) 13:00~14:00	ビジネスマナー	好感度UP！スマイルボイスレッスン	レッスン
07月17日(水) 15:00~16:00	ビジネスマナー	宴席・会食でのマナー講座	講座
07月17日(水) 15:00~16:00	コミュニケーション	【管理者専用】Smart Boarding操作説明	講座
07月17日(水) 17:00~18:00	マネジメント	伸ばす褒め方レッスン①	レッスン
07月19日(金) 11:00~12:00	マネジメント	事例ディスカッション『メンバーの生産性アップ』②	ディスカッション
07月19日(金) 13:00~14:00	マネジメント	PDCAマネジメント「PDCAが加速する会議運営」	講座
07月19日(金) 14:30~15:00	マネジメント	Iメッセージで褒めるトレーニング	超実践トレーニング
07月19日(金) 15:30~16:00	ビジネススキル	エレベーターピッチ（3分プレゼン）トレーニング	超実践トレーニング
07月23日(火) 11:00~12:00	コミュニケーション	コーチングを活用するコミュニケーションとは	ディスカッション
07月23日(火) 13:00~14:00	ビジネスマインド	今いる場所で成果をだすためには	講座
07月23日(火) 15:00~16:00	ビジネススキル	ロジカルシンキング講座「INPUT・THINK」	講座
07月24日(水) 15:00~16:00	マネジメント	意欲UPの目標設定面談レッスン①	レッスン
07月24日(水) 16:30~17:00	ビジネススキル	課題発見力を鍛える質問トレーニング	超実践トレーニング

※プログラムの一部

PCでの利用だけでなく、スマホでも視聴可能で
移動時間や空き時間に活用できる仕様となっております



「隙間時間」に「これから」
知っておくべきテーマを学べる！



【会費】

半年コース： 5,000円（税込）

1年コース：10,000円（税込） ※833円/月換算

【申込方法】

日薬研修プラットフォームより新規登録後お申し込みください。
（ログイン・新規登録＞研修を探す＞当研修会をクリック後お申し込み下さい）

【コンテンツ利用開始】

毎月20日までにご入金が確認できた方に、翌月1日より利用可能なアカウント
情報をお知らせいたします。

半年コース（6ヶ月）・・・利用開始月から6ヶ月後の月末

1年コース（12ヶ月）・・・利用開始月から12ヶ月後の月末

図書館旋

〈お申込みは、各地区薬剤師会まで〉

保険調剤Q & A 令和6年版

1. 発行：(株)じほう
2. 判型：A5判、約480頁
3. 価格：定価 2,970円（税込10%）
会員価格 2,530円（税込10%）
（本体価格2,300円）
4. 送料：地区薬剤師会に一括送付の場合は無料
個人の場合、10冊以上を一括同一箇所に送付の場合は無料
1～9冊までは、1回の発送につき一律550円（税込10%）

ハイリスク薬チェックシート第5版

1. 発行：(株)じほう
2. 判型：B5判、410頁
3. 価格：定価 4,730円（税込10%）
会員価格 4,180円（税込10%）
（本体価格3,800円）
4. 送料：地区薬剤師会に一括送付の場合は無料
個人の場合、10冊以上を一括同一箇所に送付の場合は無料
1～9冊までは、1回の発送につき一律550円（税込10%）

保険薬局Q & A 令和6年版

1. 発行：(株)じほう
2. 判型：A5判、約350頁
3. 価格：定価 2,640円（税込10%）
会員価格 2,310円（税込10%）
（本体価格2,100円）
4. 送料：地区薬剤師会に一括送付の場合は無料
個人の場合、10冊以上を一括同一箇所に送付の場合は無料
1～9冊までは、1回の発送につき一律550円（税込10%）

県民セミナー

第70回くすりのセミナー福岡 開催のご案内

日 時

令和6年8月17日(土)

開場／14時30分

開演／15時

(1時間30分程度)

入場無料

場 所

アクロス福岡7階 大会議室

先着
100人

テーマ

①「これで腸も頭も超スッキリ!
～便秘の治療薬について～」

浜の町病院 薬剤部 古賀 清弘

便秘を経験されたことがある方は多いと思います。便秘には様々な原因があり、時には重大な病気が隠れていることもありますので、便秘を正しく知ることが大切です。本日は皆さんの腸も頭もスッキリするような話をさせていただきます。

②「上手に使おう健康食品」

福岡県薬剤師会薬事情報センター 松永 ゆかり

紅麹で話題となっているように、健康食品やサプリメントでも健康被害を起こすことがあります。今回は、健康食品の分類や医薬品との違い、薬との飲み合わせなど、健康食品を使う時のポイントや注意点についてお話しします。



★ 主 催 福岡県薬剤師会・福岡県病院薬剤師会

★ 問合せ先 福岡県薬剤師会 092-271-3791



広 告



福岡大学大学院薬学研究科 入学試験案内

健康薬科学専攻修士課程

I. 健康創薬科学プログラム

学際的な健康科学領域において活躍できる健康科学関連研究者・技術者、創薬科学関係研究者・技術者、医薬品情報担当者、健康食品・香粧品等安全管理者等の人材を育成する。

【対象】理学、工学、薬学（薬科学科・旧4年制）スポーツ科学、栄養学等の学部卒業者

II. 総合薬学プログラム

現場薬剤師を主な対象者とし、最先端医・薬学を体系的かつ系統的に講義及び演習で修得し、課題研究活動を通じて情報構築・評価能力を培い、先導的薬剤師として地域に密着した医療貢献ができる現場薬剤師を養成する。

【対象】旧4年制薬学部卒業者

入試科目

<一般入学試験>

（対象）薬科学科・旧4年制薬学部卒 / 英語・専門科目（2科目）・面接（口頭試問）

（対象）上記以外の出身者 / 英語・専門科目（1科目）・基礎科目（1科目）・面接（口頭試問）

<社会人入学試験> / 小論文・面接（口頭試問）

薬学専攻博士課程

I. 医療薬剤師プログラム

個別化医療推進薬剤師、医療系薬学教育者、医療行政推進薬剤師、トランスレーショナルリサーチ推進研究者・技術開発者、レギュラトリーサイエンス研究者等の人材育成を目指す。

【対象】6年制薬学部卒業見込み者及び卒業者、旧4年制薬学部卒業の修士課程修了者、及び個別の入学資格審査により受験資格が認められた者

II. 薬学研究者プログラム

創薬研究、薬物治療の最適化などに従事する医療系薬学研究者、基礎系薬学教育者、健康科学・環境衛生化学等研究者、行政担当者、製薬企業研究開発従事者等の人材育成を目指す。

【対象】Iのプログラムの対象者に加え、薬剤師免許をもたない他学部出身の修士課程修了者

入試科目

<一般入学試験> / 英語・専門科目（2科目）・面接（口頭試問）

<社会人入学試験> / 小論文・面接（口頭試問）

入 試 日 程

秋季

<試験日> 2024年9月9日（月）

<出願期間> 2024年8月22日（木）～8月26日（月）
（土・日は除く）

春季

<試験日> 2025年2月18日（火）

<出願期間> 2025年1月20日（月）～1月23日（木）

※入学試験要項は大学院 HP<<https://www.grad.fukuoka-u.ac.jp/nyushi/youkou.html>>

研究科詳細は薬学研究科 HP<http://www.pha.fukuoka-u.ac.jp/yakugakukenkkyu_top>をご覧ください。

【お問い合わせ】学校法人福岡大学 大学院事務課 092-871-6631（内線 2913～2916）



調剤薬局向けレセコン連動型POSレジスター



全国の調剤薬局様1000店舗以上の導入実績！

福岡営業所を開設いたしました！

デモのお申し込みはこちらまで

fukuoka@alljrs.co.jp

IT補助金が
利用できます

詳しくは
WEBサイトへ

日本リテイルシステム

検索



日本リテイルシステム株式会社 福岡営業所
〒810-0073 福岡市中央区舞鶴2-2-6 MAiZURU PLACE 6F
Tel:092-753-6644 Fax:092-753-6673

「薬剤師が薬局をさがす」 ニックネームで登録OK! 「薬局が薬剤師をさがす」 薬剤師会の運営する薬剤師求人サイト ファーマファインドJOB

薬剤師会の運営する薬剤師求人サイトです。登録費用・成功報酬も一切かかりません。

WEBアドレス <https://www.pharmafind.jp/job/>

ファーマファインドJOB

検索

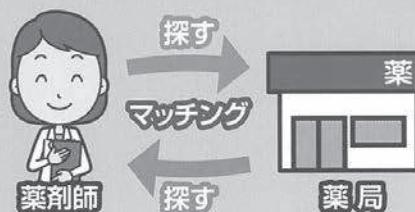


薬剤師会の運営する薬剤師求人サイト
P ファーマファインドJOB

ご利用案内



求人/求職者の
ベストマッチング
を実現！



登録費用
成功報酬

0 円 [無料]



そんな心配を
解消

しかも簡単 **3** ステップ

STEP1

ご登録/承認

PC、タブレット、スマートフォンに対応！
必要事項の入力後、承認メールが届いたらすぐにご利用可能です。

STEP2

マッチング

希望条件にマッチした求人・求職情報が一覧形式で確認できるだけでなく、
定期的にお知らせメールを受け取ることも出来ます。

STEP3

応募/スカウト

メッセージ機能で求人者・求職者の応募、スカウトなど、
やりとりがスムーズに行えます。

面接

就職成功



当事業は「(公社)福岡県薬剤師会 薬剤師無料職業紹介所」の事業です。

The 83rd Kyushu Yamaguchi Pharmacy Conference



燃ゆる想い

～地域医療の担い手として～

第83回

九州山口薬学大会

▶ 会期

2024/10/13^日・14^{月・祝}

▶ 会場

かごしま県民交流センター

▶ 大会実行委員会 実行委員長

小田原 一弘

公益社団法人
鹿児島県薬剤師会 会長

主催事務局 公益社団法人 鹿児島県薬剤師会 〒890-8589 鹿児島県鹿児島市与次郎2丁目8番15号 TEL 099-257-8288

運営事務局 株式会社コングレ九州支社 〒810-0001 福岡市中央区天神1-9-17-11F TEL 092-718-3531 FAX 092-716-7143 E-mail kyuyama-kagoshima83@congre.co.jp

<http://www.congre.co.jp/kyuyama-kagoshima83/>





第57回日本薬剤師会学術大会「彩」 薬剤師の未来を彩る大会にします

第57回日本薬剤師会学術大会 大会運営委員長・
一般社団法人 埼玉県薬剤師会 会長 さいとう ゆうじ 齊藤 祐次

福岡県薬剤師会の皆様におかれましては益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。

本年9月22日(日)、23日(月・祝)の2日間、さいたま市において第57回日本薬剤師会学術大会を開催いたします。大会テーマに「彩」を掲げ、本年6月の診療報酬、介護報酬同時改定を経て新たなステージに進む薬剤師の行く先を彩りと希望あふれる未来に導く大会となるよう関係者一同準備を進めております。

日本薬剤師会学術大会は今回が第57回大会となりますが、実は埼玉県での開催は初めてであり、過去においては多くの来場者を収容する適切な場所の確保等の観点から主催の名乗りを見送ってまいりました。一方でさいたま市の大宮駅は新幹線ほか多くの鉄道路線が乗り入れ、飛行機を利用した空港からの移動でも利便性の高い全国屈指の交通の要衝となり、国内各地から多くの来場者がお越しいただける絶好の場所となりました。

メインテーマは「彩(さい)」です。「彩の国埼玉県で行われる、薬剤師の未来を彩る大会」という願いを込めました。

この埼玉で薬剤師による学術発表を通じて「薬剤師の未来を彩る大会にしたい」というコンセプトです。その本質は「薬剤師の未来を拓くのは薬剤師」です。前段の「薬剤師の未来を」を想像したときは、皆様の頭の中には御自身の将来の姿が思い浮かぶことと思います。今の薬剤師業務が発展している姿や、新たなステージで新たな薬剤師としての役割を担う姿が想像できるのではないのでしょうか。「薬剤師の未来を」と聞いたときには、御自身の心に描く夢や希望がその答えとなるはずです。

後段の「拓くのは薬剤師」を想像したとき、どんな顔が浮かびますか？ここでの登場人物もあなた御自身である必要があります。正直なところ、今現在の薬剤師を取り巻く環境は大変厳しいと考えています。ただし、厳しい状況におかれているのは全ての薬剤師です。それはどこかの誰かではなく皆様も一緒です。この状況から「薬剤師の未来を拓く」とするならば、薬剤師である皆様一人ひとりが行動していかなければなりません。

今回の大会の見どころを御紹介します。参加方法は今回も、コロナ禍で活用されたハイブリッド 방식을継続します。大会開会式、特別記念講演、日薬会長講演、特別講演および分科会はリアルタイムWeb配信し、現地では配信映像を利用したサテライト会場でも開会式や講演会、一部の分科会を視聴できるようにします。

特別記念講演は、埼玉県出身で当時の天皇(現上皇)陛下の心臓手術をされた順天堂大学医学部心臓血管外科の天野篤特任教授の御講演「人生100年を彩るために 心臓との付き合い方」を予定しています。日薬会長講演として岩月進会長の講演、特別講演として松本吉郎日本医師会会長、第8次医療計画の検討会の副座長を務められた埼玉県立大学の田中滋理事長、薬剤師で自転

第57回日本薬剤師会学術大会

車ロードレース・パラサイクリング選手の杉浦佳子氏の御講演が決定しています。また、20の分科会を予定しています。今年元日に発災した能登半島地震の災害支援についての分科会、チーム医療に専門性を活かす薬剤師の活動の分科会、治療をサポートする医療機器の役割に関する分科会、処方についてアカデミック・ディテリングに考える分科会、緊急避妊薬の現状をお知らせする分科会、薬薬連携でつなぐ心不全療養の分科会、地域在宅医療におけるACP問題を考える分科会など幅広く興味を持てる分科会を揃えてお待ちしております。

今回、日本薬剤師会学術大会初の取り組みとし、研修単位の取得方法を多様化しました。今までの大会では、現地参加、Web参加とも初日は4単位、2日目は2単位でしたが、全国各地から御参集いただく方々が入場時刻に間に合わないケースを考慮して、現地参加の初日の午後で2単位を発行できるようにします。また、学術大会参加登録された方に限り、大会後一定期間オンデマンド配信を試行的に実施し研修単位を取得できるようにします。当日のWeb視聴、あるいは現地でのPECS登録でG01の研修単位を取得した方は対象外ですが、大会終了後に分科会の録画映像を見て、レポート提出など一定の基準をクリアすると、「埼玉県薬剤師生涯研修センター」の発行するG15の研修単位を最大5単位発行します。なお、このオンデマンド配信は、単位の発行には関係なく学術大会参加登録者全員が視聴できるシステムを用意し、例えば大会当日同時刻に進行だったため見逃した分科会や、講演内容を見直して理解を深めたい分科会などを自宅で見返すことができるよう準備を進めています。詳細につきましては、学術大会開催前に日本薬剤師会雑誌および大会ホームページでお知らせします。

3年ぶりに開催する大会初日の懇親会では、翔んで埼玉のテーマソングを歌っていました「はなわ」さんが出演し、懇親会に花を添えていただくことが決定しています。是非、皆様に御出席いただきたいと思います。

埼玉県は映画やアニメなどでも話題性が高い地域で、多大な文化と歴史があります。大会会場近くには大宮氷川神社、大宮盆栽美術館、鉄道博物館、造幣さいたま博物館、岩槻人形博物館があります。少し足を延ばして訪れて

いただきたいムーンバレーパーク、角川武蔵野ミュージアム、川越蔵造の街並みは、2コースのオプションツアーを企画しましたので、大会ホームページで御確認ください。



大会のホームページ
<https://www.c-linkage.co.jp/jpa57/>

埼玉県のお土産をお考えの方、大宮ソニックシティビル2階にある埼玉物産観光館「そびあ」が、学術大会参加者のために通常日曜日は休みのところを開店して、皆様をお迎えいたします。また、さいたまスーパーアリーナの会場内に埼玉県物産販売コーナーを設けますので、御利用ください。

第57回日本薬剤師会学術大会

1日目【9月22日(日)】

※口頭発表・セミナー等、時間の変更がある場合があります。

施設			フロア	会場名		8:00		8:30	9:00	9:30	10:00	10:30	11:00	11:30	12:00	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	16:30	17:00	17:30	18:00	18:30	19:00	19:30		
大宮ソニックスシティ	ホール棟	1F	第1会場	大ホール						開会式・式典		特別記念講演 (天野篤先生)				ランチョン セミナー1 大正製薬 株式会社			特別講演1		特別講演2											
		2F	第2会場	小ホール						開会式・式典 (中継)		特別記念講演 (中継)				ランチョン セミナー2 塩野義製薬 株式会社			分科会① チームで関わるACP, チームで支える スピリチュアルケア				分科会② 地域の健康増進と セルフメディケーション推進 への薬剤師の関与									
		4F	第3会場	国際 会議場						開会式・式典 (中継)		特別記念講演 (中継)				ランチョン セミナー3 大塚製薬株式会社 ニューラッシュティ カス事業部			分科会③ 薬局薬剤師に必要な 医療安全の推進に 向けた取り組み				分科会④ がん患者と向き合う薬剤師 ～発揮すべき専門性～									
	ビル棟	4F	第4会場	市民 ホール 401+402						開会式・式典 (中継)		特別記念講演 (中継)				ランチョン セミナー4 ワイ・メックス 株式会社			分科会⑤ 今後の感染症対策に かかわる薬剤師の役割				分科会⑥ 女性の健康課題と 薬剤師による支援									
		4F	第5会場	市民 ホール 403+404						開会式・式典 (中継)		特別記念講演 (中継)				ランチョン セミナー5 高田製薬 株式会社			口頭発表1		口頭発表2				口頭発表3		口頭発表4					
	バレスホテル大宮	3F	第6会場	チェリールーム (東)													ランチョン セミナー6 大塚製薬 株式会社			分科会⑦ 薬剤師による アンチ・ドーピング活動 の充実				分科会⑧ 多職種連携で支える 地域医療～地域連携薬局に よる心不全患者への支援～								
		3F	第7会場	チェリールーム (西)													ランチョン セミナー7 東日本メディコム 株式会社			分科会⑨ チーム医療や地域医療 の中で活躍する薬剤師				分科会⑩ 彩(いろどり)ある 未来・地域・社会で 活躍する医療人の養成								
		4F	第8会場	ローズルーム (西)													ランチョン セミナー8 サントリーウエル ネス株式会社			口頭発表5										懇親会		
		4F	第9会場	ローズルーム (中)													ランチョン セミナー9 塩野義製薬 株式会社			口頭発表6												
		4F	第10会場	ローズルーム (東)													ランチョン セミナー10 株式会社EM システムズ			口頭発表7												
スパ・アリーナ TOURIO	4F	第11会場	STUDIO1+2						開会式・式典 (中継)		特別記念講演 (中継)				ランチョン セミナー11 久光製薬 株式会社			分科会⑪ 医療DXが目指す未来と 薬剤師の役割				分科会⑫ 医療機器プログラム (SaMD)を用いた 新たな取り組み										
	4F	第12会場	SPACE4						開会式・式典 (中継)		特別記念講演 (中継)				ランチョン セミナー12 harmoni 株式会社			口頭発表8		口頭発表9				口頭発表10		口頭発表11						
	4F	第13会場	SPACE5						開会式・式典 (中継)		特別記念講演 (中継)						サテライト会場				サテライト会場											
さいたまスーパーアリーナ	コミュニティ アリーナ	ポスター 会場			ポスター貼付										ポスター閲覧										ポスター示説		ポスター 閲覧					
		展示会場			薬科機器展示、IT機器展示、書籍展示、埼玉県物産販売																											
		美術 作品展			美術作品展																											
		休憩 コーナー			休憩/視聴/ワークスペース (Wi-Fi完備)																											
				8:00	8:30	9:00	9:30	10:00	10:30	11:00	11:30	12:00	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	16:30	17:00	17:30	18:00	18:30	19:00	19:30					

第57回日本薬剤師会学術大会

2日目【9月23日（月・祝日）】

施設		フロア	会場名		8:00	8:30	9:00	9:30	10:00	10:30	11:00	11:30	12:00	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	16:30				
大宮ソニックスシティ	ホール棟	1F	第1会場	大ホール			日薬 会長 講演	特別講演3					分科会⑬ 学校における最近の 健康課題と学校薬剤師 の役割				県民公開講座									
		2F	第2会場	小ホール				分科会⑭ 処方提案に役立てる 基礎薬学を活用した 医薬品へのアプローチ					分科会⑮ 後発医薬品の供給問題と 安定供給に向けた対策													
		4F	第3会場	国際 会議場				口頭発表12		口頭発表13			口頭発表14	スイーツ セミナー 1 日本ベクトン・ ディキンソン 株式会社												
	ビル棟	4F	第4会場	市民 ホール 401+402				分科会⑯ 漢方を知って、薬剤師 としてのスキルを広げて みませんか?				口頭発表15	スイーツ セミナー 2 株式会社 ツムラ													
		4F	第5会場	市民 ホール 403+404				口頭発表16		口頭発表17			口頭発表18	スイーツ セミナー 3 株式会社 カケハシ												
パレスホテル大宮		3F	第6会場	チェリールー ム（東）				薬学生シンポジウム					県薬企画 「若手薬剤師が考える 「彩」ある職能の可能性」													
		3F	第7会場	チェリールー ム（西）																						
		4F	第8会場	ローズルーム （西）				口頭発表19		口頭発表20			口頭発表21	スイーツ セミナー 4 株式会社 アクシス												
		4F	第9会場	ローズルーム （中）				口頭発表22		口頭発表23			分科会⑰ 薬剤師が担う災害時の役割 ～能登半島地震をとして～													
		4F	第10会場	ローズルーム （東）				口頭発表24		口頭発表25			分科会⑱ 皆に繋ぐ小さな命 ～小児在宅医療の明るい 未来に向かって～													
スパーアリーナ TOURNO		4F	第11会場	STUDIO1+2				分科会⑲ 医薬品適正使用を推進する 薬剤師の活動					分科会⑳ 海外で彩とりどりに 活躍する薬剤師													
		4F	第12会場	SPACE4						口頭発表26			口頭発表27	スイーツ セミナー 5 日本化薬 株式会社												
		4F	第13会場	SPACE5			サテライト会場						サテライト会場													
さいたまスパーアリーナ		コミュニティアリーナ	ポスター 会場		ポスター閲覧						ポスター示説		ポスター 閲覧	ポスター 撤去												
			展示会場		薬科機器展示、IT機器展示、書籍展示、埼玉県物産販売																					
			美術 作品展		美術作品展																					
			休憩 コーナー		休憩／視聴／ワークスペース（Wi-Fi完備）																					
					8:00	8:30	9:00	9:30	10:00	10:30	11:00	11:30	12:00	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	16:30				

開催概要

1 会期 2024(令和6)年9月22日(日)～23日(月・祝)

2 会場 大宮ソニックシティ (〒330-8669 埼玉県さいたま市大宮区桜木町1-7-5)
パレスホテル大宮 (〒330-0854 埼玉県さいたま市大宮区桜木町 1-7-5)
さいたまスーパーアリーナ (〒330-0081 埼玉県さいたま市中央区新都心 8)
※開催方式は現地開催とWeb配信によるハイブリッド方式です。
大会開催後、一定期間オンデマンド配信を予定しています。

3 主催 公益社団法人日本薬剤師会、一般社団法人埼玉県薬剤師会

4 テーマ 「彩(さい)」

5 特別記念講演



演題：「人生100年を彩るために 心臓との付き合い方」

日程：2024(令和6)年9月22日(日) 11:00～12:00

会場：大宮ソニックシティ大ホール

講師：天野 篤 氏(医学博士・順天堂大学医学部心臓血管外科特任教授)

6 分科会テーマ

- ①チームで関わるACP、チームで支えるスピリチュアルケア
- ②地域の健康増進とセルフメディケーション推進への薬剤師の関与
- ③薬局薬剤師に必要な医療安全の推進に向けた取り組み
- ④がん患者と向き合う薬剤師～発揮すべき専門性～
- ⑤今後の感染症対策にかかわる薬剤師の役割
- ⑥女性の健康課題と薬剤師による支援
- ⑦薬剤師によるアンチ・ドーピング活動の充実
- ⑧多職種連携で支える地域医療～地域連携薬局による心不全患者への支援～
- ⑨チーム医療や地域医療の中で活躍する薬剤師
- ⑩彩(いろどり)ある未来・地域・社会で活躍する医療人の養成
- ⑪医療DXが目指す未来と薬剤師の役割
- ⑫医療機器プログラム(SaMD)を用いた新たな取り組み
- ⑬学校における最近の健康課題と学校薬剤師の役割
- ⑭処方提案に役立てる基礎薬学を活用した医薬品へのアプローチ
- ⑮後発医薬品の供給問題と安定供給に向けた対策
- ⑯漢方を知って、薬剤師としてのスキルを広げて見ませんか？

第57回日本薬剤師会学術大会

- ⑰薬剤師が担う災害時の役割～能登半島地震をとおして～
- ⑱皆で繋ぐ小さな命～小児在宅医療の明るい未来に向かって～
- ⑲医薬品適正使用を推進する薬剤師の活動
- ⑳海外で彩とりどりに活躍する薬剤師

注) 分科会番号は会場の都合等で変更される可能性があります。

7 県薬企画

「若手薬剤師が考える「彩」ある職能の可能性」

未来の医療を担う若手薬剤師による新たなビジネスモデル構築に向けて、若手の病院薬剤師、薬局薬剤師、ドラッグストア薬剤師が各領域の経験と知見をもとに、医療におけるビジネスモデルに彩のある未来の可能性を示します。

8 薬学生シンポジウム (予定)

「薬学生の未来に彩りを～災害医療から考える薬剤師のあり方～」

災害に遭遇した際に、私たちは何ができるのでしょうか？災害医療という題材から医療人の一員として必要な心構えを一緒に考えませんか。

○被災地でとるべき行動とは何か？薬学生が防災教室のために考案したカードゲーム「避難所サバイバル」で遊びながら、避難所における衛生問題や日用品で行う応急手当の方法を楽しく学びます。

○災害で起こりうる課題とは何か？本企画は、薬学生同士グループでディスカッションします。

医薬品の供給から薬事衛生に至るまで、これらの課題は未来の日常業務かもしれません。

非日常における活動を考える経験は、与えられた問題解決にとどまらず潜在的課題の発見力を養い、自分自身の将来を考えるきっかけとなることでしょう。薬学生が考える彩りある薬剤師の未知への挑戦です。

(一社) 日本薬学生連盟が主体となって企画したシンポジウムです。

広い会場を用意していますので、多くの学生の皆様の御参加をお待ちしています。

9 特別企画

「私と患者のエピソード～薬剤師 (医療事務) の立場から」

本大会では、薬剤師が日常業務で経験した、患者さんとの貴重なエピソードを通じて、薬剤師としての矜持を共有し、患者対応の引き出しを増やすことを目的に、大会に参加登録された方から「私と患者のエピソード」を募集することといたしました。

ご応募されたエピソードは、展示会場に掲示し、他の会員に読んでいただき今後の薬剤師業務の励みとしていただきたいと思います。

ご応募いただいた方の中から抽選で記念品をプレゼントいたします。応募方法および応募内容は、大会ホームページをご覧ください。

なお、『埼玉県薬剤師会_広報』公式Xアカウント (@saiyakau57) では、埼玉県会員の「私と患者のエピソード」を発信していますので、是非ご覧ください。

公式SNS (LINE・X) で情報発信しています。
是非フォローしてください！
リポスト、引用大歓迎です！



(LINE QRコード)



(X QRコード)

10 登録期限と大会参加費 (税込)

【事前参加登録】 11,000円 (学生1,000円)

事前参加登録は7月31日 (水) までです。

【通常・当日参加登録】 15,000円 (学生1,000円)

通常参加登録は8月7日 (水) から9月23日12時までです。

大会参加を予定されておられる方は、事前参加登録をお願いいたします。

11 懇親会 (税込)



日時：2024 (令和6) 年9月22日 (日) 19時開宴

会場：パレスホテル大宮 ローズルーム

参加費：【事前参加登録】 10,000円/学生5,000円

【当日参加登録】 12,000円/学生5,000円

定員：1,000人 (予定)

定員に達した場合には当日登録はできません。大会ホームページからお早めにお申し込みをお願いします。

懇親会では、映画「翔んで埼玉」のテーマソングを歌っている「はなわ」さんのステージパフォーマンスをお楽しみいただく予定です。

12 ランチョンセミナー、スイーツセミナー予約について

参加費無料、事前登録制：7月8日 (月) から登録を開始しています。

ランチョンセミナー、スイーツセミナーの予約につきましては、大会ホームページからお申し込みください。

13 Web参加方法

参加登録費の入金を確認できた参加者に、ライブ配信視聴システムについて大会開催1週間前頃に改めて案内します。

なお、参加登録時に発行される「ログインID」および「お問い合わせ番号」がライブ配信システムへのログインに必要となります。

第57回日本薬剤師会学術大会

14 研修受講単位の付与

付与の条件と単位数

【現地参加者】

- ① 1日目8:30~11:00までにPECS入場し、18:30~19:00にPECS退場した方
：日本薬剤師研修センター（以下、G01） 4単位
- ② 1日目11:00~14:00までにPECS入場し、18:30~19:00にPECS退場した方
：G01 2単位
- ③ 2日目8:00~9:20までにPECS入場し、13:50~14:30にPECS退場した方
：G01 2単位

【WEB参加者】

Web視聴可能プログラムは以下のとおりです。

- ・開会式・式典
- ・特別記念講演
- ・特別講演
- ・日薬会長講演
- ・分科会
- ① 1日目11:00までにWeb視聴開始、18:30以降Web視聴終了のログがある方
：G01 4単位、
- ② 1日目14:00までにWeb視聴開始、18:30以降Web視聴終了のログのある方
：G01 2単位、
- ③ 2日目9:20までにWeb視聴開始、13:50以降Web視聴終了のログのある方
：G01 2単位

注：ただし現地でPECSの入場退場の記録のない方に限ります。

また、①の方が、②を取得することはできません。

プログラム視聴例を以下に例示いたしますので、ご参考にしてください。

◎9月22日(日)(第1日目、全日)：4単位

いずれかの視聴例に従って視聴してください。

例1 ①特別記念講演

②特別講演1

③後半の分科会

例2 ①特別記念講演

②特別講演2

③後半の分科会

例3 ①特別記念講演

②前半の分科会

③後半の分科会

- 例4 ①特別記念講演
②特別講演1
③特別講演2
④後半分科会

◎9月22日(日)(第1日目、半日):2単位

- 例1 ①特別講演1
②後半の分科会
例2 ①特別講演2
②後半の分科会
例3 ①前半の分科会
②後半の分科会
例4 ①特別講演1
②特別講演2
③後半の分科会

◎9月23日(月・祝)(第2日目):2単位

- 例1 ①日薬会長講演
②特別講演3
③後半の分科会
例2 ①日薬会長講演
②前半の分科会
③後半の分科会
例3 ①特別講演3
②後半の分科会
例4 ①前半の分科会
②後半の分科会

第57回日本薬剤師会学術大会

【オンデマンド配信コンテンツの視聴】

第57回日本薬剤師会学術大会の20の分科会について、大会ホームページからオンデマンド配信コンテンツにアクセスできるようにします。1分科会の視聴で、埼玉県薬剤師生涯研修センター（以下、G15）1単位を付与します。

本大会におけるオンデマンド配信コンテンツ視聴の単位付与の上限は5単位です。また、G15の単位は、1分科会につき1つのレポート提出が必須となっています。

オンデマンド配信コンテンツを視聴してもレポートが期限内に提出されない場合は、単位は付与されません。

オンデマンド視聴方法や単位申請方法については、詳細が決まり次第、大会ホームページでお知らせいたします。

注：本大会でG01の単位が付与された方には、G15の単位は付与されません。

（注意）

オンデマンド配信コンテンツは、特別記念講演、特別講演、日薬会長講演と分科会です。オンデマンド配信コンテンツは、本大会に参加申込みをした方のみが視聴することができます。現地参加又はWeb参加し、G01単位を付与された方は、G15単位を申請できませんが、当日聴けなかった分科会や特別講演を視聴することができます。御活用ください。

15 大会に関するお問い合わせ先

●日本薬剤師会事務局学術大会係

公益社団法人日本薬剤師会

〒160-8389 東京都新宿区四谷三丁目3-1 四谷安田ビル7階

TEL：03-3353-1170 FAX：03-3353-6270

●第57回日本薬剤師会学術大会 事務局

一般社団法人埼玉県薬剤師会

〒330-0062 埼玉県さいたま市浦和区仲町3-5-1 埼玉県県民健康センター4階

TEL：048-827-0060 FAX：048-827-0063

●第57回日本薬剤師会学術大会 運営事務局

株式会社コンベンションリンケージ内

〒102-0075 東京都千代田区三番町2

TEL：03-3263-8688 FAX：03-3263-8693

E-mail：jpa57@c-linkage.co.jp